

東京歯科大学同窓会会報 第384号

目 次

グラビア ふるさと自慢

巻 頭 言	1
お知らせ	2～9
会 務	10～17
理事会のうごき	18～20
東日本大震災対策部会	21～30
学 術	31～34
母校だより	35～36
支部のうごき	37～45
ふるさと自慢	46
クラス会だより	47～50
庶務日誌	51
逝去会員	52
へんしゅうこうき	53
平成23年度評議員会・第117回定時総会報告	54～89

(表紙 河原俊朗)

---

## ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

西洋歯科医学発祥の地 中華街!?  
トワイライト, ブルーライト, ヨコハマ



中華街大通り風景 (善隣門)





みなとみらい 大桟橋から赤レンガ倉庫眺望



イーストレキを顕彰する「我国西洋歯科医学発祥の地」の碑とエリオットならびにパーキンスを顕彰する「西洋歯科医学勉学の地」の碑



神奈川県歯科医師会7階「歯の博物館」



横浜開港資料館での『痛っ 歯が痛い 歯科医学の誕生と横浜』展

## 同窓会会長退任の ご挨拶



会 長  
大 山 萬 夫

平成23年11月26日如水会館にて開催の平成23年度評議員会・第117回定時総会は滞りなく終了致しました事をご報告すると共に、今期会務にご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。このたび私は機構変革の目処もつき会長職を若い方にお譲りするべく退任をお願いしておりましたところ、今評議員会においてご承認を頂きました。尚「名誉会長」と云う大変立派な身に余る冠を頂き、恐縮の限りであります。在籍2期4ヶ年、至らぬ所多々でございましたが、終始皆様より絶大なご支援を賜りました事、ここにあらためて深く感謝申し上げます。後任の同窓会会長として現同窓会副会長矢崎秀昭先生が満場一致でご推薦を受け、決定されました。ご案内の様に現在日本歯科医師会常務監事、東京歯科大学同窓会東京地域支部連合会会長、又東京歯科大学法人評議員・同臨床教授としてご活躍中の先生でございます。医政・学術共に練達の方で、又母校に対する情熱高く、素晴らしい方にバトンタッチ出来ました事に小生はもとより、同窓会としても大きな喜びであり、次への更なる発展が期待されます。大学は創立120周年記念式典を盛大裡に終り新理事長金子 譲先生、新学長に井出吉信先生がそれぞれご就任され、目下移転事業達成へと活躍されておられます。今後新執行部も更なる力強い大学支援を致して頂けるものと確信し、皆様と共に応援せねばならないと存じます。

思い起こせば、発足時は平成19年の大変残念な事件に

対する反省と失った信頼の回復を目指し、医の倫理を規範として、執行部「和衷協同の体勢」で一刻も早く健全にして信頼される同窓会本部へと立ち直ることが、私共新執行部に課せられた大きな責務の一つと認識し、「変革と発展」をターゲットにスタート致した次第であります。

各地域支部連合会総会、支部総会に出来るだけ出席させて頂き、各地域支部の実状を伺い今何が問題なのか、本部に対する要望、又本部から支部に対しての要望、大学水道橋移転に対する問題等、多岐にわたり忌憚なく誠心誠意、温かいお気持ちで話し合い出来ました事は、将に開かれた同窓会の姿勢で有りましょう。現在の厳しい社会状況の中で如何に効率よく同窓会員の為の、また大学をご支援出来る強い同窓会としてお役に立つべく、機構改革を目的に同窓会改革検討特別委員会・会則検討特別委員会等を設け、検討致して参りました。今評議員会に機構改革に係わるもの、又会務運営に係わるものについての会則一部変更を致しました。大変厳しい部分も有り、一部流動的な面を附し、痛みを伴う事も有ろうかと存じますが、改革路線が引かれスタート致しました。同窓会の活動は、新機構によりスリム化、情報の共有により一段と活性が増し「頼りになる同窓会」と信頼される事と存じます。今将にレバレッジの時です。支部長先生のより一層のご理解・ご協力をお願い致します。次期新執行部に期待する大なるものが有ります。

平成23年3月11日発生の東日本大震災につきまして、改めて罹災されました先生方にお見舞い申し上げます。同窓会会報にてご案内の様に本部は3月13日に東日本大震災対策部会を設置し、同窓会ホームページ災害情報用掲示板の情報交換により、的確な支援活動が迅速に出来ました。救援活動ご繁忙の中ご協力頂いた罹災地区役員の方々に満腔の敬意を表します。同窓会支援金募金へのご協力を御礼申し上げます。今後も永い目での皆様の温かいご支援をお願い致します。本年7月開催の第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会は本同窓会が主幹として開催されました。2年前よりの準備が実り、卒研セミナーのオオソリティイ、同窓会委員会の企画進行により「若手支援について・今後の全歯懇の有り方」をテーマに会議はもたれ、全参加校より建設的な意見を頂き今後の全歯懇の方向性も検討されました。「大変有意義な会であった」とのお声も有り成功裡に終了致しました。同窓会役員一同大きな喜びで有りました。

末筆になりましたが、終始会務をお支え頂いた本部役員、各種委員会委員長・委員の方々に厚く感謝申し上げます。

会員の皆様には、今後ますます本部活動をご理解の上新執行部へのご協力を切にお願い申し上げます。新執行部と会員皆様のご活躍とご繁栄を祈念致し、簡単ではございますが今日までのご支援を感謝しつつ会長退任のご挨拶と致します。



# お知らせ

## 理事会より

- 2期目の大山執行部もあと僅かで任期が終わります。ある程度改革の基盤は出来上がったかと思えます。  
次期執行部が同窓会改革を更に充実できるようにしっかりと申し送り事項を伝えたいと思えます。
- 同窓会本部事務局の年末年始のお休みは、平成23年12月29日(木)～平成24年1月4日(日)までとなります。

## 同窓会事業・行事

- 平成24年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会  
と き 平成24年11月(詳細未定)
- TDC 卒後研修セミナー-2012プログラム

### 卒研セミナー

- |      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| No.1 | ベーシックセミナー『初診の患者さんをどうみるか?』<br>～診察と検査の Point～ 4月22日(日)               | No.5                                       | イブニングセミナー3『開業医が取り組む摂食嚥下リハビリテーション(入門編)』<br>～診療室からはじめる口腔機能向上へのアプローチ～ 10月27日(土) |
| No.2 | イブニングセミナー1『有病者の歯科治療で何を注意すべきか』<br>～歯科治療時に医療事故を起こす前に～ 6月28日(木)       | No.6                                       | 臨床実習セミナー2『たったこれだけ! MTM!』<br>～タイポドントでマスターする基本の『き』～ 10月28日(日)                  |
| No.3 | イブニングセミナー2『最新 重度歯周炎患者へのアプローチ』<br>～プロービングだけでは分らない歯周炎病態の把握～ 7月21日(土) | TDC インプラントセミナー・マスターコース<br>(全10回)開催日 5月～10月 |  |
| No.4 | 臨床実習セミナー1『細菌・抗体検査の実際と歯周外科実習』<br>～重度歯周炎患者へのアプローチ 実践偏～ 7月22日(日)      |  |  |

## 地域支部連合・支部関係

- 支部長交代  
平成23年11月11日付  
麻布赤坂支部 鶴沢 文彦 氏(昭47卒)  
前支部長 福田 壽一 氏(昭45卒)

## 母校関係行事・案内

平成24年度 東京歯科大学 入学試験情報

入学種別	募集人員	出願期間(必着)	試験日	合格発表日	会場
一般入試Ⅰ期	約50名	12月16日(金) ～1月27日(金)	2月2日(木)	2月4日(土)	東京会場(東京歯科大学水道橋校舎) 大阪会場(天満研修センター) 福岡会場(TKP天神シティセンター)
一般入試Ⅱ期	約15名	2月21日(火) ～3月6日(火)	3月10日(土)	3月13日(火)	東京歯科大学水道橋校舎
センターⅡ期	5名				
編入学B	若干名				
学士等特別選抜B	若干名				

※編入学Bは、2年次に編入学

## 東歯関係 日本歯科医師会役員・各種委員

### 役 員

常務理事・富山 雅史 (S57卒)  
 常務理事・中島 信也 (S59卒)  
 理 事・森原 久樹 (S43卒)  
 理 事・中村 宣夫 (S55卒)  
 常務監事・矢崎 秀昭 (S42卒)

### 各 種 委 員

#### 裁定審議会

委 員・鳴神 保雄 (S30卒)  
 委 員・曾我部 勉 (S42卒)

#### 選挙管理会

副委員長・増田 進致 (S42卒)  
 予備委員・沼澤 博 (S45卒)

#### 役員報酬算定審議会

委 員・貝塚 雅信 (S26卒)

#### 顕彰審議会

副委員長・鳴神 保雄 (S30卒)

#### 予算決算特別委員会

委 員・加藤木 健 (S46卒)

#### 厚生委員会

委 員・小枝 義典 (S59卒)

#### 税務委員会

委 員・寺田 仁志 (S63卒)

#### 医療管理委員会

副委員長・高橋 義一 (S48卒)

#### 社会保険委員会

委 員・宮井 義博 (S49卒)  
 委 員・相庭 常人 (S60卒)

#### 地域保健委員会

副委員長・佐藤 徹 (院S62卒)  
 委 員・高野 直久 (S57卒)

#### 学術委員会

委 員 長・小林 慶太 (S58卒)  
 委 員・井上 孝 (S53卒)  
 委 員・若月 達也 (S56卒)  
 委 員・木暮 隆司 (S62卒)

#### 学術委員会①学術・生涯研修委員会

委 員 長・小林 慶太 (S58卒)  
 委 員・井上 孝 (S53卒)  
 委 員・若月 達也 (S56卒)  
 委 員・木暮 隆司 (S62卒)

#### 学術委員会②学術・国際交流委員会

委 員 長・井上 孝 (S53卒)  
 委 員・小林 慶太 (S58卒)

#### 会誌編集委員会

副委員長・片倉 朗 (S60卒)  
 委 員・井出 良子 (S47卒)  
 委 員・尾松 素樹 (S54卒)

#### 歯科医療安全対策委員会

副委員長・稲葉 孝夫 (S57卒)

#### 歯科医療機器委員会

委 員・山口 朗 (S49卒)  
 委 員・佐藤 亨 (S54卒)  
 委 員・佐々木眞澄 (S58卒)

#### レギュラトリーサイエンス部会

委 員・小田 豊 (推薦会員)

#### 器械規格委員会

委 員・中村 忠 (S56卒)

#### 材料規格委員会

委 員 長・小田 豊 (推薦会員)  
 委 員・市川 弘道 (S60卒)

#### 医薬品委員会

委 員 長・一戸 達也 (S56卒)  
 委 員・石河 信高 (S58卒)

#### 定款等改正臨時委員会

委 員・沖 義一 (S51卒)

#### 災害時対策・警察歯科総合検討会議

委 員・西 孝一 (S50卒)

#### 情報管理臨時委員会

委 員・植松 一郎 (S63卒)

#### 歯科医療 IT 化検討委員会

副委員長・山田 卓也 (S60卒)

**男女共同参画推進検討委員会**

委員長・齋藤 秀子 (S48卒)  
委員・杉山 紀子 (S54卒)  
委員・坂入 道子 (S59卒)

**歯科医療機器試験ガイドライン検討委員会**

委員・小田 豊 (推薦会員)

**国立がん研究センターとの連携事業  
に関する運営委員会**

委員・三木 昭代 (S53卒)  
委員・高野 直久 (S57卒)  
委員・阿左見葉子 (S60卒)  
委員・佐藤 徹 (院S62卒)

**スポーツ歯科検討委員会**

委員・石上 恵一 (推薦会員)

**日本歯科医師会歯科医師青色申告会  
全国連合会役員**

副会長・上野 真人 (S41卒)

**日本歯科総合研究機構**

研究部員・石井 拓男 (推薦会員)

---

**東歯関係 日本歯科医師会代議員**

北海道 鮫島 道幸 (S50卒)	東京都 澁谷 國男 (S43卒)	新潟県 松川 公敏 (S43卒)
秋田県 藤原 元幸 (S50卒)	東京都 浮地 文夫 (S44卒)	静岡県 太田 昭二 (S49卒)
茨城県 小鹿 典雄 (S49卒)	東京都 高橋 哲夫 (S46卒)	静岡県 山下 敏明 (S48卒)
群馬県 村山 利之 (S55卒)	東京都 早速 晴邦 (S49卒)	山口県 井上 信義 (S53卒)
千葉県 浅野 薫之 (S40卒)	東京都 高橋 利武 (S42卒)	鹿児島県 橋口 哲彦 (S48卒)
千葉県 高原 正明 (S52卒)	神奈川県 加藤木 健 (S46卒)	
埼玉県 小杉 國武 (S44卒)	新潟県 五十嵐 治 (S47卒)	

---

**東歯関係 日本歯科医師連盟**

役員	理事長・島村 大 (S60卒)	評議員会
	理事・藤原 元幸 (S50卒)	
	理事・黒田 百樹 (S42卒)	
副会長・大曾根正史 (S35卒)	議長・原 武仁 (S44卒)	

---

**東歯関係 都道府県歯科医師会会長**

秋田県 藤原 元幸 (S50卒)	千葉県 浅野 薫之 (S40卒)	鹿児島県 森原 久樹 (S43卒)
群馬県 村山 利之 (S55卒)	新潟県 五十嵐 治 (S47卒)	





地区	支部数	支部会員 (平22年)	改定前評議員数	新評議員数(補正)
北海道	10	229	10	3
東北	6	357	6	(4→)6
関東	16	1,497	25	15
東京	41	1,338	42	14
信越	5	310	6	4
東海	4	592	8	6
北陸	3	116	3	(2→)3
近畿	6	187	6	(2→)5
中国	5	313	6	(4→)5
四国	4	129	4	(2→)4
九州	8	272	8	(3→)8
大学	1	626	4	(7→)5
合計	109	5,966	128	(66→)78

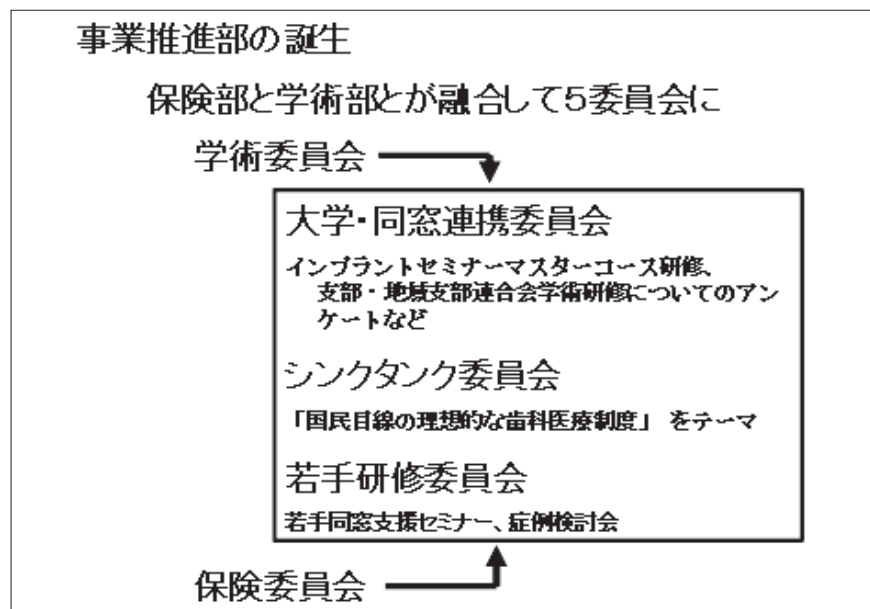
(支部長会の役割) 今まで述べましたように、今回の改革では支部長会の位置付けが大きく変わりました。そして、それに伴い本部と支部との連携のとり方も新しい形を模索していく必要があります。

まず支部長会ですが、いままでは(本部)会長が召集するものを支部長会と称しておりましたが、これからは各地域支部連合会で支部長会を開催していただき、そこに本部役員が出席する形となります。調べてみますと支部長会自体昭和61年以降開催されておりませんし、実は多くの地域支部連合会ではその地域の支部長の先生方に集まってもらい名前も支部長会として開催するなど、むしろ現状に即してきたとも考えることができます。支部長会もいろいろ変遷しており、戦後の時代では役員選挙も行われたこともあり、また開催も支部長会、評議員会が初日で総会が翌日という2日間でした。昭和35年くらいまでは11月2日に全国支部長会・評議員会、3日に総会という決まった日の開催でしたし、昭和36年過ぎ頃から全国評議員支部長会と

まず。平成22年度同窓会改革検討特別委員会(中川杉生委員長)では、支部選出評議員を、支部単位の会員数による評議員選定から地域支部連合会単位の会員数による評議員選定により半分にすることを提案しました。大山執行部ではこの提案を大変高く評価し、改革の基本方針として、その年の評議員会に協議題として提案しました。しかしながら、評議員より「この方法では、会員数の少ない県では評議員会に出られない支部長がでてくるので、県単位で1人の評議員は出せるようにして欲しい」との意見が複数あがり、執行部では平成23年度になり、2年間の経過措置として、一県1評議員を条件に増員補正をする方法を新たに提案しました。今回の評議員会では、この形で了承を頂き、平成24年度から機構改革がスタートすることになりました。

2年間の経過措置の意味は、単純に考えれば2年後一県1人の評議員の特例はなくなるという意味に取れますが、執行部では次のように考え

ました。まず改革をスタートさせ、早期に本部一支部との情報流通と連携の強化を積極的にすすめ、その状況変化を見ながら評議員会のあり方、そしてこの経過措置のあり方など皆で考え、柔軟に2年を目途に全国の同窓が納得する同窓会の組織構造を作り上げていこうというものです。



して11月の土曜日開催で翌日が総会の開催に変わってきています。昭和45年過ぎから評議員会となり支部長会の名称は見えなくなり、昭和47年から評議員会と総会が同日開催となりました。

また支部につきましても、地域主導型で本部が各地域の状況にあわせ相互の関係を作ってきた経過がみられます。大正の7年、8年の頃に岡山、青森、九州などで支部が誕生し、大正7年総会にて地方支部設置に関し建議があったそうですが保留となり、大正9年支部設置については会則中に定めませんでした。各地随意としています。その後大正15年になって会則上支部設置を定めましたが、その後支部長会に重きをおいたり、地域支部連合会を設置したり、地域選出理事をつくるなど、同窓会全体として支部を大切にす姿勢がうかがわれます。各支部には伝統と歴史そして文化があり、今回の改革においても、その基本的な姿

勢を尊重し、支部との連携を含め新たな地域支部連合会の役割として提案しております。改革の議論の中で、支部と本部との関係が薄れるのではとの意見がありました。しかし、今回の改革を進める上での主役は支部長であり、舞台が評議員会会場から各地域で開催される支部長会へ、そしてインターネットを使った情報ネットの上へと変わりますが、伝わるものは今までのもの以上に豊富で熱いものになると確信しております。

会員の先生方におかれましても、まだ将来になるかもしれませんが、各支部内でインターネットによる情報通信網が作られるようになれば、会員、支部、地域支部連合会、本部の間での情報一体化が実現することも可能になり、大山会長が望む足腰の強い同窓会のもと、歯科界でのリーダーシップをとるなど、同窓会改革は未来につなげる光の道となることを期待しているわけです。

## 事業改革の進捗状況—事業推進部からの報告

今年から事業改革として、1) 支部・地域支部連合会との関係強化、2) 母校との連携強化、3) シンクタンク機能の推進、4) 若手育成・支援のための卒後研修事業の見直しなどがスタートしております。これらを円滑に実施するために今までの学術部と保険部が統合し事業推進部が誕生しました。構成は今までと同じ学術委員と保険委員から成り立ちますが、事業推進部の中の委員会は、学術委員会、保険委員会、そして新たにできました大学・同窓連携委員会、シンクタンク委員会、若手研修委員会の5委員会で、各委員には一人二役を演じていただきました。更に今年は東日本大震災にみまわれいろいろな支援を行ってまいりましたが、この支援の力となったのが事業推進部の各委員でした。5つの委員会から報告が上がっていますので、ここに記させていただきます。

## 事業推進部の活動報告

事業推進部常任理事 山 本 英 之

「変革と発展」を目指して邁進してきた大山執行部2期目も残り僅かとなった。事業改革については、昨年度の評議員会で事業計画が一足早く承認され本年度からスタートしている。その中で事業推進部は、この改革により新たに立ち上がった部である。ご存知のように、事業推進部は今までの保険部と学術部が統合して5委員会「保険委員会、学術委員会、大学・同窓関係委員会、シンクタンク委員会、若手研修委員会」として成立した。各委員は、旧保険・学術委員の各委員が、2つないし3つを掛け持ちで新たな委員会を構成し、今期は活動をしてきた。各委員会とも連携を図りながら、手探りの状態での活動であったが、任期満了にあたり今期の活動報告と来期の予定を各委員会の委員長に述べていただき事業推進部のご報告にしたいとする。

震災もあり実働1年弱という短い活動期間であったが、各委員会は委員長を中心に会務に大変尽力されました。この場をお借りしてお礼を述べると共に、会員の皆様のご理解ご協力に感謝いたします。

### 保険委員会

委員長 蛸谷剛文

保険委員会では、例年2年単位で

事業を行ってきた。本年はそれの2年目となる。

1年目においては診療報酬改定年

度と言うこともあり、会員に保険改定の内容、注意しなければならない事項等を小冊子という形でお配りし

てきた。2年目においては、同窓会報に保険のページを頂き、保険の豆知識的な情報をタイムリーに提供してきた。本年度は、昨今指導監査が目立つ様になったため「初心に返って開示に耐えうるカルテの書き方」、3.11震災に対応して「被災者受付業務について」、技官会議資料より「請

求誤りの多い事例」、24年度改定を見据えて「診療報酬の改定の流れ(仮題)」などを掲載している。

また、9月に日本歯科医師会で行われた「社会保険指導者研修会」と同日に「東京歯科大学同窓会全国社会保険指導者懇談会」を開催し、元厚生労働省歯科保健課長の瀧口 徹

先生に「歯科医療管理と歯科保険診療の課題」のご講演をいただいている。

今後とも、保険委員会では各県の審査の状況・問題などの情報収集と情報発信に努めてゆきたい。

## 学術委員会

### 委員長 藤関雅嗣

2011年の活動は、冒頭の山本理事の報告にあるように、事業推進部の中の学術委員会として活動してきた。旧学術部委員は卒後研修セミナー、インプラントセミナーの企画、準備、運営に加えさらに学術委員会、大学・同窓連携委員会、シンクタンク委員会、若手研修委員会の各委員会に、一人の委員が最低でも2つ以上参画しながら活動してきた。また、学術部委員会より継続して委員による症例発表とディスカッションを毎月一回おこなう、研修委員会も行っている。従って、各委員の出勤回数は旧学術部の時より大幅に増加し、非常に多忙な活動となった。しかしながら各委員は大変精力的に役務を遂行され非常に過密なスケジュールのなか、各セミナーを滞りなく終えることができた。委員一人

一人の活躍に感謝いたします。

さて、2011年 TDC 卒後研修セミナーは、「歯科医療の質の担保」「生涯研修」をキーワードに『歯科医療の向上を目指して』というメインテーマのもと、同窓会フォーラムを皮切りに実習セミナー、ディスカッションセミナー、そして本年度より新企画として夕刻に開催されますイブニングセミナー、をおこなってきた。フォーラムはじめ各セミナーともに受講者から大変ご好評いただき、アンケートでも高い満足度を示す結果を得ることが出来た。講師の先生はもとより大学、歯科医師会、事業部委員、同窓会執行部、の皆様のご協力に感謝いたします。

同窓会報に同封の、2012年卒後研修セミナープログラムも完成し次年度に向けて活動を開始した。来年度は『科学の視(め)、信頼の技術』をメインテーマとし、エビデンスと経

験の融合を目指してセミナーを企画している。各セミナーは、講師折衝も終わり、担当委員を中心に準備委員会を立ち上げ、より良いセミナー作りのために鋭意打ち合わせ中である。また、学術委員会内の企画会議で2013年セミナーのあり方も検討されている。インプラントセミナーを継続する案、インプラントセミナーは休止して若手同窓会員や基本手技を再確認したい同窓会員を対象に、ベーシック的でさらにアドバンスな要素を加味したセミナーを通年シリーズでおこなうという案。など、議論が進んでいるところである。いずれにしろ事業推進部においては、関係委員会と協調してセミナー作りをおこなっていく必要があると思われる。最後に、常日頃学術委員会に大変なご助力をいただいております、大山会長はじめ執行部に改めて厚く御礼申し上げます。

## 大学・同窓連携委員会

### 委員長 小林慶太

事業推進部の立ち上げにあたり、旧保険部・旧学術部の委員により構成された委員会として、本年1月に発足した。本委員会の目的は、大学と同窓が連携してその関係を密にし、事業等を行うことを活動の基盤としている。今年は震災の影響で実

質的活動の開始は遅れたが、下記のような事業を進めてきた。

・TDC インプラントセミナーマスターコースの開催：同窓会初の年間セミナーとしてインプラントセミナーの70時間コースを開催した。本学の教授、准教授による講演と実習、症例検討を行うセミナーとして大学からの全面的協力

の下、大変好評を得て終了することが出来た。

・支部同窓から大学への依頼窓口の開設：各支部からの学術講演会講師派遣相談、大学への患者さん紹介にあたり診療科目の問い合わせ等、同窓からの大学への依頼について対応することを主な事業としている。今期は、各支部地域支部



連合会の学術講演会について、過去3年間の調査を行いデータベースとして同窓に情報提供できる準備を進めている。

- ・大学院研究科との連携：大学院各講座の研究テーマ、構成など同窓

に紹介するためのデータ集積、および同窓との連合について意見交換を行う。

- ・東京歯科学会との連携：開業医の同窓が興味を持っているテーマ、トピックを東京歯科学会の提案す

るための調査、検討を行ってゆく。

なお、次年度事業として、TDCインプラントセミナーマスターコースを始めとする、今期の事業を継続する計画である。

## シンクタンク委員会

### 委員長 高柳篤史

本年度、シンクタンク委員会は11月18日現在において、6回の委員会が開催された。本委員会では、超高齢化社会、人口減少時代、少子化による人口減少時代、を迎え、時代の変革期を迎えている現在、現在の国民これまでの国民皆保険制度の優れた点を守るとともに、時代の変化に即した、良質の歯科医療のための制度はどのようなものか、同窓会として、その提言に向けた基礎資料の収集、整理さらには提言を行うことを目的としている。同窓会における医療制度に関する取り組みは、これまでも、卒研フォーラムや研究部お

よび学術部委員会内勉強会等においてその準備を進めてきたが、本年度より、当該事項を専属的に取扱う委員会としてスタートした。

今年度のシンクタンク委員においては、現在の歯科医療の問題点と今後の課題を明確化するための検討を実施した。これまでに、1) 社会保障制度の視点から歯科医療費と社会格差、2) 社会構造の変化に伴う歯科医療ニーズに関する情報の整理、3) 歯科医療と一般医科における制度の考え方の違い、4) 情報化社会に対応したIT化に向けたによる医療の変化等に関する資料の収集と議論がなされた。

また、今年度は外部講師に、新潟

保健福祉大学、元厚生労働省歯科保健課長の瀧口 徹氏をお招きし、豊富な行政経験からの歯科医療制度の課題についての講演と討論会を実施した。

次年度においては、委員会で討論された情報とともに、歯科医師会や各種公的研究機関等での医療制度や将来予測に関する各種報告書に基づいた委員会内での討議と、同窓会におけるこれらの情報の蓄積と共有化のためのシステム作りをしていく予定である。

また、地域保健制度や歯科疫学等に関する内容の外部講師によるワークショップを予定している。

## 若手研修委員会

### 委員長 山口和彦

前任の先生より引き継ぎをして、継続して本年度の若手研修委員会に臨み活動した。若手研修委員会では毎月1度、若手を集めての症例検討会を実施している。さらに、11月に開催された若手同窓支援研修セミナーに向けて、若手研修委員会を2回開催いたしました。このうち1回は日本大学歯学部同窓会の学術の先生方にも参加して頂き、新たな企画を考える一歩手前の段階に入っている。

る。

若手同窓支援セミナーにおいては以前の学術、保険の枠を取り払い共有するための第一歩になったと思われる。しかし、まだ個人的な範囲を出ていないため、普段からの交流も不可欠と考えられる。さらに情報委員会やホームページ委員会との交流も必要となる。セミナーの開催時期については、一つのセミナーで次回のPRができるようにするよう計画的に開催することも必要と思われる。

最後に、若手同窓支援においては大学との協力関係が無ければ困難なことが多々あると感じられた。すなわち在学時から同窓会を意識させることが、今後は必要であり、大学からのご理解ご協力を今以上に得ることが、若手同窓を支援するためには必要不可欠な要素である。

来年度はこの2年間の活動経験を活かして、より良いセミナーの開催、情報を若手同窓に提供できるよう事業を進めていきたいと考えている。

# 会 務

## 平成23年度評議員会 第117回定時総会報告 —同窓会機構改革に係る会則変更議案通過する— —大山名誉会長、矢崎会長が誕生—



平成23年度評議員会は、平成23年11月26日(土)午前10時から、一ツ橋にある如水会館において開催された。高橋義一専務理事の司会のもと、片倉恵男副会長の開会の辞で評議員会は始まった。点呼は受付の署名をもって替え、評議員総数153名中、出席120名(10時現在)で会議は成立した。

大山萬夫会長の挨拶は、別記の通りである。次に高橋専務理事より来賓の紹介があり、来賓を代表して金子 譲理事長その要旨は別記の通りである。

つづいて井出吉信学長よりご挨拶をいただいた。

### 議長・副議長の選出

司会者の一任となり、議長に八南支部・浮地文夫評議員、副議長に山梨県支部・大森浄二評議員が選出された。議事録署名人には千代田支部・川上光一評議員、千葉県支部・高原正明評議員が議長より指名された。つづいて代理出席者の承認が諮られ承認された。

### 報 告

報告に先立ち135名の逝去会員に

対して全員黙祷を捧げた。平成23年度会務全般の報告が高橋専務理事よりあり寺田仁志会計担当常任理事から平成23年度会計現況報告がなされ審議の結果承認された。

金子理事長と井出学長より母校の現況報告が行われた。要旨は別記の通りであった。

母校水道橋移転事業への協力について関 泰忠副会長より更なる寄付のお願いがされた。つづいて田原邦昭常任理事より高齢会員の基準変更と会費免除の説明がされた。

東日本大震災による被災を受けた福島県支部・佐藤正矢評議員、宮城県支部・小野 喬評議員、岩手県支部・鈴木雅夫評議員、青森県支部・松山陽一評議員、茨城県支部・小鹿典雄評議員よりお礼と感謝の気持ちが伝えられた。

### 質疑応答

各評議員には評議員会資料と伴に議事進行を円滑に行うため前回同様事前に事前質問紙が同封された。その結果、3つの事前質問をいただいた。議長よりそれぞれ関連するところで質問を受けることを提案、承認された。

1) 北海道地域支部連合会・佐藤英俊評議員、群馬県支部・清見能久評議員より役員の任期について本部役員の任期が1月1日から12月31日となっているが歯科医師会、歯科医師連盟では4月1日から3月31日となっているため本部に出向協力が難しい。このような任期の連合会及び支部があるかまたこのような任期に決められた理由はあるのか。

高橋専務理事

明治の頃は4月に総会が開催され役員任期は4月からとなっていたが、大正11年に秋に総会が代わり、





それにあわせ役員の任期も総会開催日の11月3日スタートが多かったようだ。その後会計年度が1月から始まるようになり、その後昭和35年から役員任期を12月末日に延ばし現在に至る。現在法人化を進める日本歯科医師会も法人化後は7月より任期、他大学の同窓会も様々な任期で、歯科医師会とはあっていない。今後会計年度と任期をあわせる問題は様々なメリット、デメリットを考え、会員の皆様の意見を踏まえながら検討していきたい。

2) 石川県支部・加藤成俊評議員より選挙規定について会則に選挙規定を入れるため、会則検討委員会にて検討してほしいという要望が出された。

#### 高橋専務理事

同窓会ならではの方法で、できるだけ穏便な方法でという思いよりこのようになった。評議員会で表面上は簡単に決まっているようだが、それまでの過程においていろいろな意見等が反映され熟慮され決定されている。今後は東京歯科大学らしい役員の選出方法を考えていく必要がある、次の執行部に申し送りしたいと思っている。

会長あいさつから報告事項までの質問を受け、高橋専務理事の答弁後承認された。

#### 議 事

第1号から第5号議案までの平成22年度決算関係の議案が一括上程され、寺田常任理事ならびに佐々木眞澄常任理事より議案の説明があり、原武仁常任監事が監査の結果を報告した。質疑の後、第1号より第5号までの議案が原案通り可決承認された。第6号議案は佐々木常任理事より議案の説明があり、原案通り可決承認された。第7号議案では高橋専務理事より議案の説明があり、質問を受けた。

3) 福岡県支部・石田雅男評議員、

群馬県支部・清見能久評議員より会員100名につき評議員1名とする案について「各都道府県から少なくとも1名を原則として追加する」を経過措置としないしてほしいという要望が出された。

#### 高橋専務理事

各支部にはそれぞれの事情があり意見も賛否両論である。例えば九州等は地理的な問題がある。たとえ評議員数が減ってもしっかりと情報公開や収集ができるようなシステムの確立を今後2年間で考えていく。

ブロックの再編についても各地を訪問し意見を伺うと現状では難しい。削減された予算はなるべく支部長会、支部連合会総会等に支出したい。ただ現状として会費収入の減少、若手支援、未入会員の問題もあるのでこちらにも予算の支給が必要である。

沖縄県支部・新垣元洋評議員より石田評議員と同様の要望

4) 千葉県支部・高原正明評議員より評議員が参与になった場合当該支部より新たな評議員を選出するとある。支部長が参与となった場合任期のずれにより参与を辞めた場合評議員には戻れないという問題がある。

#### 高橋専務理事

参与については選択権の自由があり参与は執行部側の立場となる。そこで任期のずれが問題となるためこの件に関しては細則等で対応するように次期執行部に申し送り事項とする。

5) 浅草支部・蛭谷剛文評議員より支部長会について、同窓会本部で支部長会を開くのか。

#### 高橋専務理事

原則として支部長会は地域支部連合会でいい全国では行わない。ただし支部長会、評議員会のあり方に関連するためそれを含めて経過期間の検討項目とする。

質疑応答後採決され原案通り可決



承認された。

続いて第8号議案会務運営に係る会則一部変更を求むるについて佐々木常任理事より提案理由が説明され質疑応答後原案通り可決承認された。

第9号議案四谷支部と牛込支部の合併の承認について高橋専務理事より提案理由の説明があり、当事者の牛込支部・北村一評議員より追加説明と支部合併の承認を評議員会決定ではなく理事会決定に変更の要望があった。

#### 高橋専務理事

理事会承認については今後検討する。

質疑応答後採決に移り可決承認された。

第10号から第13号議案まで一括上程され、高橋専務理事、寺田常任理事より議案の説明があった。

6) 千葉県支部・財部正治評議員より学年代表者会について、大学と別に同窓会として開催してほしい。共催であればさしつかえない。各学年の意見を同窓会の活動に反映していただきたい。

#### 高橋専務理事

それぞれ目的が違うため独自に開催する場合もあり、内容によっては共催ということもあり得る。次期執行部へ申し送りとする。

7) 目黒支部・佐藤仁評議員より同窓会代診制度について、今までに実績があるかどうか。

#### 木俣茂常任理事

今年の1月より試験的に行われているが実際に派遣したことはない。





はじめは関東近辺であったが大学の協力で全国に対応できるようなシステムになりつつある。

8) 愛知県支部、河野幸壺評議員より支部として会費の納入に際して本部で納入状況のリストを作って支部に渡してほしい。

寺田常任理事

現在システムの変更中であるが完了すれば来年度よりそのように対応できる。

各号に質問を受け逐次採決が行われ第10号より第13号議案まで原案通り可決承認された。

14号議案が可決承認後、第15号から第17号議案が一括上程され、質疑の後可決承認された。

名誉会員推薦について第18号議案で審議され、東京歯科大学名誉教授・下野正基先生(病理学講座)、東京歯科大学名誉教授・山田了先生(歯周病学講座)、東京歯科大学名誉教授・山根源之先生(オーラルメディスン・口腔外科学講座)、東京歯科大学名誉教授・金子讓先生(歯科麻酔学講座)の4名を名誉会員に推薦、可決承認された。

第19号議案役員改選について、任期満了につき役員改選となる大山会長より任期満了となるので若い先生にお任せしたいと述べられた。議長が立候補の届出がないことを確認し、2名の評議員より大山会長の心の内を聞くことが提案された。大山会長より矢崎秀昭副会長が次期会長に推薦され、賛成意見が会場より出され矢崎副会長の同意とともに可決承認された。

監事の選出について会場より横浜中央支部・関泰忠副会長、岡山県支部・原武仁常任監事、大学支部・矢島安朝教授の推薦があり、同様に賛同意見が出され承認された。

茨城県支部・小鹿評議員、愛媛県支部・横山洋行評議員より会則にとらわれずこの多難な次期に会長を引き受けられた大山会長を名誉会長に推薦する意見が出され全会一致で承認された。

### 協 議

高橋専務理事より協議事項についての説明がなされた。東日本大震災被災同窓への今後の支援について。被災県評議員より被災の状況、復興の状況、支援の状況の説明があり今後の支援の継続の要望が出された。

高橋専務理事より同窓会として支援を継続して行うことを次期執行部に申し送りをすると答弁があった。

引きつづき会費の過年度未払いの件について、北村評議員より過年度会費はゼロにしてこれからを支払ってもらった方がよい。会費の減額を会員の状況(休診)により考慮してはどうか、という要望があった。

平成23年度叙勲・褒章受章者の顕彰式が行われ佐々木常任理事より平成23年度に叙勲・褒章を受章した10

名の紹介があり、大山会長より顕彰状と記念品が伝授された。代表して浅井康宏名誉教授より謝辞が述べられた。

矢崎副会長の閉会の辞で本年度の評議員会は終了した。

### 第117回同窓会定時総会

高橋専務理事司会のもと宮地建夫副会長の開会の辞で始まり、会長挨拶の後、議長に大森会員、副議長に浮地会員を選出、また議事録署名人に日本橋支部・山滋会員、横浜中央支部・池田嘉徳会員が指名され総会が進められた。まず高橋専務理事より平成23年度会務報告、浮地評議員会議長より評議員会報告、寺田常任理事より平成24年度予算関係の報告があり承認された。議事に入り、平成22年度決算関係並びに財産目録の6議案提案の後、柳澤孝彰監事の監査報告がありそれぞれ審議され承認可決した。

引き続き高橋専務理事より第7号議案、佐々木常任理事より第8号議案の提案説明があり審議のうえ承認された。

関副会長の閉会の辞で総会は終了した。

総会終了後、多くの会員が懇親会に出席し和やかな雰囲気の中に終了した。



## 評議員会挨拶

### 大山会長 挨拶要旨



はじめに来賓及び評議員の先生方への感謝をいたします。東日本大震災のときには被災地の先生方の情報収集をしていただいたこと、またご自身が被災されたにもかかわらず被災された地域の住民への協力を惜しまずされたことに対して敬意を払います。

同窓会としても、いち早く全国の会員より送られた支援物資を流通機構が回復してない中でも、被災地域の支部長先生方の協力により届けることができました。また片倉副会長、高橋専務理事とともにお見舞いに訪問したときも、被害状況の説明、現地への視察等に協力していただきました。また地域住民のための、救護所の問題等、献身されたということをも伺い、誠に敬服の思いです。

私たちは和衷協同のもと『改革と発展』というテーマでスタートしました。なんとしても強力な団結力を持った同窓会に育て上げなければいけないという思いで3年かけてご審議していただいた評議員の問題ですが、今までの皆様方の十分なお進言

を汲みまして作りましたものです。

またそれぞれの地元の事情に合わせながら、変革の問題について、ご協力いただければありがたいと思っております。本日十分なお審議をお願いします。

我々の業界は、今非常に厳しい時代に直面しております。そういう意味で、我々同窓会と致しましては、何とでも大学そのものをバックアップしていかなければならない。毎回お話を申し上げているのですが、東京歯科大学は今、私立のトップを走っております。その裏側には、大学の先生方、理事長をはじめ学長の大変なお苦勞があるということも認識していただければと思っております。それを我々が、あらゆる方面から、できる限りバックアップをしなければならぬというふうに思っております。やはり同窓会というのは、何が何でも母校のためにやる。そして先輩を、血脇先生をはじめ、そういう方たちを頭に置いて、尊敬をしているわけですので、その先生方の意志を継いで、何があろうと、同窓会員が1人ずつ、しっかりとしたスタンスをとって、大学に顔を向けていただくということが、一番大学にとってはありがたいのではないかなというふうに思っております。

我々も、そうしなければいけないのだと思っております。同窓会としても、そのようにいろいろな点でご協力をして、研修につきましても

大学の協力のもと同窓会研修を開催しようと思っております。また若手研修では他大学と一緒に参加させて欲しいということで、我々の研修の下見に来ております。

他校が、我々のやっていることについて非常に関心をもっています。いいところは吸収して、東京歯科大より一歩上へ出ようということですから、どの大学でも生き抜くため真剣な状況で、同窓会も、それに協力をしています。私たちといたしましても、先生方に十分認識いただきまして、いろいろな問題があるかもしれませんが、それはそれとして置いて、本当に実のあるご協力をしていただければならないと思っております。

今、120周年の募金の問題がございますが、それにつきましても、こういう震災の後、なかなか大変なことですが、もう少し頑張っていたいただければありがたいのではないかと、また、頑張らなければいけないのではないかと思っております。

今回の評議員会は変革の最後の仕上げで路線がある程度引かれてきております。その点について十分にご点検をいただき、そして、来期からはそこに走り出す、ということにしたいと思います。本日の評議員会は十分に、その点につきまして、ご協力をいただければありがたいというふうに思っております。

## 東京歯科大学の現状報告について

### 理事長、学長報告要旨

#### 金子理事長 挨拶要旨

皆様、おはようございます。私、熱田前理事長の後を6月から務めさ

せていただいております。6月中は学長と理事長を兼任いたしまして、7月から、井出新学長、私は理事長

という大役に専任をさせていただきます。毎日、水道橋に朝からおります。お近くに来られた折りに





は、お寄りいただきしたいと思います。

今年は、3月までは特段、例年の通り回っていたわけですが、会長先生からのお話もありましたように、

「3月の大災害と併せて原発の問題があり、なお今も福島のおコメに放射性物質が見つかったとか、」なかなか解決するわけにはいかないような状況です。本同窓会の評議員会にも、被災された先生方がお出ででございます。お見舞い申し上げます。まだまだ元には戻らないわけです。そうしている中で、大学人事の大きな交代がありました。

昨年は120周年記念ということ、その事業の1つである記念誌作成、これは、発刊されもうお手元に届けられたと思います。100周年記念誌は非常によくできていまして、あれだけの内容をもった記念誌を作られた大学はほとんどありません。ですが、この20年間は教育改革が非常に進んでいるところがございます。従って、大学もそれに合わせていろいろな変革をさせてきたわけです。これをきちっとまとめておこうと。併せて高山歯科医学院のことをもう少し詳しくという意図をもって120周年記念誌を発刊してもらいました。非常に意義ある事業だったと思います。

今、大山先生から、大学への支援ということで、たいへん力強い、ありがたいお言葉をいただきました。これから私どもも、井出学長を中心にして、大学が非常に困難な時期を、どうやって乗り切っていくか、

というところがございます。今日ご挨拶の中で1つお伝えをさせていただきたいと思っているのは、我々はやはり東京歯科大学の使命感の中で仕事をしております。やはり同窓の先生、それから学生が、当然、いい大学になってもらいたいという思いによってエネルギーは湧き出してくるということです。何はともあれ、こうして例年通りの行事ができるというのが、過日のああいう大災害を経験いたしますと、実に幸せだ、というふうに思っているところです。

### 東京歯科大学の現況報告

#### ①大学法人としての課題

大学の現況の中で「大学法人としての課題」について多少、説明をさせていただきます。

大学は学校教育法と私立学校法という2つの法律によって運営されております。私学法(私立学校法)は平成16年、もう数年たつのですが、ここで大きな改正をされています。それは、学校法人の理事会の大学運営に対するガバナンス(統治)を向上させよ、ということが挙げられています。もう1つは情報公開であります。

我々はそういう法制度の枠の中で、あとは、私立学校ですから建学の精神に則って、どう魅力ある大学をつくり上げるかということ念頭に置きながらやっているわけです。

大学運営が非常に困難だということは、これからの人口構造が若年者が減少して高齢者が増える、またこれはどこでも言われていることです。世界中が不透明になっているということが、我々の大学にも直接影響を与えているということです。

先進国の共通事情は、①経済成長が鈍化している、②高齢化と福祉負担が増大している、③財政赤字が膨張している、④政治力が欠如している。要は増税を含む困難な決定を政治が回避しているということだと指

摘されております。結局、非常に不透明な中で大学の運営になりますので大学法人の迅速適切な意志決定が重要になります。

平成22年度の主な事業は、ご案内のように120周年記念事業、水道橋移転計画の新校舎設計を完了して建築を始めるということ。今、コンプライアンスということが厳しく言われていますことから内部監査規程を整備いたしまして、本学に内部監査室を設置いたしました。4年制大学の所定単位取得者等を対象にした編入学試験を導入しました。周辺の大学は軒並み定員不足ということですので、手を変え品を変え、とにかく、いい人材をたくさん集めようという工夫の1つです。利子補給奨学金制度の運用を開始しました。これは学生さんへの奨学金による支援ですね。また市川総合病院で新電子カルテシステムの運用を開始しました。というようなことが22年度の主な事業でした。

収支は、スライドは作っていませんが、帰属収入といいますけども、収入が257億8,000万円ということにして、この内の学納金は45億、18%です。医療収入が177億、約70%、ということで、この比率が他の歯科大学と全く違う。通常は学納金と医療収入の割合が逆転しているんですね。本校は3つの病院運営のために、このような構造になります。

支出は234億8,000万円、このうち人件費は50%ということになっています。それから教育研究費、医療経費ということになっております。

その差を見ますと、20数億になりますが、6億ぐらひは市川のある土地を売っておりますので、資産売却差額を除くと、22年度は16億7,000万円の黒字だったということです。

19年度から8億とか、経年的に、11億、13億、16億と、右肩上がり、利が出ている、という状況の中で、移転にかかわる問題が出てくるわけ



です。

移転計画に必要な建設費用をお話しますと、本館、さいかち坂、新館とある中で、本館改築は約16億3,000万円かかる。さいかち坂の1～2年が入る校舎新築は約7億9,000万円。新館は日大の横ですが、13階建てです。約33億5,000万円。計57億6,450万円というのが建築費あるいは改修費ということになります。

それじゃその資金はどうなっているのだ、どうやって出すのだということですが、これは手持ちの中から出せません。従って、借金はしなくても済んでしまいます。ですが、手持ちの中から今まで土地も買ってきましたし、その建築費が必要だということで、残るのは8億円ということなんです。8億円だけでは、次年度の執行ということちょっと不安だということで、16億円を借りると。借りの額はということかというのと、私立の振興財団がございすけども、ここが年利0.5%で建替用に貸してくれます。ご存じの先生も多いと思いますが、昔の稲毛診療室を壊すと。もう1つは、アイソトープ、実験動物施設を取り壊すということで、この2つで、16億円まで借りられるということで、これを借りる。0.5%で、10年で返すわけです。非常に低利です。合わせて24億円が手持ちの資金になるということです。

それでは先生方をお願いしている寄附は要らないのかというご意見が当然出てくるんです。実は非常に貴重でして、先程お話したように、年間の利益は平均すると大体8億から10億いけばいいほうなんです。この内の5億と考えれば非常に大きなお金です。その用途については、大山会長をはじめ、対談でもご案内していただきましたが、新血脇記念ホールと資料室に当てます。

私がいま勉強しているのは、大学法人の役割って一体何だということ

ですね。簡単に経営と言われていますが、経営の中身は学務、要は教育・研究・診療、こういうことから、経営と学務というのは表裏一体なわけですね。こういう中で、法人としての理事会がどういうふうな役割を果たすべきか、ということ、いろいろな資料を調べながら勉強しております。

私は学務を経験させていただいた後での理事長ということでございすので、このへんは井出新学長と意思の疎通をはかりながら。学長はもとも理事会構成メンバー、常務理事の中に必ず入るんですね。大学の現場と法人の橋渡しをする。両方よく分かった上での学長兼常務理事ということになるわけですから、こういう機構をよく活用して、東京歯科大学の将来を見据えて運営していきたい。

私、学長を7年間やらせていただいた中で、改革、改革ということで……改革の芽は既に石川元学長の時代から始まっておりまして、それを継続した上でのいろいろな事業ではあったわけですが、大きく言えば講座の統合ですね。それから定員の削減、これは将来に向けて必ず必要になってくる。その代わり機能を落とさないということで、3年前でしたか、各部署に「将来構想」というものを作っていただいて、それをまとめ上げてございます。

従って、これから中期的な目標というものはその中に記載されて、そこで大きなフレームができていますので、これを具体化して現場の方々にやっていく。これを井出学長にお願いをしていくということになります。

TPP(環太平洋連携協定)の問題はまだ不透明でよく分かりませんが、ああいうものは必ず、やらないで済まないのだと思うんですね。そのものを受け入れるかどうかは別にして、いずれにせよグローバル化。

ですから歯科医学教育、あるいは歯科医の業務そのものも単に日本国内だけの問題にとどまるかどうかということがございます。これは今後、世情をよく観察しながら大学運営をしていくということになります。

最後になりますが、先程、会計の方から被災の方々に対するご支援ということでお話ございましたが、東京歯科大学も、まず、いただいたほうは台湾の同窓会がございす。通常の同窓会支部としての形ではありませんけども、ここから180万円ぐらいですか、すぐにいただきました。それから、台湾からの留学生が何人がいますけど、その方たちが集めてくれたのが60万円ぐらいありまして、合計で230～240万円、すぐにいただいています。それから延世大学ですね。わざわざお持ち下さって100万円いただいたと。

大学の被災はグラウンド等が液状化になりまして、補修に3,000万円かかると。建物そのものに費用をかけるような被災は全くなかったということです。大学のほうはたいした被災ではありませんでした。

同窓の皆様にはたいへん些少でございましたが、すぐに大学側からのご寄附ということで、約498万円、集めました。それを柳澤副学長が中心になって、県単位で、それぞれの被災の先生方へ個別に送らせていただいております。分けると非常に些少で、申し訳なかったとは思いますが、大学の気持ちということで受け取っていただきました。

最後の最後、ご寄附の状況は、先程も大山先生からお話いただいたのですが、5億円をお願いをしています。大学のほうは教職員で8,000万円の募集を目論みまして、現在7,800万円ということで、ほぼ目標には達したと、こういう現状でございす。

後で井出学長(建設担当常務理事)が建築の状況を話しますけども、

着々と進んでおります。私どもはそれが出発点と。東京で学生の教育をする。これが出発点という気持ちでおりますので、先生方のいろいろなご意見、ご支援の願いをして、法人としての話を終えさせてもらいますけど、課題は非常に沢山ございます。

第1に、追加ということで、先程のお金は一次計画用であります。二次計画は後ろの4棟、もう既に2棟購入し、あと2棟もこちらに売ると

いう現状にはなっていますが、トミーグリの隣の隣りから始まりまして、4棟全部買い取るということで、そこに新館を建てる、これが2期になります。そのときお金は20億弱で済むと思いますが、こういうふうな計画です。

ですので、先生方が、一次計画の完成した暁にTDCビルの診療室を見ると、なんだ、こんなに見すばらしいのか、元と同じじゃないかと、思われると思います。ですが今は、

要は移転して、機能的に役に立つ、これを目標にして、2次でそこを充実させて、特に口腔外科、歯科麻酔というところのものになると思いますが、こんなふうな計画です。ただ、いつから2次を始めるかというのはまだ決定していません。いずれにせよ、4年ちょっと経つと学生さんは全部こちらに来るという計画になっております。

## 井出学長 報告要旨



### 東京歯科大学の現況報告

#### ②水道橋移転と学生教育の現状について

本年の7月1日付で私が学長に就任させていただきました。また、副学長として石井衛生士学校長が就任いたしました。同時に法人役員として石井副学長が常任理事に、柳澤副学長が理事に就任いたしました。さらに、前検事総長で現トヨタの監査役、三井物産の監査役でもある松尾(邦弘)先生に監事として就任いただきました。

水道橋校舎建設事業の現在の進行状況について説明申し上げます。まず、さいかち坂校舎(仮称)は水道橋駅からおよそ4分、お茶の水駅から5分程の所にありますが、おそらく学生は快速電車が止まり、坂を登らなくてよい、お茶の水駅から通学するのではないかと思います。

研究に関しては、臨床、基礎共に口腔科学センターに集約して研究す

るように準備を整えています。新入生は、来年4月から、さいかち坂校舎(仮称)で授業を受けます。現在の1～2年生は再来年の夏に水道橋に移転します。現在の3年生と4年生は千葉で卒業することになります。設計は日本設計、施工は清水建設で、2月16日に契約の締結を行いました。上位10社の間で入札をしまして、入札金額と建築会社の規模から清水建設と契約をいたしました。起工式は2月19日に、さいかち坂校舎(仮称)建設予定地で行いました。熱田前理事長、金子現理事長、大山同窓会長による鍬入れ式、起工式を行いました。

本館の改修については、現在まだテナントが3室を使用していますが、10階が講座と研究室、9階が図書室と講座と研究室となります。既に6階部分の事務室と5年生の教室は出来上がっております。病院はエントランスの1階と2階を改修しているところで、既に13階の改修は終了し、現在1階の工事を行っているところですが、床が石で寒いので床暖房を設置し、受付となります。

さいかち坂校舎(仮称)は1階は事務室、2階以上は教室、ラウンジ、大教室、実習室、研究室となります。2次計画部分は理事長のお話にありましたように病院棟として、整備・拡充する予定です。恐らく4～

5年のうちに整備できると考えます。千葉病院は現状維持いたしますので、今以上に高野病院長に頑張ってもらいたいと思っております。都立病院の大半は東京歯科大学のOBです。都立病院との連携は非常に重要で、これからはこのような同窓の先生方とも今まで以上に連携をとり、学生の教育にも是非参加していただきたいと思っております。

受験者数の問題、新入生の学年内の偏差値の格差の拡大による教育の問題などがございしますが、本学では、幸いなことに2週間前の推薦入学試験では、昨年より1割も多い受験者が集まりました。これも水道橋移転の効果であると考えます。

今年度から成績上位30名中の希望者から、夏休みに短期海外留学する、エレクトイブスタディ研修制度を実施し、国際性豊かでグローバルな観点に立った歯科医師の育成に取り組んでおります。1～3年生は台北医科大学、4～6学年はテキサス大学に行き、学生の国際的視野を広げる機会となりました。この費用の一部を今年から同窓会でご支援していただいております。

今後も大学と同窓会との絆を一層強めてまいりたいと思っておりますので、大学および学生のご支援をよろしくお願いいたします。



## 東京歯科大学同窓会 若年同窓支援セミナー 2011

## 「誰もが避けたい医事紛争」

～もしも医療事故が起きたら！ カルテ開示に向けて必要なことは！～

2011年11月6日、第2回若年同窓支援セミナー「誰もが避けたい医事紛争」が約50名の受講者の参加を得て開催されました。

最初に大山萬夫同窓会長が「若い同窓を積極的に支援する事業の一環として、第2回の開催となりましたが、今回は6名の日大同窓の先生方に参加していただき、更にバージョンアップした内容となっています。」と述べられました。

まず、同窓会保健委員の山口和彦先生が「診療録に必要な内容は？」と題して解説されました。

初診時には問診票を重視し、単に書き写すだけでなくコミュニケーションツールとして利用し診療録を完成することにより、患者の信頼を獲得することを目指そうと話されました。口腔内写真を提示し、どれだけ所見が取れるかを実習し、より詳細な所見が取れるよう研鑽を積むよう話しました。また、問題志向型システム（Problem-Oriented System）を利用して記載を進めることを推奨しました。

次に稲葉孝夫先生が「医療紛争例から学ぶ」として都歯の医事処理の現状を説明しました。インプラントや矯正よりも補綴が項目のトップとなっており誰でもが紛争に巻き込まれる可能性があります。

医事紛争が起きた場合、個人で対



応することは時間的にも精神的にも大きな負担となるので、必ず都歯に入会し都道府県で唯一の医事処理のシステムを活用してほしいと述べられました。

片倉 朗先生は「BS 製剤・抗血液凝固剤服用患者の歯科処置について、下歯槽・舌神経麻痺の対応について」とのテーマで学術的な立場から解説されました。

歯槽骨は他の部位より代謝が盛んなため BP 製剤が定着しやすく、骨代謝が低下し外科的侵襲をきっかけに骨壊死がおこると考えられています。特に多発性骨髄腫は骨壊死の発症率が高くなっています。

抗血栓薬服用患者の外科処置については PT-INR 値が3.0未満であることを確認し、休薬はせず十分な止血処置を考慮します。ただしプラザキサ（ダビガトラン）は24時間前に必ず休薬することが必要です。

下歯槽神経麻痺については智歯難抜歯手術では0.4～0.6%に麻痺が出現するが、一過性の症例が大部分で



あり6ヵ月後には0.05%に減少します。インプラント手術に伴う神経損傷も多く、パントモ写真で下歯槽神経損傷の可能性が疑われる場合は、必ずCT検査を実施すべきとのことです。

さらに抜歯による舌神経麻痺の事例が増加しており、不快症状が重く回復が困難であり注意が必要です。

ディスクッションに移り、抜歯時等の同意書は、インフォームドコンセントの確認に役立つがこれであっても過失責任を逃れることはできません。医事紛争を避けるには説明責任・結果責任・結果回避の義務に違反がなかったかが問われます。

今回は日大同窓の先生も参加され、他校の同窓に広がればさらなる発展も期待されます。東京歯科大学同窓会は若年同窓の先生が困難に直面した時には、全面的にバックアップを行います。ぜひ地区同窓の先輩に相談されることをお勧めします。

（取材・広報部 小池 修）





# 理事会のうごき

## 第4回理事会

平成23年9月17日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 31名

議長 大山会長

### 会長挨拶

各地域支部連合会総会へ出席させていただきその席上において種々ご意見を伺い、それに対応するように努力している。役員には、尚一層のご協力をいただきたい。そのうえで本日は評議員会に向け大事な理事会なので十分にご協議をお願いします。

### 黙 禱

埼玉県支部・浅利義則氏他18名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告および承認

- 1) 平成23年7月9日から12月21日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務・厚生部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について1件報告。②支部長交代について1件報告。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について1件報告。④事務局勤務体制の変更を報告。⑤東日本大震災の罹災報告ならびに共済金の支給について報告。⑥ゴルフ大会当日のチャリティー募金をそのまま同窓会へ義援金とすることを報告。⑦情報ネットワークの現況を報告。⑧第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会について報告。⑨会則検討チームについて報告。⑩東日本大震災対策部会より現況を報告。
  - (2) 会計部：①平成23年度経常部予算執行調べについて報告。
  - (3) 渉外部：①東歯関係日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会について報告。
  - (4) 広報部：①会報委員会について報告。②ホームページ委員会について報告。
  - (5) 事業推進部：①事業推進部として今後の方向性を協議していることを報告。②学術委員会について報告。③TDC 卒後研修セミナー2011について報告。④TDC 卒後研修セミナー2012について報告。⑤保

険委員会について報告。⑥大学・同窓連携委員会について報告。⑦東京歯科大学同窓会フォーラム、インプラントセミナーについて報告。⑧シンクタンク委員会について報告。⑨若手研修委員会について報告。

### 各地域選出理事報告

#### 1) 戸田理事（北海道）

連合会総会開催時支部長会も開催され協議したが、連合会長が地域選出理事となる案については、連合会長本人が連合会会務に専念のため無理、また評議員として出席したいという意向を表した。評議員数削減の件は了承できるが連合会役員の中から評議員を選出したいという意見もあり、支部長を基本に考えた本部との調整が必要であることを報告。

#### 2) 高橋理事（東北）

各県支部長に改革案について意見を求めたが集まってこないで、反対意見が無かったと解釈したいと思っている、連合会長が、地域選出理事に就任する可能性があることを報告。

復旧支援など各県それぞれだが長く困難が続くと思われるので東北にあつい目を持ち続けていただくよう依頼。

#### 3) 長久保理事（関東）

連合会総会を山梨県支部担当で開催、評議員については反対が無かったが連合会長を地域選出理事にという案に関してはまとめることができなかった。来年は神奈川県支部が担当なので引き継いでいく旨報告。

#### 4) 早速理事（東京）

大きな変化は無いが機構改革について連合会執行部として検討を加えていることを報告。

#### 5) 飯島理事（信越）

10月連合会総会を南信支部担当で開催、支部長会も開催予定で準備をしていることを報告。連合会長が理事になるという案については本部と連合会の役員任期が1年異なっているのをこの際調整して本部に合わせるように総会で決定し、24年には実行に移してゆきたいと考えている旨報告。

#### 6) 宮田理事（東海）

連合会総会が開催され、機構改革の話を受け支部長会において連合会長が理事になる案についてはおそらく無理であろうとの結論であったことを報告。また機構改革の説明を頂いたが、その内容を一般の会員に理

解されているのか疑問であり、支部長や我々がもっと説明をしていく必要があると感じている。

#### 7) 宮本理事 (北陸)

福島原発の被災により福井に避難されている川崎先生を連合会総会に招待して、体験談を話していただきその実情を共有したいと考えている旨報告。

評議員数削減についてさまざまな意見があり支部長会で話題になることを報告。

#### 8) 井口理事 (近畿)

連合会総会が2年に1回開催に変更となったため、空白の1年間でどうするかが問題である。

#### 9) 山根理事 (中国)

台風が岡山県、鳥取県を直撃したが大過なく済んだことを報告。

中国地域支部連合会総会は形式的なものであり実のあるものではなく、連合会総会にあわせ支部長会を開催しているが本部の意向が支部長に正しく伝わっていないと感じるようになった。次期理事にその点を伝える準備をしている旨報告。

#### 10) 久保田理事 (四国)

大きな動きは無く、12月に開催される愛媛県を除き会員数の関係で支部総会を開催しても形を成さず親睦の形となっている現状を報告。

### 協議事項

- 1) 罹災共済金の支出1件承認。
- 2) 推薦会員入会願いについて1件承認。
- 3) 推薦会員退会願いについて1件承認。
- 4) 第43回東歯祭への祝い金について例年通り25万円支出することを承認。
- 5) 同窓会機構改革とそれに伴う会則の変更について協議の結果、承認。評議員会での上程に際しての詳細は、会長一任で承認。
- 6) 会務運営に関わる会則変更について評議員会で議題とすることを提案、協議の結果、会長一任で承認。
- 7) 東京歯科大学同窓会役員並びに職員旅費規程について協議の結果、会長一任で承認。
- 8) 過年度会費の取り扱いについて本年度評議員会で協議題としたい旨の提案、協議の結果、会長一任で承認。
- 9) 今後の東日本大震災被災者への支援について協議の結果、現執行部の任期中は対策部会一任で承認。
- 10) 次年度の理事会、常任理事会の開催回数について協議の結果、承認。
- 11) 平成24年度入会金、会費、共済負担金について現行どおりとしたい旨提案、協議の結果、承認。
- 12) 事業推進部の委員構成と増員について提案、協議の

結果、協力委員の新設を含め承認。

- 13) 若手同窓のセミナー受講料割引について協議の結果、承認。
- 14) 平成24年度ゴルフ大会を例年どおり開催したい旨提案、協議の結果、承認。
- 15) 平成24年度事業計画案及び予算案を説明・提案、協議の結果、文言修正を含め会長一任で承認。
- 16) 同窓会報広告掲載希望主について協議の結果、承認。
- 17) 平成24年度インプラントセミナーについて協議の結果、承認。

## 第5回理事会

平成23年10月8日(土) 午後2時30分

於 特別会議室

出席 32名

議長 大山会長

### 会長挨拶

皆様のご協力をいただき来月無事評議員会・総会を迎えられることに對し謝意を表した。

会長を引き受けた時は種々問題があったが、2期目となり事業改革、機構改革も各支部の先生方が妥協できる範囲までまとまりつつある。今年は本会主催で全歯懇を開催し好評のうちに終了できた。また同窓会と大学との関係も役員の皆様のご協力で修復されたと思っている。ある程度めどがたったので今期で退任したい。金子理事長・井出学長と新生の大学、そして新生の同窓会ということで盛り上げていってほしい等現在の心境を述べた。

### 黙 禱

愛媛県支部・岡本櫻二氏他10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告および承認

- 1) 平成23年9月17日から12月21日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務・厚生部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について5件報告。②罹災報告ならびに共済金の支給について報告。③ゴルフ大会より東日本大震災への支援金について報告。④情報ネットワークへの登録状況を報告。⑤第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会の議事録を作成中であることを報告。⑥評議員会に提出する会則一部改正案について報告。⑦東日本大震災対策部会より現況について報告。

- (2) 会計部：①前回理事会で承認された予算を若干修正したので協議で説明することを報告。
- (3) 渉外部：①日大歯学部の大塚先生が日大総長に就任、その祝賀会が開催され出席したときの様子を報告。
- (4) 広報部：①ホームページ委員会より同窓会 HP アクセスレポートについて報告。
- (5) 事業推進部：①学術委員会について報告。②TDC 卒後研修セミナー2011について報告。③TDC 卒後研修セミナー2012について報告。④全国社会保険指導者懇談会・懇親会が開催されたことを報告。⑤大学・同窓連携委員会において各地域支部連合会・支部で開催されている学術講演会に対するアンケート依頼を検討中である旨報告。⑥東京歯科大学同窓会フォーラム、インプラントセミナーについて報告。⑦シンクタンク委員会講演会が開催されたことを報告。⑧若手同窓支援セミナー2011を開催予定であるが参加者が少ないため声をかけてほしい旨依頼。

#### 各地域選出理事報告

##### 1) 戸田理事（北海道）

前回理事会において連合会長が地域選出理事になる案について北海道の状況を報告したが、その後情勢が変わってきているので確定していないことなど現況を報告。

##### 2) 高橋理事（東北）

松山連合会長の手紙を披露 ①一連の改革案について2年をめに協議し、本部の変化に合わせて協力していきたい。②本部は連合会長を過大評価している。東北地域では連合会総会を開催する時の実行委員長みたいなものだけであり、他支部の状況をよく把握していないのが実態である。

##### 3) 長久保理事（関東）

特になし

##### 4) 早速理事（東京）

特になし

##### 5) 飯島理事（信越）

地域支部連合会総会が開催され、支部長会も開催。本部の計画通り実行に移すことが決定された。任期がずれているので、次期の間に調整をする。

##### 6) 宮田理事（東海）

三重県の台風被災状況について、同窓会員に大きな被害がなかったことを報告。

##### 7) 宮本理事（北陸）

地域支部連合会総会が開催された。2年に一度のサイクルで開催されるため、その間大きな出来事もあり熱く協議された。母校の寄付、若手離れなどが大きく取り上げられた。少人数の支部においては県支部単位の活動が困難になってきており、どうするかが問題になっている。

##### 8) 井口理事（近畿）

滋賀県より来年開催予定役員会および総会の報告があった。

##### 9) 山根理事（中国）

120周年記念の募金をがんばって行きたい。

##### 10) 久保田理事（四国）

来年の四国地域支部連合会総会開催は徳島県支部担当で決定されている。他地域支部連合会総会が重ならないよう依頼。

##### 11) 濱田理事（九州）

開催予定の地域支部連合会総会では改革案のことなどで活発な意見が出そうである。

#### 協議事項

1) 推薦会員入会願いについて1件承認。

2) 財産目録ならびに財産（備品）廃棄処分について説明、評議員会に議題として上程することを提案、協議の結果、承認。

3) 東日本大震災第2回支援金支給について説明、①被災のひどい宮城、福島、茨城の3県支部に支援する。②支援金の使途は、それぞれの県の特長性を考慮し支部に一任する。③支部への支援額は、第1回支援の各県の特別支援金と一般支援金の合計から求める。④支部内での割合から第2回支援金を500万円とする旨提案、協議の結果、会長一任で承認。

4) 平成23年度評議員会及び第117回定時総会に上程する議題と協議議題、運営について説明、提案、協議の結果、会長一任で承認。

5) 学生支援を充実させるために、母校の Elective Study Program に対して40万円の支援をする旨の提案、協議の結果、承認。

#### 承認事項

1) 東京歯科大学同窓会役員並びに職員旅費規程について説明。新規定を、平成24年1月1日より施行する。なお、役員に関しては、平成23年11月1日より施行することを承認。



# 東日本大震災対策部会

## 厳冬にむかって更なるご支援をおねがいします

東日本大震災から9ヶ月経過しましたが、いまだに家に戻れなかったり、生活や診療に制限があったりと、その影響は深刻なものがあります。厳冬をむかえる被災地、そして被災された同窓に対し、今後どのような支援や応援をしたらよいのだろうという相談を多く聞きます。平成23年度評議員会では、東日本大震災対策部会の報告をするともに、協

議題として「東日本大震災被災同窓への今後の支援について」を上程し、ご意見をいただきました。やはり、「まずは続けてご支援を」ということにつきます。今まで以上、更なるご協力お願いいたします。

4月の始め、被災された同窓への支援のため東日本大震災支援金窓口を開設し10月31日現在で321件のご協力をいただき総額16,069,785円の支援金が口座に振り込まれました。そこで、第1回の支援は、6-7月にかけて、被害が極めて甚大なうちでも特に深刻な状況にある6名の被災会員に対して特別支援金を、そして多くの会員が被災された5支部に対して一般支援金として、総額950万円を支給しました。

3. 各支部への支援額は、第1回支援の各支部への特別支援金と一般支援金の合計額から求める。すなわち、3支部へ支給された総額に対する各支部への第1回支援の割合に応じて第2回支援金を割り当てる。

そこで、10月に以下の支援金を支給させていただきました。

### 第2回支援金支給額 (500万円)

宮城県支部	190万円
福島県支部	190万円
茨城県支部	120万円

なお、10月31日現在の残金は1,551,445円であり、第三回支援について今後対策部会で検討する予定であります。

### 罹災状況

	罹災件数	罹災状況			
		A	B	C	D
青森県支部	3	0	1	0	2
岩手県支部	3	3	0	0	0
宮城県支部	41	12	14	10	5
福島県支部	47	15	16	6	10
茨城県支部	54	8	17	7	22
栃木県支部	15	0	2	2	11
千葉県支部	6	3	1	0	2
大学支部	4	0	2	0	2
芝支部	1	0	1	0	0
深川支部	1	0	0	1	0
名誉会員	1	1	0	0	0
合計件数	177	42	55	26	54

会員に対する罹災者の割合  
宮城70.7%、福島55.3%、茨城51.4%

- A：自宅または診療所が壊滅的被害を受け、診療までに1週間以上かかる状態、またはライフライン停止、避難などにより一ヶ月以上診療不能  
B：自宅または診療所が被害を受け、診療までに3～6日ぐらいかかる状態、またはライフライン停止、避難などにより2週間以上診療不能  
C：自宅または診療所が被害を受け、診療までに1～2日ぐらいかかる状態、またはライフライン停止、避難により1週間以上診療不能  
D：自宅または診療所が被害を受けたが、診療には支障がない状態、またはライフライン停止、避難などにより4から6日診療不能

### 第二回支援へ

対策部会では第二回支援を行うため多くの同窓が被災された5支部の支部長にご意見を伺ったところ、「特に被害の多かった地域に対して」、「被災のひどい同窓に対して」、「復興が儘ならない同窓に対して」との意見、その一方で原発の影響を受けている地域などからは、「被災程度よりも広く同窓に応援を」との意見があがるなど、支部により支援金の使途については様々でありました。そこで対策部会では第二回支援について以下のように取り纏めました。

1. 被災のひどい宮城、福島、茨城の3県支部に支援する。
2. 支援金の使途は、それぞれの県の特長性を考慮し支部に一任する。

### 評議員会では

評議員会での会務報告では、本部同窓会での東日本大震災対策についてご報告をさせていただきました。それをうけ、東北地域支部連合会長松山陽一先生から東北地域を代表してお礼の言葉を頂き、さらに復興復旧については何十年かかるかわからないが全国の皆様にこれからも東北に目をむけて頂くようお願いされました。



(松山先生)



(小鹿先生)



(佐藤先生)



(小野先生)

た。また関東地域を代表して茨城県支部長小鹿典雄先生より謝辞，特に同窓各位からご協力いただいた支援物資について，そして大学，兵庫県支部をはじめ全国同窓の皆さんのお気持ちに感謝の言葉を述べられました。

協議題では，「東日本大震災被災同窓会員への今後の支援について」が上げられ，福島県支部長佐藤正矢先生，宮城県支部長小野 喬先生，岩手県支部長鈴木雅夫先生，謝辞を述べられた青森支部長でもある松山陽一先生からご意見が出されました。「原発の心配，余震の心配もまだあり，ご支援を続けて欲しい」，「困っている会員に対し重点的に支援を，やはり経済的支援を」，「何を

困っているか情報を送りたい」，「現状を把握し，まずやってみること」，「支援を続けて欲しい」など貴重なご意見を頂きました。これらの意見をもとに対策部会では今後の方向を探ってゆく予定です。そして当日支援金募金箱を用意し，ご協力を御願いしたところ，新名誉会員から，支部から，評議員から，理事者からと多くの方からご支援をいただき，総額として274,000円となりました。支援金口座に振り込ませていただきます。まことに有難うございました。

さて，対策本部では同窓会報を通し被災の現状などできるだけ情報提供してまいります。今回は福島から千葉へと避難を余儀なくされた清信



(鈴木先生)

先生からの原稿を頂くことができました。また10月号と同様，宮城県支部長小野 喬先生のご配慮により，支部便りに掲載予定の先生方からの原稿もお預かりすることができました。是非，お読みになり，気持ちを一つにしてこれからのご支援につなげてもらえれば幸いです。



## 原発に追われて

福島県 清 信 成 一  
(昭和51年卒)

3月11日，午後の診療に入って40分ほどたつての事だった。急に地面が左右に揺れ始めると徐々にその振幅は大きくなりはじめた。チェアに掛けていた患者さんを，待合室に誘導する間もなく，ユニットテーブル上の薬瓶がバラバラと床に降ってきた。続いて各所にて固定されていないロッカー，棚などの倒れるすさ

まじい音が相次いで聞こえた。私も従業員も床にしゃがみこみ，柱に押し揺れの収まりを待ったが，家屋が倒れるかと思われるほどの大きな揺れが，10分程も続いたように思われる。余震の中，外に出てみると，近所の商店，医院などから道路上に人が出て，皆がこの事態を把握しようとしていた。強い余震の中2，30分

経過した頃だろうか，消防車が「大津波の襲来」をサイレンの音と共に触れ回ってきた。両親を含め家族と共にとりあえず駐車してあった車に乗りこんだ。

従業員も相乗りで子供を迎えに学校へ向かった。とにかく，高台へと言うことで，破損した道路を迂回しながら，町内の山沿いの地点を目指

した。何も持つて出ることが出来なかった。道路沿いのコンビニ駐車場に入り、残り少なくなったパンを求め、そこで絶え間なく続く余震を感じつつ粉雪の舞う中夜明かしすることとなった。

翌12日は大変よい天気、ガソリンと食料を求め、自宅近くまで戻るも、何も手に入れることが出来ずに、前日の場所へと引き返した。その駐車場で、色々な情報が乱れ飛び、津波が国道6号まで達し、通行不能なこと、海岸沿いの集落が壊滅的な被害に遭った事、東電原発がおかしいのではないかと、等々であった。何を信じればよいのか判らないまま、もっと高く、もっと原発から遠ざかることを念頭に北上した。次に着いた避難場所でも正確な情報は無く、市職員も給水車で給水に没頭し、車載テレビでも繰り返し前日の津波被害の映像が流されるばかりだった。原発が爆発したようだ、との情報もデマだろうと思いつつも、異様な心理状態の中では、頼るべきそれ以外の情報も無く、山越えを決断しガソリンの残量を気にしながら福島市方面へと出発した。後で聞くとところでは、原発内で働いていた人々から、メールなどで、「もう終わりだ」とか「とにかく危ないのだから逃げろ」と言う知らせが家族、知人にはすでに入っていたと言う事だ。それでも、市役所の職員、市民などには、全く情報はもたらされな

かった。いくら愚かな民でもひどい話だ。我々家族は、やっと福島市に入ったが、期待に反して、そこも停電で一部を除き夜の闇の中であった。また駐車場で夜明かしを決意していたが、幸い妻の古い友人の助けにより、屋内で一晩を過ごすことが出来た。年寄りたちには大変有り難く、言葉に出来ないかぎりであった。翌日は、早朝よりスタンドに並び3箇所めで1500円分の給油が出来た。その後、何とか知り合いの紹介によりビジネスホテル、旅館等を移動し原発状況の回復を待ち続けたが、好転せず、北上するか、南下するか大いに思案した。7日目になり、交通機関が何時復旧するかわからないので、東蕨在学中の長男を送り届ける必要があった事と、手元資金が、宿代支払いなどで不如意になった為、渋滞でのガソリンの消費を極力少なくするべく、早朝2時、降雪の中とにかく茨城の水海道を目指した。水海道には同じ弓道部だった五木田先生がいる。給油の望めない中での出発は、五木田先生が給油缶にガソリンを用意し、車が止まった所まで給油に来てくれるとの言葉を頼っての決断だった。パンクを心配し、尖ったアスファルトを避けながら、凍結した4号線を走り7時間を費やし、五木田先生の元につき温かい物を頂き、やっと生きた心地がした。車を先生の所に乗り捨て、子供のアパートにつくと、道中も案じ

電話連絡を入れてサポートして頂いていた、東郷先生御夫妻に、布団から下着、食事に至るまで運んでいただき、家族で安眠することが出来た。

1ヶ月あまりを、今思えば、異様な精神状態のまま家族折り重なるようにして過ごしましたが、現在に至るまで何くれと無くご心配頂いた同窓の先生方、大学の先生方、同級生の皆様、弓道部OBの先生方には言葉では表せないほどお世話になりました。

今なお立ち入り禁止区域内の我が家は、この夏に検問所を通り立ち入った際には、庭の雑草が背丈ほども茂り、人ひとり居ない、やっぱり「死の町」の中にあいました。やけに空が青く、海岸の松林が流されたために、少し高台に登ると以前は見ることが出来なかった海を望むことが出来ました。修繕して診療所を再開したいと願っても、立ち入ることが出来ない現状ではそれも適わぬことです。東京電力福島第一原発爆発事故により、今なお、数万人の被害者が、職と住いを失い原発難民となっています。決して戻ることの出来ない故郷を思いながら、あての無い巡礼を続けなければいけない人々の群れです。また、ご承知のように、放射能汚染地域については、更なる広がりを見せ、目に見えないまま静かに関東圏にまで及んできています。



今回の地震により倒壊した町内の家屋



自宅立ち入り時、「許可証」確認のための原発より20kmに設けられた検問所



町内西方に離れた阿武隈山地沿いでの放射線量 (4.33μSv/h)



今回の災害では、身に余る多くの友情と同情を受けました。幸いにも命は永らえることが出来ましたが、30数年間地域で培ってきたものほとんど全てを失ってしまいました。もう沢山です。現状の考えを是認し続けたままでの、飽くなき利便性の追求や、まばゆく煌く光の後ろには、またどこかの地域で同様な大災害による大量の巡礼者を生んでしまう可

能性が確実に潜んでいます。以前から、原発事故は程度の差はあれ、いつか起こるものとは考えていました。「絶対に安全」「100%大丈夫」と言う言葉を聴くたびに、科学者の発する言葉かと訝っていました。作業に人間が関わる以上根拠の無い、ありえない無責任な発言です。あの日から時間だけが過ぎてゆきますが、今までの経緯についての何ら総

括反省も無く、誰も責任を取らない様な国や大企業のやり方が、この先も続けられるはずが無いと確信しています。隠蔽や言い逃れ、不明確なその場限りの一時的解決策の提示だけでは、将来、子供たちに取り返しのでつかない大きな置き土産を残すのでは、と不安を感じています。



## 東日本大震災 ～私の場合～

石巻市 鈴木 裕

(昭和54年卒)

今回の震災で「石巻市」は全国的にも世界的にもその名を知られることとなりました。石巻には私を含めて3名の東歯同窓会員がいます。箕田昌弘先生、赤間 力先生、そして私鈴木 裕であります。地震直後からライフラインが途絶え、出先で会うことができた石巻歯科医師会の先生の話から、「支部の会員の先生で亡くなった方はいまのところはいない」とのことでしたので安心はしていたのですが、自分の目で御二方の御無事を確認出来たのは、3月20日でした。4月3日(日)に二度目の訪問をした際、赤間先生から「嫁さんがやっと見つかって岩手県で火葬してきた」という話を聞いたときには、なんとってお悔やみを申し上げたらよいのか言葉が見つかりませんでした。

私よりも過酷で悲惨な経験をなさった先生方は多々いらっしゃると思いますが、私の場合、この震災が無ければ一生経験することも無かつたろうということを投稿させていただきます。

地震があった時間、院内には3名の患者さんがいました。一人は男性で会計をしている時でした。あとの二名は女性で、一人はチェアに座った時、もう一人はまさにこれから治療を始めようとしていた時でした。揺れが少し弱まったのを見計らい、患者さんの無事と避難路の確保を確認してから住まいに戻ったところ、妻は居間のテレビが倒れないように必死に押さえていました。それを見て無事であったことに一安心しました。というのは、この時間帯に妻は自宅で事務処理をしていて、机の前には食器棚があり、もしその場所に座っていたならば命も危うかつたろうという程に壊れた食器が散乱していたからです。(後になってから、「結婚前から少しずつ何年もかかって集めた食器が一瞬で瓦礫になってしまった」と嘆いています)。揺れはまだ続いていたのですが、妻の無事を確認出来たので医院に引き返しました。電気は止まっていたのですが、スタッフの携帯電話で津波情報を知り、患者さんも歩いて帰れ

る距離でしたので、それぞれ帰宅しました。スタッフはいつもは3名いるのですが、一人はお嬢さんの中学校の卒業式で欠勤していました。出勤していた二名はそれぞれ子供さんを親に預けていたので、すぐに帰宅させました(それがあとになってから心配事の一つになりました。なぜならば一人は東松島市、もう一人は石巻の湊地区だったからです)。院内はごちゃごちゃになっていましたが、ガスと電源を確認し戸締まりをして自宅に戻りました。妻は咄嗟の機転で浴槽に水を貯めていました。家中瓦礫だらけの様相で、怪我をしない様にトレーニングシューズを履いて行動することにしました。まずは瓦礫の処理です。大きな段ボールに三つほどの食器の破片を集めるだけで夕方になり、暗くなったのでやめることにしました。外に出てみると家の前の道路は車だらけで渋滞していて、隣の家のご主人が「津波が来るから高台に避難しないと…」とまさに車を発進させるところでした。すぐさま自宅に戻り妻と相

談して車に非常時の持ち出しを積み込み、手で車庫のシャッターを開け、いざ避難しようと道路の前まで進んでみたものの、車の数は以前よりも増え渋滞の度合いが更に増していました。避難するのを止めにして車庫の上の部屋で様子を見ることにしました。というのは母屋にも二階はあったのですが、車庫を母屋と繋いで建て増しし、しかも鉄骨造りで一番安全と思われたからです。一番の心配事は娘の安否でした。仙台の学校にいて、連絡のとれないままだったからです。時々外に出て様子を見ても津波の兆候は無かったのですが、夜遅くになってからじわじわと水が上がってきました。自宅の敷地は道路よりも50センチ以上も高くなっているのに、未明には一部屋がすっかり冠水し、車庫の車もタイヤ半分程水没していました。一晩中続く余震に怯えながら朝をむかえ、明るくなった外の様子を窓を開けて見ると、まるで「水の都ヴェニス」の様相でした。道路には5～6台の車が放置され水に浮いた状態で、それでも腰まで水に浸かりながらも行き来する人がいました。午後になり少しづつ水が引いてきた頃、外で「父さん、母さん」と叫ぶ声が聞こえ、あわてて外に出てみると、膝上まで水に濡れながら娘が立っていました。娘は仙台のクラスメートの部屋に泊めてもらい、翌日車で自宅の近くまで送っていただいたそうです。徒歩で移動できるようになるのを待って、他の状況を確認するため国道まで行ってみました。国道に出るまで徒歩で3～4分程の緩やかな坂道の両脇と中央には、車が隙間のないくらいぎっしりと駐車していて、異様な感じがしましたが坂道を登りきり国道に出て見えた光景に唖然としてしまいました。国道から市街地に通じる「中浦橋」を下ったところ

から先にある石巻工業港までの一直線の道路は水に浸かり、あちこちに車が折り重なり、橋の上や遊歩道には沢山の人々がいるわりには異様な静けさがありました。あまりの光景を目の当たりにし声も無く、ただただ茫然とするだけでした。涙が出てきて止まらず、手で拭って急いで家に戻り妻と娘に見てきた状況を話し、我々家族がそろって生きていることは運が良かったこと、生かされたことに感謝し今後の生活はそのことを念頭において行動することを確認し合いました。3月13日(日)、震災二日目になっても徐々にしか水が退かず、家の外に出てそれをぼんやり眺めていると、検死の協力を要請する防災無線放送が聞こえてきました。それを聞いて今の自分に出来る事、しなくてはならない事が決まりました。私自身の自己満足でしかないことを妻と娘に説明し、二人は快諾してくれました。次の日、3月14日の朝、妻は弁当を作って送り出してくれました。遺体収容所は山の上にある石巻市総合体育館で、車では通常10分程度の距離でしたので、ガソリンが走行可能距離100kmぐらいしか残っていなかったのですが、自家用車で行くことにしました。目的地までの光景は更に愕然とするものでした。道路には人があふれ、手には長い棒を持ち、背中にはリュックを背負い、まるで終戦後の様子とオーバーラップしました。車道にも歩道にも、民家にも商店にも車や瓦礫が散乱し、道路は津波の後の汚泥でぬかるんでいました。小一時間程かかって到着しました。身分証明として日本歯科医師会会員のカードを提示し、市の職員に検死会場に案内してもらいました。関係者以外(ほとんどは警察官)は中に入れないようにガードされたバスケットコート2面程の体育館にはすでに数十体の

遺体が並べられ、警察官はそれぞれの役割に従って黙々と行動していました。歯科医師会の誰かがいるだろうとあたりを見回しましたが誰もいませんでした。そこで『自分は石巻歯科医師会所属の歯科医師で鈴木裕と申します。身元確認のお手伝いにきました』と自己紹介しました。担当の警察官が応対してくれ、検死担当の医師を紹介してくれました。その医師は偶然にも自分と面識があり、20年ぶりの対面でしたが僕のことを覚えていてくれて、そのおかげでその後の歯科的検死作業もスムーズに出来ました。僕のアシストとしてSさんという女性の鑑識官を付けてくれました。自分は警察協力歯科医師でもなく、講習会を受けたことも無い、普通の一歯科医師としての立場で手伝いをしようと思ったので最低限の準備をただけでした。歯科的検案が終わった後、身元確認遺体と身元不明遺体とに区別され、歯科的検案の対象は身元不明遺体になります。デンタルチャートが必要なのですが当然持参出来るはずもなく、警察で使用するチャートを用意してもらいました。Sさんは講義を受けた事はあるが、実践は初めてということで、二人で試行錯誤しながらの作業でした。

御遺体は人が一人立てるぐらいの間隔で床に並べられているので、床に座り込むか跨いで中腰の格好で口腔内を調べなくてはなりません。Sさんには歯式の「いろは」から教えながら私の言うとおりにチャートに記入してもらいました(今振り返ってみると、はたしてあれで役に立たただろうかと反省と後悔をしています)。ほとんどの御遺体は損傷も少なく、津波による水死のようでした。身元が確認された遺体は顔が隠されていますが、身元不明の遺体は顔だけがわかるように並



べられているので眠っているかのようですが、その顔に触れるとひんやりと冷たく開口させるのも一苦労だったので、Sさんに「開口器」があるかをたずねたら探して持ってきてくれたので大助かりでした。震災直後で当然照明など無く、窓から差し込む太陽の明かりだけでしたが、さすがに口腔内は暗く自分が用意したライトでは不十分でしたが、Sさんが用意したライトはコンパクトなLEDライトで、しかも光軸を調整でき、なによりも明るい「優れもの」でした。30分程の昼食後も休憩を取ることもなく、警察官の皆さんは仕事を再開しています。私たちも暗くなるまでの時間しかないので、ひたすらチャートを取り続けました。暗くなる前には帰宅すると妻には話しておいたのですが、外はすっかり暗くなり午後7時を過ぎていたので第一日目を終了することにし、明日はガソリンがあとわずかしかないので自宅まで迎えに来てもらうことにして帰りました。外は真っ暗闇で車のライトだけが頼りで、何とも言えぬ恐怖心を感じながら周りに細心の注意を払いながらも、早く家までたどり着きたいと念じながらハンドルを握りました。家では妻がお湯を沸かして待っていて（我が家はプロパンガスで幸いにも無傷で、スイッチを復帰させたら火を使えた）水と塩で「お清め」をした後に玄関で着衣を脱いで袋に入れ、洗面所で三日ぶりに身体を拭きました。前日（3月13日）から、震災当日に、お嬢さんの卒業式のため欠勤していた従業員の家族とその縁者、総勢7人とペットの犬一頭を歯科医院のスタッフ室と待合室それに玄関（犬専用）に避難させていました。その従業員の家は石巻工業港近くにあり、勿論家は全壊、バラバラだった家族全員の安否が確認でき、全員揃うこ

とができたのは三日後だったからです。この日以降、借り家に引っ越すまでの2週間、妻は10人分の食事の用意と、私が留守をしている間の采配をとってくれました。

第二日目（3月15日）、朝8時半に石巻警察署鑑識課のTさんが自宅まで迎えに来てくれました。「体育館」までの道程は昨日と変わらず、更に人が増えたようで一時間もかかりました。御遺体の数は更に増え100体以上になっていました。今日も自分以外の歯科医は見当たらず、「やるしかない」と自分に言い聞かせ、Sさんとチャートを取り続けました。11時過ぎ頃だったでしょうか、宮城県から派遣されたいい歯科医師5名が到着しました。東北大学歯学部先生とNTT病院勤務の先生からなるチームで、それぞれの検案の所にも別のチームが派遣されているとのこと。しかも出発前に検案レクチャーを受け、用具一式、弁当まで持参で来てくれました。彼等と一緒にバスで医科の先生も一名来てくれたのですが、その医師は東京から派遣されたようで、なんと母校法歯学教室の「花岡先生」と東京からの同じチームで宮城県入りしたことを伺って、とても心強い気持ちになりました。

応援の歯科医師の先生方は宮城県歯科医師会から渡されたデンタルチャートを持参していましたので、今後はそれに沿って検案を進めることになりました。午後になってから石巻歯科医師会会員のM先生が来ました。M先生は宮城県歯科医師会から派遣された身元確認班の一員としての立場で来られたようで、石巻での検案状況を確認するとすぐに牡鹿方面の検案所へ向かわれました。二日目の検案は応援の先生方のおかげで、自分は身体を休めることができました。というのも前述したように

床に並べられた御遺体を検案するので、腰痛が再発してきそうだったからです。その分、警察関係者、石巻市の関係者とのいろいろな交渉役を引き受けることにしました。雑用係のようなものです。応援として派遣される先生方は当日になってから派遣場所や人数が決められるということでしたが、東北大学の一人の先生は「私は明日も絶対お手伝いに来ますから!!」とおっしゃってくれました。本当に有り難かったです。ボランティアで来てくれる先生方がいるのに、地元の歯科医師が一人もいない状況にすることは自分としてはとてもはずかしいことだと思っているので、「自分も勿論来ますので、どうぞよろしくお願いします」と返答していました。応援の先生方は迎いのバスを待って帰るので、自分は先に帰らせていただきました。それでも午後7時近くになっていました。帰りの夜道は前日と同じに真っ暗闇でしたが、一人きりで帰るのではなく送っていただくということと応援の先生方が来てくれたということで、ホッとした明るい気持ちでした。

第三日目、前日より早く体育館に到着しましたが検案作業はもう始まっていましたが、搬入される数の方が多く200体を超えました。身元不明の数はそれほど増えていなかったのと、応援の先生方が到着するまでにはまだ時間がかかるので、鑑識官のSさんには本来の仕事に戻っていただくことにしました。応援の先生方が到着すると（「明日も来ます」と言ってくれた先生も勿論来てくれました）すぐに歯科的検案にとりかかります。おかげで運ばれて来たら検案するという状況でスムーズに進みました。床に並べられた身元不明の御遺体の間に毛布ですっかり包まれた小さなものが五つ並べてあ



りました。身体の一部が収容されたものもあると聞いていたので、それがそうなのかと思い検案をしなかったのですがそうではなかったのです。東京から花岡先生と一緒に来た先生（T医師）が私のところに来て、『実はあの毛布で包まれているのは、幼稚園児の焼死体で、できれば観てくれないだろうか』ということでしたので、こちらの勘違いだったことを説明しすぐに取りかかりました。（「遺体」というものを観る経験といえば家族の場合とか、せいぜい学生時の解剖実習ぐらいで今回の震災が無ければ、一歯科医師がこのような経験をするのは、一生無かったと思います）報道でも何度か取り上げられたので記憶されている方もいると思いますが、石巻でも被害が大きかった地域にある幼稚園のバスが津波におそわれ、更に発生した火災によって焼死体となった園児たちでした。毛布をそっと剥がしながら開くと真っ黒に炭化した小さな御遺体でした。触れると崩れてきそう、傷つけないように視診するだけで精いっぱいでした。なかには視診すら出来ない状態の御遺体もあり「検案不可能」と記入したチャートもありました。

震災五日目になると全国各地からのいろいろな応援が石巻に来てくれました。体育館には「三郷市」のゼッケンを着けた6名の方がいて、話を伺ったところ埼玉県三郷市の医師会の先生3名と三郷市消防署の救急救命士3名のグループと説明してくれました。後になってから判ったことですが、三郷市医師会会長自らがチームを結成し、自己完結型（食料、就寝用テント、医薬品、その他もろもろ）のボランティアとして石巻まで来て応援してくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。三日目は午後7時前には帰宅したのです

が、いろいろな応援に対する感謝の気持ちと亡くなられた方々（特に幼稚園児）への思いとが交錯した一日でした。この日娘の携帯電話が千葉県にいる息子とつながり、お互いの無事を確認できました。また同期の学友が大学を通じて息子に連絡してきて私の安否を心配してくれていたことを知り、無事なことと感謝していることを伝えるよう頼みました。

第四日目、この日は私は検案に参加することはほとんどなく、応援の先生方が引き受けてくれました。腰痛が悪化し杖無しでは歩行が難しくなってきたからです。しかしこれまで通りに、収容された御遺体は身元確認も身元不明も総て確認することだけは続けました。自己満足のためにはじめたことですが、もう一つの理由として、あつては欲しくないことですが、もし自分の患者さんがここに収容され見つけることが出来たなら、一刻も早く家族の方に知らせあげたいと思ったからです。そういう意味で四日目は私にとってドラマティックな一日でした。身元不明として並んでいた列のある番号（遺体番号）の順番になり、顔を見ると見覚えのある顔でした。口腔内を確認するとまさしく自分の患者さんのS・Kさんでした。すぐに係の警察官に伝え、遺体番号を控えました。ドラマティックなことはこれだけでは無かったのです。遺体収容所としての体育館には、家族や縁者を探し求める人々が沢山集まっていたが、収容しているコート内は関係者以外立ち入り禁止区域で確認のために立ち入ることのできるのは一組ずつでした。検案作業中に近づいた時には中止して、確認しやすいようにしていました。係の警察官に案内されて一組の若い男女が入ってきました。私のいる方に近づきながら説明している言葉が耳に入り、とても驚

きました。「S・K」という名前だったのです。立ち上がってそばまで行き、「O・Mさんを知っていますか？A・TさんとA・Yさんを知っているS・Kさんのことですか？」と尋ねました。O・Mさんは以前私の歯科医院のスタッフで彼女の紹介患者がS・Kさんだったからです。A・TさんとA・Yさんは御夫婦でO・Mさんの御両親なのです。回答はまさしくその通りでした。すぐに案内して確認してもらったところ「間違いなく、父のS・Kです」という言葉を聞いて、私は思わず「よかった」と言ってしまうました。自分の患者さんが震災の被害に遭って亡くなるのは勿論つらいことですが、一人でも身元確認が出来て、お手伝いが出来て良かったと思いました。四日目にもなると数が増え300体近くになりました。体育館ではこれ以上収容しきれず、次の搬入場所として「旧石巻青果花卉市場」に収容し、3月18日以降の検案はそちらに移動することになりました。石巻歯科医師会の警察協力医担当の先生も検案に参加できるようになったので、3月18日は休ませていただくことになりました。3月19日、「旧石巻青果花卉市場（青果市場）」まで自宅から徒歩で20分程なので歩いて行きました。その場所は青果市場が今年の初めに他の場所に移転したばかりで空いていて、体育館など比較にならない程の収容面積があり、しかも冷暗所と同じ環境なので収容された御遺体は長い間それほど傷みもせず、検案する側にとっても助かりました。ただそこも津波の被害を受けた場所のため、地面にビニールシートを敷きそこに並べるので、歯科的検案は前にも増して過酷な状況となりました。青果市場へは午前9時までには到着したのですが、応援の到着はまだでした。それ

で会場を一通り歩いてみたのですが、医科的検案のブースは4～5に増え発電機による照明設備もあり、全国から応援に駆けつけた警察がそれぞれ分担するシステムが構築されていました。歯科はというと、医科的検案ブースが増える毎に移動し、デンタルチャート作成のための少しばかりの机と椅子が用意されているだけで、照明設備も無ければ休憩をとる場所がありません。後で聞いてわかったことですが、昼食をとる場所も無く前日は御遺体を前に食べたということを知り、とても申し訳ない気持ちでいっぱいでした。午前11時ごろには応援が到着しました。その数も増え、20名程になっていました。この日以降おかげで私は裏方に専念することにし、石巻市の責任者に交渉して歯科のブースにも照明設備を少なくとも3台、人数分のテーブルと椅子、そして昼食をとれる部屋の確保ができました。また自分自身杖を使わないと歩けない状況になっていたので、石巻市の責任者に話したところ「石巻市緊急車両」と印刷された用紙を提供してくれ、指

定のスタンドでガソリンを確保することが出来ました。ガソリンは夜からしか供給されず、2～3時間待ちで勿論自腹ですが、大変助かりました。チャートが足りなくなった時には自宅に戻り、あるだけの用紙を集めてコピーして間に合わせたり、警察署から支給された飲み物が大きいペットボトルのため、患者さん用の紙コップを取りに戻ったりと、自分に出来る範囲でお手伝いをさせてもらいました。青果市場は相当な広さらしく、自分が検案の手伝いの最終日になる3月24日までの間に収容された数は1,000を超えました。3月25日以降は、大変申し訳なかったのですが、自分の歯科医院再開のため手を引かせていただきました。

これまで自分は普通の一歯科医師としてのみのお手伝いだったのだからと自分自身に言い聞かせてきましたが、釈然としないものがあり、宮城県歯科医師会の講習を受け、警察協力歯科医師としての認定を受け、石巻警察署の嘱託歯科医師として登録しました。現在は自分に出来る範囲で月に1～2回、身元確認のお手

伝いをさせて頂いています。9月22日現在、石巻市で収容された御遺体は3,235体、亡くなった石巻市民は2,671名、身元不明158名、行方不明759名で、石巻市・東松島市・女川町を合わせると900名程が行方不明となっております。これまで書いてきたことは、職業上の知り得た事項が多々含まれていますので、外部に伝わらないように御配慮いただければと思っております。

今回の東日本大震災に際して「自衛隊」の方々には本当に感謝します。被災者としてどれほど有り難く、心強い存在となったことか。自分が知り得た範囲ではありますが、警察官の方々、全国各地からのボランティアの方々、そして東京歯科大学の本校、同窓会、県支部同窓会、同期会からの御支援、御見舞いに対し、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ただ長いだけの文章になってしまいましたが、私の場合の東日本大震災について書いてみました。



## 東日本大震災における身元確認

仙台市青葉区 駒形守俊

(平成2年卒)

2011年3月11日午後2時46分宮城沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生した。発生後数時間で想定を超える巨大津波が沿岸部を襲い多くの死者を出した。後に東日本大震災と名付けられる私たちの想像を絶するものであった。

2010年11月24日宮歯会館にて毎年行われる宮城県歯科医師会身元確認

実習の昼食の席でお弁当を食べながら宮城県警鑑識課課長伊東氏と身元確認班班長江澤先生等と雑談中に「この実習が何時か役立つ時が来るのだなあ、出来ればそんな時が来なければ良いですね。」「いったいつ宮城県沖地震くるのか。」などと話をしていた。毎年実習の昼食時にはこんな話をしていたと思う。私は数

年前から宮城県歯科医師会大規模災害対策本部身元確認班に入っている。この実習は宮城県歯科医師会の呼びかけで宮城県警、宮城海上保安部、東北大学などと合同に行っておりこれまで4回を数える。このような事業を続けて行っている歯科医師会は全国でもあまり例がないらしい。近々来ると言われている宮城県



沖地震への対応としては必要な事業と言える。そして宮城県よりも先にこのような事業を行ってきた福島県のチャートを参考にして独自にチャートを作成し関係機関と連絡を密にして、これまで連携を構築し深めてきた。

2011年3月11日午後8時停電で真っ暗な家の中にいると玄関をドンと叩く音（停電でインターホンが使えない）が聞こえた。何かと思い急いで階段を降りて玄関を開けるとそこには江澤先生が立っていた。「今県警から連絡があり、明日9時若林区体育館で検視をすることになった。3名集めなくてははいけない。先生いけますか？」という事だった。わかりましたと答え明日の準備などを聞き早速用意を始めた。暗闇で部屋が滅茶苦茶な状態で仙歯の帽子、腕章、名札などを探しバックに詰め込んだ。余震が続く中ラジオを聞いていると各地の悲惨な情報が入ってくる。荒浜では御遺体が200から300体位浮かんでおりそこに行く事も出来ない、気仙沼市は町が火の海で消火活動も行われていない、南三陸町は町ごと無くなってしまった…まさかと耳を疑う事ばかりで余震でおびえる子供たちに大丈夫だと慰めながらも私自身も大きな不安の中にいたと思う。それから2時間程経ち再び玄関を叩く音がし行くとまた江澤先生が立っていて、場所が利府のグランディに変更になった。もう一名は身元確認班の柏崎先生にやってもらったので柏崎先生の家まで私の車で行き翌日の打ち合わせをした。このような災害時の場合、通常の通信機器は停電や通信規制でうまく機能しないため、実際に歩いて現場に行くという原始的な方法が一番有効であることを実感した。ただ事故や二次災害に巻き込まれる事もあるので十分な注意は

必要ではある。その晩は余震や翌日の検視の緊張のためなかなか寝付けなかった。

翌3月12日、忘れられない日になった。朝早く目が覚め、あるもので朝食をとった。寝不足のせいか頭が重い。まだかなり大きな余震が続いており今後どうなるかも予想もできない状況で家族を残し出かけるのは非常に不安だったが、家内に「行ってくる、子供たちを頼む」と言い車に乗り込んだ。家内は「気をつけて」と言って送り出してくれた。今まで家内にはあまり感謝した事はないが、このとき何も文句も言わずに出してくれた事だけは本当に頭が下がる。グランディへ向かう道、信号が消えているので注意しながら運転をした。いたる所で地割れ、建物が倒壊している。改めて今回の地震の大きさを知る。予定より早めに着くと駐車場にはすでにパトカー、自衛隊車両が沢山停まっていた。気を引き締めて中に入るとそこには今まで経験した事のない悲惨な光景があった。ブルーのビニールシートの上に並べてあった御遺体は、数としては一体いくつだったであろうか？当然だが、このような数の御遺体を一度に見たのは初めてである。ほとんどの方が溺死であった。整然と並べられている御遺体の間を抜け受付に行き警察関係や医師会の先生方と挨拶し、打ち合わせを行い、早速3人で検視作業に取り掛かった。まずは御遺体に対し合掌し遺体番号を読み上げる。2人で口腔内を見て1人がチャートを書く。緊張のせいか足が震える。口腔内は泥や砂、または海水で良く見えない。少しずつ汚れを落としながら3人で作業を続けた。多くの方があまり外傷もなく苦しんだ顔をされてないのがわずかながらの救いだ。ただただ無我夢中だったと思

う、恐怖心とかはあまり感じなかった。非日常的な空間でしかも体育館には時計がなく、時間的観念が無くなってくる。もう何時間見たのだろうか？何人の方を見たのだろうか？ゴム手袋を2枚重ねて行っていたが、今まで冷たい海水の中に居たためか御遺体の顔はものすごく冷たい…手がかじかんでくる。命を失った温度というものなのか。気づいたら昼をとうに過ぎ、休憩となり昼食となったが食欲がない。持ってきたカロリーメイトをなんとか口に入れお茶で流し込む。その間もどんどん御遺体は運ばれてくる。15分くらい休んでまた始めた。午後遅くなってくると死後硬直のせいかだんだん口が開かなくなる。傷つけないよう細心の注意を払いながら開口器で口を開け見る。外も暗くなってきて停電で照明がつかない体育館の中は徐々に暗くなってきた。数台の自家発電機がブーンとけたたましい音を立てて電気を起こし工事現場にあるような丸い大きな電気スタンドに明かりを灯した。あの広い中に数本の電気スタンドでは薄暗い。さらに懐中電灯で口腔内を照らしてはいるが良く見えない。発電機の音でお互いの声も聞きとりづらい、もし間違えて歯式をとってしまい身元が分からなくなってしまっただけで責任は重大である。3人で目を凝らし何度も何度も確認しながら行った。御遺体の中にはまだ1歳にも満たない赤ちゃんや小学生くらいの子供もいた。この子は何のため生まれてきたのだろうか？…この方は一昨日まで普通に暮らしていたのに…なぜ？…何も悪い事をしたわけでもないのに…と、何とも言えないどこにぶつけて良いのかわからない怒りや悲しみで胸が詰まり、人間の無力さを痛感し、理不尽ともいえる出来事に心が消耗してきた。また頭痛がしてき



た。今、何時だろう？家の方は大丈夫だろうか？すこし時間が空いたので携帯電話を取り出した。その時はすでに午後7時を回っていた。家に電話をしたがやはり繋がらない。それでもまだまだ御遺体は運ばれてくる。いつまで続くのだろうか？しかしそんなことは言っていられない。みんな必死に頑張っているのだから。それでもみんなの顔に疲労の色が現れてきた。8時半ごろか今日はこれで終了となった。また明朝9時に集合となり外に出るとあたり一面真っ暗だった。3月でまだ寒く車のフロントガラスは凍りついていて、エンジンを掛け暖気しデフで氷を溶かしている間、ふと空を見上げてみると一面に星が輝いていた。きれいだった。こんな時に不謹慎かもしれないがそう思った。こんなにきれいな星空を見たのは生まれて初めてで、しばらく見ているとなぜか目から涙が出てきた。多くの方がお亡くなりになりもう星になってしまったのかと。

帰りは暗闇の利府街道を車を走らせたが、当然知っているはずの道なのに信号も建物も看板も見えないため迷いそうになり、ナビをセットして帰宅した。

帰宅後、家族も無事で昼間はみんな後片付けや買い出しをし、子供たちは疲れて寝ていた。家内がコンロで温かいうどんを作ってくれた。

本当に美味しかった。再び目から涙が、そして「今日の事は今は聞かないでくれ、落ち着いたら話す」と言ったら家内は何も聞かなかった。後から江澤先生と話をした時、江澤先生も奥様に同じようなことを言ったそうだ。

翌13日朝またグランディに向かう。空は青空である。今日は江澤先生と2人である。午後には何人かの先生が応援に来てくれる事となっている。それまで頑張ろうと自分を奮い立たせ1人1人の御遺体を誠心誠意を込めて見た。午後1時過ぎ頃半澤宮齒副会長、大内宏文先生、佐藤 勝先生、宮澤先生が来てくれた。正直ホッとした。引き継ぎをして私の本日の作業は終了した。

その後何回かグランディ、南三陸町と行ったが、日に日に御遺体の状態が悪くなってきている。このような状況の中では指紋を用いた判定はなかなか出来ず、DNA鑑定も困難な例も多くありデンタルチャートの有用性が非常に高くなってきていると思われる。また検視の結果を照合するためには先生方からのカルテなどの情報の提供が不可欠である。そのような時は是非御協力して頂くようこの場を借りてお願いしたい。

現在は検視の他に、県警本部で毎日夕方6時半頃から9時近くまで照合作業や先生方から頂いたカルテ起こし、さらにそれをコンピューター

にデータ入力を行い少しでも早く、また多くの方の身元が判明し御遺族の元へ帰れるようにと作業を行っている。私のような若輩者が偉そうに言うわけではないが、今回のような時に検視を含め色々な側面から歯科医師として社会に貢献することにより、我々の職業の尊さを広く国民に知らしめることができるのではないかとと思う。警察関係の方々と話をしても、こんなにも歯科医師の先生方に協力して頂いてありがたいと感謝の言葉ばかりである。警察庁によると、現在もまだ宮城県では行方不明者約2,400名とまだまだ長い道のりではあるようだが、この検視活動により身元を確認できた人も大勢居る。今まで御協力頂いた先生方には深く感謝するとともに、引き続き御協力を心からお願いし筆を置きたい。

2021年3月11日10年前に大きな地震があったが日本人みんな力を合わせて良くここまで復興したとニュースが流れている。それを聞き昔を思い出している55歳の自分が居る。あの時は僕らもがんばったよねと…。

なお、当時を思い出しながら書いた原稿であるが記憶があいまいな所や定かでない事があり事実と多少違う事もあるかもしれないので、その点をご容赦願いたい。

10月号東日本大震災対策部会に掲載の宮城県の3先生（田島 守、伊藤英美子、小野 喬）と本号の宮城県の2先生（鈴木 裕、駒形守俊）のご投稿は、宮城県支部「支部だより」に掲載予定のものを、支部長のご好意により一部変更の上転載しております。貴重なご体験を同窓会報でもご紹介させていただきました。

## TDC 卒後研修セミナー2012のご案内

### TDC 卒後研修セミナー2012

#### 「科学の視，信頼の技術」

TDC 卒後研修セミナー2012のプログラムが決まりましたのでお知らせいたします。

メインテーマは「科学の視(め)，信頼の技術」です。

私たち，歯科医療従事者には，国民に対して最良の歯科医療を提供すべき責任と義務があります。そのためには常に新しい情報を収集し，技術を習得することを怠ってはなりません。

しかし，玉石混淆とも言われる現代の情報化社会において，エビデンスの高い情報を選択し，それに基づいた知識と技術を習得するのは案外

難しいのではないのでしょうか。つまり，科学的根拠に基づいた情報を見いだす視点を持ち，それに基づいた技術を身につけるスキルアップが大切になってきます。

さらに，歯科において重要な経験値についても取り上げてみました。臨床現場では，経験豊富な先人達が多くの臨床経験を蓄積しています。経験の蓄積は，エビデンスレベルの高い論文となることは希ですが，決して軽んじるべきものではありません。この蓄積は，これからの歯科界を担う若い歯科医師にとって，大切な教えや道標となるものと考えてお



ります。

このように，歯科の臨床においては科学的な視点で選ばれたエビデンスと信頼の技術力，そして経験値の全てが必要不可欠となります。そこでTDC 卒後研修セミナー2012では，メインテーマを「科学の視，信



頼の技術」と題して年間のプログラムを企画しました。セミナー構成は、先輩歯科医師の経験を生で得ることができるチュートリアル形式のベーシックセミナー、診療後に参加しやすい夕方から開講されるイブニングセミナー、日曜日にじっくりと技術を身につけることができる臨床実習セミナーを企画しています。どのプログラムも、比較的若い歯科医師や経験値の浅い方向けに企画してみました。講師やインストラクターから科学的根拠に基づいた知識や技術、経験値を吸収するチャンスです。

4月22日(日)には、ベーシックセミナー「初診の患者さんをどうみるか?」～診察と検査のPoint～を1年の最初のプログラムとして開催します。具体的な内容としては、初診時に視るべきポイント、診査のコツ、治療計画の立案までを、チュートリアル形式で考えていきます。

模擬チュートリアルを行うことによって、自分が気づかない点をチューターや他の受講生から知ることができます。初診時に視るべきポイント整理することで、治療計画が確かな物になり、良好な予後を期待することができるでしょう。また、年間のセミナーテーマ、内容を含んだ症例を取り扱う予定となっております。2012年の卒後研修セミナーのテーマである「科学の視(め)、信頼の技術」を常に生かすためには、ど

うしたら良いかを理解することを主眼におきました。

そして、忙しい毎日の中でも効果的に知識を身につけることができるセミナーとして、3つのイブニングセミナーを提案します。6月28日(木)「有病者の歯科治療で何を注意すべきか」～歯科治療時に医療事故を起こす前に～、7月21日(土)「最新 重度歯周炎患者へのアプローチ」～プロービングだけでは分からない歯周炎病態の把握～、10月27日(土)「開業医が取り組む摂食嚥下リハビリテーション 入門編」～診療室からはじめる口腔機能向上へのアプローチ～の3回です。本学教授、准教授と学術委員が講師を担当します。木曜日、土曜日の夕方にお気軽にご受講されてはいかがでしょうか。

今回の臨床実習セミナーは、7月22日(日)に「細菌・抗体検査の実際と歯周外科実習」～重度歯周炎患者へのアプローチ～、10月28日(日)に「たったこれだけ!MTM!」～タイポドントでマスターする基本の「き」～を企画しました。両セミナーとも、大学担当講座の医局員や学会指導医・専門医・認定医を中心に実習指導を行います。セミナーを通して基本的な技術を身につけることを目的としています。

これまでご案内のTDC卒後研修セミナー2012年は過去にない企画として、若手同窓支援のための特別受講料を用意しました。上記2つの臨

床実習セミナーの中から1つ、20,000円割引で受講することができます。詳細は本同窓会報に同梱の専用申込用紙に記載されておりますのでご覧下さい。東京歯科大学卒後10年目までの方を対象とした受講料を割引する制度です。またとない機会ですのでご利用下さい。

また、TDC卒後研修セミナーではこの他に、基本技術のさらなるステップアップを目指した企画として、昨年たいへん好評をいただいたTDCインプラントセミナー・マスターコースを2012年も年間コースとして開催します。講師陣は、本学の誇る口腔インプラント関係のエキスパートである、教授、准教授で構成されております。講演と実習以外に、講師陣と受講者によるオープンディスカッション、スモールグループ・ディスカッションを行います。症例検討を通してインプラント治療のプロセスを理解し、統合的なスキルアップを図ることができる画期的なセミナー内容となっております。

インプラントを臨床で活用されている先生方にとって、メーカーや代理店主催の講習会、あるいはインプラント学会指定の専門医コースとは一味違うこのコースを受講され、インプラント治療を通して患者さんと長く付き合い、信頼される医療を提供していただければと思います。

以上、TDC卒後研修セミナー2012およびインプラントセミナー・マスターコース2012についてご紹介いたしました。是非とも、それぞれのプログラムをお手にとってご覧になり、ご検討の上ご参加下さいますよう、委員一同お待ちしております。

TDC 卒後研修セミナー2012

プログラム委員長 高橋潤一





## 卒研レポート2011

## TDC インプラントセミナー

## マスターコース最終回

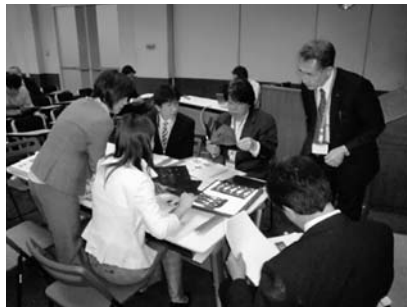
秋風も吹き始めた10月最初の土・日に、上記セミナーの最終回取材してきました。10日間に及ぶマスターセミナーも残すところあと2日で終了です。代表的なシステムの特徴・手順などのテクニックは前回までで既に終わり、最後の2日間は総括と症例検討が行われました。

9日目の最初は武田先生による「上部構造装着後のトラブルの対応」「何のためのインプラント治療か？」の講義でした。上部構造の経年的変化への対応として、①上部構造の咬耗、磨耗は必然的であり、さらに天然歯とインプラントのコンタクトポイントは離開すると考えておくべきである。②上部構造は、修理可能な術者可撤式が原則である。③ブラキシズムへの対処は必需である。具体的にはナイトガードの使用、咬合面の材質、フレームの形状の工夫など。④メンテナンス時には咬合の変化に重点を置くべきである。⑤力の受け皿となる脆弱な上顎を優先したインプラント補綴を基本

とすべきである、と話されました。

続いて関根先生による「メンテナンス」では、①押し付けない指導②自発的に受けとなるクリーニング③担当医と相談、担当医に報告、の3つをまとめとして話されました。

午後の講義は「最後に押さえておきたいポイント」と題して、飯島先生、椎貝先生、武田先生、関根先生の4先生が各30分の時間で解説をしていただき9日目が終了しました。



最終日は、午前・午後に1症例ずつ「実践的症例ディスカッション」として4名の小グループに別れ、グループディスカッション、発表がありました。臨床経験・インプラント

経験がそれぞれ違い、考え方やアプローチ方法など色々な意見がこれからの臨床に大変役立つ内容でした。

最後に大山同窓会会長より終了証が全員に授与され、記念撮影をして全日程が無事に終了いたしました。

惜しみなく丁寧に指導していただいた先生方、周到な準備をしていただいた学術委員のご苦勞があつて終了できた素晴らしいセミナーでした。

〔実習中の写真が同窓会ホームページ TDC セミナーインプラントマスターコース詳細に多数掲載されていますのでそちらもご覧下さい〕

(取材・広報部 福井雅之)



## 卒研レポート2011

## 『iPad を使った患者さんとのコミュニケーション』

## ～臨床記録の保存と活用～



2011年11月17日に TDC ビル13階会議室にて同窓会卒後研修イブニングセミナー「iPad を使った患者さんとのコミュニケーション」が約90名の受講者を得て開催されました。

iPad (アイパッド) は、アップル社によって開発及び販売されているタブレット型コンピューターです。2010年5月にソフトバンクモバイルより発売され、現在は iPad2 となりました。

このセミナーは当初3月24日に開催の予定でしたが、東日本大震災の影響により延期になっていたものです。

講師として口腔科学研究センター新谷益郎准教授が講演されました。先生はまず、セミナーが8ヶ月間延期になったことにより、ハード、ソフトともに大きな進歩を遂げ、臨床現場で十分に利用する環境が整ったとのことでした。

特に動画を自由に扱えることとなり、また iCloud によりレントゲン写真等のデータを一元管理することが可能となり、他のデバイスとのデータの共用が容易になり現場での有用性が高まりました。

では、iPad をどの様に取り入れればよいでしょうか。先生は本講演では臨床ですぐに使えるような歯科専用のソフトウェアはまだ存在せ

ず、種々の汎用ソフトをアイデアを駆使して活用し診療のすき間をうめ、患者さんの深い理解とコミュニケーションのツールとして活用してほしいとのことでした。さらにソフトの進化は非常に早いので特にこの場では特定のソフトは推薦せず、常に新しいソフトの利用をリサーチすることが必要です。

ソフトウェアは Mac の App Store の14万種類から導入できますが、歯科関係のソフトは日本語で19種、英語を含めても約130種であり有用なものは見当たりません。

iPad を導入する目的は有用なインターフェースとしてチェアサイドで電子カルテ、レセコン、画像管理、予約システム等に利用することですが、実際にはまだそのような歯科用ソフトは存在しません。また、現在完成している既存のシステムに iPad を導入するのは極めて困難です。したがって専用ソフトにこだわらず、汎用のアプリケーションソフトを利用して、自分のニーズに合ったものを作り上げてゆくことが必要です。最先端の情報端末として見るのではなく、もっとプリミティブにとらえてみましょう。

iPad の特長は

- ①凹凸がほとんどない。
- ②ワイヤレス (通信・電源)

③キーボード・マウスが不要

④タッチパネル

などが挙げられ、従来のパソコンに比較して、軽く自由度が高く起動が速く操作が簡単で、チェアサイドで非常に使いやすくなっています。例えば、既成のパンフレットを取り込んだり、シャーカステンとしても利用できますし、face time を利用してテレビ電話としてラボサイドとのやり取りもできます。機器や薬品の説明書をネットからダウンロードしたり、スタッフの教育にも利用できます。清掃・消毒はイソプロピルアルコールで清拭ができます。さらにジップロックの1ガロン用でラップして防水ができ、さらに滅菌バッグを滅菌し、これに入れることにより手術現場でも利用できます。iPad はゴム手袋をしていても問題なく操作ができます。

どんなに優れたシステムでも簡単でなければ、利用されなくなってしまいます。その点 iPad は優れた資質を持っているといえます。何よりも使っていて楽しいことが長期に利用できることにつながります。ぜひ工夫をしてよりよい自分に合ったシステムを構築してほしいとのことでした。(取材・広報部 小池 修)

# 母校だより

## 第43回東歯祭開催

第43回東歯祭が平成23年10月29日（土）～30日（日）の2日間にわたり開催された。今年は井上高暢実行委員長（3年）を中心に精鋭約20名の実行委員が一丸となって企画・準備・運営にあたった。今年は穏やか



な天候に恵まれて、地元千葉に本拠地を置く千葉ロッテマリーンズからマー君ファミリーと公認チアリーダーチーム：M☆splash!!が、じゃんけん大会やダンスショーや千葉西高等学校吹奏楽部の演奏や近隣の児



童によるちびっこダンス等の参加協力もあり東歯祭を盛り上げた。展示部門・模擬店・お笑いライブも例年通りの盛り上がりを見せ、2日間で約2,500名を動員した大学祭となった。



## 第43回全日本歯科学生総合体育大会夏期大会開催

第43回歯学体は、日本歯科大学生命歯学部が事務主管となって8月1日（水）から8月11日（木）まで関東地方を中心に熱戦が繰り広げられた。今回の歯学体は、東日本大震災で被災した大学に配慮して各部門の順位は発表するが総合成績は発表し



ないことが決定されたが、各クラブとも連日手に汗握る好ゲームが展開された。

本学からは、18部門304名の部員が各部門ごとに参加した。ユニフォームやキャップなどに「頑張ろう日本」のワッペンやシールなどを



身に着けて試合に臨み、震災の被害を受けた方々を少しでも勇気づけようと頑張った。

硬式庭球部・アベック優勝、バレーボール部・男子優勝、水泳部が優勝に輝き、弓道部は3位となった。





## 第335回大学院セミナー

# 幕末明治の人材育成—会津、薩摩、高山紀斎



### 1. 『武士の家計簿』の著者磯田道史先生の大学院セミナー

「武士の家計簿」の著者茨城大学人文学部准教授磯田道史先生講演の大学院セミナーが11月10日(木)千葉校舎第2教室にて開催されました。磯田先生は近世から近代の日本史がご専門です。幕末明治の人材育成において、それぞれの藩における教育の特徴と、なぜ薩摩が優れていたのか？薩摩における「判断力を鍛える」教育についてお話しされました。

### 2. 磯田道史先生と高山紀斎先生の血のつながり

磯田先生は今回の講演に先立ち東京歯科のホームページを見て先祖の名前が出ているところから高山紀斎先生との関係に気がついたそうです。高山紀斎先生は叔父の磯田郡次兵衛由道から儒学や素読を授かりましたが、その郡次兵衛から5代後がこの磯田道史先生です。高山家についてもその出自や、紀斎の育った下級武士の厳しい生活環境についてもお話しされました。

また紀斎が討幕軍に加わったことが大学ホームページに載っていますが、明治元年に備前(岡山)藩の隊列を外国人水兵が横切ったことによ

り起きた神戸事件で、紀斎の隊長であった滝善三郎が責任を取られ切腹しています。この事件が紀斎が外国で勉強しようと考えたことに影響しているとも考えられるでしょうということでした。

### 3. 会津藩の教育(六科六行八則)とその限界

会津藩では、身分ごとに、すべきこと、すべきでないことの道德規準をはっきり指定していました。これがリカリケギョウハツゾク六科六行八則であり、藩士になるべき人間像、日々努めるべき行動、してはならない8つの掟を決めました。人間とはこうだ、武士とはこうだと形を決め、それを無批判に受け入れることで紋切り型の答えをする優等生を大量生産するには適していたようですが、深い人間、面白い人間は育ちにくいということです。

### 4. 薩摩藩の郷中教育

それに対して薩摩ではゴジュウキョウウイク郷中教育という藩校ではなく、一見粗野で野蛮な教育を行っていました。詰め込んで教えるのではなく具体的な実践教育を行っていました。その中で詮議といって先輩が後輩に質問する。例えば「石垣の上から、つばを吐きかけられたら、どうするか」「中

に入り、つばを吐いた人間をとちめる」と答えたものは不心得とされます。そこで「平然と通る」と答え直すと心がけが良いと先輩は褒めるが、「石垣のそばを通るから無礼にあう。道の真ん中をあるくようにしろ。」と付け加え、「その知恵をもって油断なく日常の一举手一投足を考えよ。」このような思考を何千回も繰り返す訓練によりの確な判断力が養われ、西郷隆盛や東郷平八郎を生んだというのです。

### 5. 判断力の練磨と現代

磯田先生は子供に「もし、こうなら」と想定して考えさせる判断力練磨の教育が、現代において最も重要と考えています。原発事故の想定外にもしっかりと判断できることが大事だということです。

尤も臨床の諸問題も同じと考ええます。臨床では思いもしないことが起きます。その時にどうしたら良いのか、そしてどのように考えることが「石垣のそばを通らない」日常の臨床を行うことになるのか、「訓練」することはまだまだ多いようです。

(取材・広報部 三友和夫)

# 支部のうごき

## 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成24年 2月5日(日) 午後2時30分～ 午後5時	「歯科医に必要な摂食・嚥下の解剖学」(仮題)  井出吉信教授 (東歯大解剖学講座・学長)	ホテルボストンプラザ草津 草津市西大路町1-27 TEL 077-561-3311	滋賀県支部 連絡先 担当・尾松素樹 TEL 077-522-3210	支部会員 同窓会員

## 東京地域支部連合会

### 城南ブロック連絡協議会

平成23年7月30日(土)、渋谷エクセルホテル東急において、東京城南ブロック役員協議会が開催されました。城南ブロックは、品川支部、荏原支部、目黒支部、大森支部、蒲田支部、世田谷支部、玉川支部の7つの支部で構成され、各支部より20名余りの参加がありました。

世田谷支部の加藤孝信副会長の司会で、先ず矢崎秀昭東京地域支部連合会会長のご挨拶、続いて白井文規



広報担当理事から、本部機構改革、ならびに会則の変更についてお話がありました。

次に、世田谷区歯科医師会の濱上



弘晴専務理事より、公益社団法人の認可についての説明がありました。世田谷区歯科医師会は、すでに公益社団法人として認可されていますが、そこに至るまでの問題点や、その対処法など、同窓会ならではの突っ込んだ説明をしていただけたと思います。時間の関係で最後になってしまいましたが、各支部長より支部の近況報告をしていただきました。各支部共通の悩みは、若い先生の入会が少なく高齢化が進んだこと。また、入会しても色々な活動になかなか参加していただけないという事でした。多くの先生、特に若い先生方の参加よろしくお願いたします。(石井孝典 記)





## 関東地域支部連合会

### 平成23年度総会

平成23年9月3日(土), 甲府市「常磐ホテル」において関東地域支部連合会の総会が、山梨県の当番県のもと開催されました。金山 昇山梨県支部庶務理事の司会で、三木正夫山梨県支部副支部長の開会の辞で始まりました。大森浄二関東地域支部連合会会長の挨拶では、大型台風が関東地方に上陸中で開催も危ぶまれるなか、なんとか大きな交通の混乱もなく無事に来県していただいたことへの感謝の意が述べられました。来賓として大山萬夫同窓会会長、金子讓理事長、三塚憲二山梨県歯会長をお招きし、それぞれ祝辞をいただきました。続いて大森支部連合会長の議長のもと、報告として井出吉信学長から大学の水道橋移転に関する現状と今後の予定、入試と国家試験の現状などを、高橋義一同窓会専務理事より同窓会改革、寄付のお願いな



どが報告されました。また総会に先立ち行われた支部長懇談会の報告(大規模災害時における関東地域支部連合会所属支部の連携体制についてなど)が大森連合会長から、会務報告が金山庶務理事からあり、議事においても各議案とも承認されました。そして次期当番県である加藤木健神奈川県支部連合同窓会長の挨拶があり、渡辺富裕山梨県支部副支部長の閉会の辞で総会を終えました。

記念講演会は帝京大学山梨文化財研究所所長・萩原三雄先生に「武田信玄、人と政策」という演題でご講



演していただきました。

懇親会は渡辺 順山梨県支部理事の司会のもと、来賓の関 泰忠同窓会副会長にご挨拶をいただき、金山公彦山梨県支部顧問の乾杯で幕を開けました。今年は大震災のため、本来ならば参加して下さった先生方に差し上げる記念品分の予算を義援金として同窓会に寄附させていただきましたとの報告がありました。お酒も入り和やかな雰囲気の中、各県の先生方が交友、歓談し盛会のうちにお開きとなりました。

(阿久津 仁 記)





## 信越地域支部連合会

### 平成23年度信越地域支部連合会総会 長野県連合会総会

平成23年10月1日（土）諏訪市のラコ華乃井ホテルにおいて、東京歯科大学同窓会信越地域支部連合会総会、長野県連合会総会が開催され、新潟県支部8名の会員を含め53名が集まった。

総会に先立ち午後1時30分より支部長会が行われ、同窓会本部の機構改革について臼井常任理事より説明があり、各支部長からもご意見を頂き、将来の方向性について話し合いがもたれた。

午後2時30分より長野県連合会総会が開催され、会務報告、22年度会計報告などが行われた。午後3時より信越地域支部連合会総会が開催され、来賓として同窓会本部より副会長片倉恵男先生、常任理事臼井文規先生、大学より理事長の金子 譲先生、水道橋病院歯科麻酔科准教授福田謙一先生をお迎えした。池田守人連合会長の挨拶の後、東日本大震災の被災者並びに物故会員に対す

る黙祷を捧げた。理事長の金子 譲先生から、「私学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議、第一次報告を踏まえたフォローアップ状況」に関して、各大学の基礎データを示しながら東京歯科大学の現状の説明があった。同窓会副会長の片倉恵男先生より、同窓会の会務状況の報告、常任理事の臼井文規先生より、東日本大震災における、同窓会の活動、震災時における同窓会のHPの活用などのお話をいただいた。また、本学学長の代理として、福田謙一先生からは、本学水道橋移転に関する進行状況の説明、歯学部に入学者を確保するための活動報告があった。

引き続き記念講演が行われ、歯科麻酔科准教授の福田謙一先生に「歯科医院における痛みの管理」-診断・治療に困惑する痛みへの対応-と題して、ご講演いただいた。痛みのメカニズム、痛みの伝導路、関連痛、歯原性歯痛、非歯原性歯痛の鑑別方法、診査診断、治療方針の重要

性を解説していただいた。

日常臨床の中で、頻繁に遭遇する痛みに関する知識をより深めることができた講演であった。

講演終了後、記念写真撮影を行い、懇親会が開催された。懇親会では、地元諏訪市歯科医師会会長落合公昭先生にご臨席賜り、大変盛大で有意義な会となった。今回はアトラクションとして「ジャンケン大会」を企画し、賞品には地元諏訪産の松茸を用意させていただいた。熱戦？の末、新潟県支部長の高垣順吉先生が見事優勝し、豪華賞品を手に入れた。

翌日2日には、蓼科三井の森ゴルフクラブにて、親睦ゴルフコンペが行われた。

天候にも恵まれ、参加された多くの先生方は、素晴らしいショットを披露していた。優勝は中田金一先生（中信支部）、準優勝は石川久磨先生（新潟県支部）、3位は雫田和成先生（東信支部）だった。

（矢嶋幸弘 記）



## 東海地域支部連合会

### 平成23年度東海地域支部連合会総会 (三重県支部担当)

平成23年9月11日(日)午後1時より四日市都ホテルに於いて平成23年度東海地域支部連合会総会・記念講演および懇親会が開催されました。

ご来賓として大学より井出吉信学長、同窓会本部より矢崎秀昭副会長、高橋義一専務理事、島村大常任理事、宮田保地区理事、峰正博三重県歯科医師会会長、記念講演講師として郷土史家の川崎記孝氏をお迎えし、静岡・愛知・岐阜・三重の会員を含め60名が集いました。

総会は大矢副支部長の司会のもと加藤副支部長の開会の辞、柘植連合会会長の挨拶、物故会員への黙祷、ご来賓の紹介・挨拶と進んだ後、武藤章美先生を議長に選出し報告・議事が行われました。高橋専務理事より同窓会本部報告、特に同窓会改革についての報告をして頂き、続いて三重県支部鈴木の庶務報告、岐阜県支部会計萩野賢先生の会計報告を経て、次期当番県として静岡県を満場一致で決定、太田昭二支部長が挨拶をされました。次期総会は新しい試みとして各県会員の利便性を考え開催場所を名古屋のマリオットアソシアホテルにするとのことでした。また今年3月には未曾有の東北大地震・福島原発事故があり、被害を受けられた同窓の先生方へ「微力ながら協力したい」との柘植連合会会長の提案に賛同を頂いたため、総

会や懇親会の装飾・余興などの費用をできる限り抑え「東海地域の同窓の有志」からの義援金として矢崎副会長にお渡ししました。

記念講演は辻先生を座長に「家康、伊賀越えの逃避行」と題して川崎記孝氏にご講演頂きました。「絶体絶命・危機迫る逃避行の中にも各土地土地での手助けがあり三河への進路が開けていく…それは家康の人物によるところが大きい」と現代の我々への家康からの教示のように感じられました。

続いて大変お忙しい中、北海道より駆けつけて下さいました井出学長に挨拶と大学現状報告、特に大学移転についてお話を頂きました。

会場を移しての懇親会は青副支部長の司会のもと峰三重県歯科医師会



会長より挨拶をして頂いた後、三重県支部最高齢の楠崎渥先生の乾杯の音頭で始まり、楽しいひと時をすごし校歌斉唱で盛況のうちに終了しました。

これからも会員が末長く交流を深め、健康で集えますことを願ってやみません。最後に会員の先生方のご協力に感謝いたします。

(鈴木康之 記)





## 北陸地域支部連合会

### 平成23年度学術講演会・総会

本年度の北陸地域支部連合会学術講演会・総会は、母校より小田 豊 歯科理工学講座教授，同窓会本部より大山萬夫会長，宮地建夫副会長，高橋義一専務理事，宮本宣良北陸地域支部担当理事をお迎えし，去る10月1日(土)，富山県支部が当番県として49名の参加を得て富山市の名鉄トヤマホテルにて開催されました。

学術講演会は、『最近の歯科材料を解き明かす』というタイトルで，小田歯科理工学講座教授にご講演いただきました。

CAD/CAM システムによるジルコニアセラミックス，ファイバーポスト，ノンクラスプデンチャー，チタンクロム合金など，最近の歯科材料について内外の研究結果が示さ

れ，客観的分析のもと私達にも分かりやすく説明され，今後の臨床にも大いに役立つ有意義な講演会となりました。

引き続き行われた総会では，物故支部会員7名の先生方に黙祷を行った後，大山会長，宮地副会長からご挨拶を，小田教授からは大学近況報告を，高橋専務理事からは同窓会近況報告をしていただきました。

高橋専務理事は，特に若い年代の同窓生には，全国の各支部において積極的に同窓会活動に参加してほしいとお願いをされました。

次に金川直博富山県支部長を座長として議事に移り，北陸地域支部連合会の次期会長に石川県支部長の加藤成俊先生を選出，全会一致で承認されました。

また，議事終了後に，原発事故により福島県で被災され，現在福井県にお住まいの同窓生・川崎良輔先生が挨拶され，同窓会からの支援に対し感謝の意を述べられました。

最後の懇親会は，大山会長，小田教授のご祝辞，宮地副会長による乾杯のご発声の後，一同思い思いに時が過ぎるのも忘れ歓談の輪が広がり，福井県支部の三宅淳一先生がソングリーダーとなって全員による校歌斉唱を行い，宮本理事の万歳三唱，山崎安仁富山県歯科医師会副会長の閉会の辞でお開きとなりました。

今回は，平成25年に石川県が当番県となって，金沢市で開催の予定です。  
(高橋正志 記)





## 九州地域支部連合会

### 平成23年度総会・懇親会

平成23年10月15日(土)九州地域支部(8県)の連合会総会が、大学より高野伸夫千葉病院長、同窓会より矢崎秀昭副会長、高橋義一専務理事をお招きして、約50名の同窓会会員の出席で開催された。

会場となった京華園は、長崎市新地中華街の入り口に位置し、異国情緒豊かな場所のひとつである。

総会は、高野伸夫先生と同級生でもある長崎県支部の溝越 孝先生の開会の辞で始まり、本年度逝去された会員に対して弔慰の黙祷、渡邊修志長崎県支部長のご挨拶に続き、来賓の先生方のご挨拶となり、先ず矢崎秀昭副会長のご挨拶、次に高橋

義一専務理事による会務報告がスライドを交えて行われた。若手同窓会員の減少が深刻な問題であり、同窓会離れをいかに食い止めるかが重要課題となっており、魅力ある同窓会作りを目指して、同窓会改革をすすめているとのことでした。更に、東日本大震災で被災された会員の状況報告と同窓会からの支援状況の報告がありました。来賓の最後に高野伸夫教授による大学の現況報告が、同じくスライドを交えて行われた。病院の経営状況、入試、国家試験の合格率、水道橋校舎新築工事の進捗状況、水道橋病院の改修計画等々多岐にわたり詳しく説明して頂いた。

お腹もそろそろすいて来たころ、

新垣元洋沖縄県支部長のご発声で乾杯し、懇親会が始まった。海鮮中心のヘルシーな料理をいただきながらお酒を酌み交わし、日頃なかなかお会い出来ない先生方との旧交を深めることが出来た。宴もたけなわとなった頃、時間が来てしまい、次期開催県の緒方 進熊本県支部長のご挨拶、校歌斉唱、中根俊吾元同窓会副会長(熊本県支部)の万歳三唱の後、長崎県支部の谷脇伸彦先生の閉会の辞で一次会はお開きとなった。その後の二次会も多数の参加があり、盛会のうちに終わらせる事ができた。その後は三々五々、夜の長崎を堪能したのは言うまでもない。

(渡辺芳明 記)

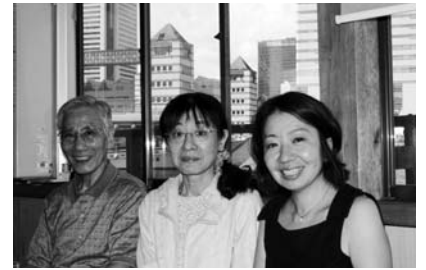


## 神奈川県支部連合同窓会

9月11日(日)に、本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は震災の影響を考慮して遠出せずに、屋形船を貸し切り、お笑い芸人チャッピーをゲストに招いて、ものまねショーを楽しみながら食事をするというエコな企画を催した。

ここ数年、8月第1週の大変暑い中で実施していたため、「今年は少し涼しくなってから」という声も多く、9月に日程をずらして設定したが、参加者一同の日頃の行いが良いせいか、30度を超える絶好の行楽日和であった。そんなわけで、お昼の集合時間には汗を拭きながら、みなとみらいのぶかり棧橋に全員集合した。12時半の定刻に、屋形船は30名の参加者を乗せて棧橋を出航。ほどなく、ポイントに到着してイカリをおろし、漁師料理による懇親会を開始した。新鮮な刺身、揚げたての天ぷらに舌鼓を打ちながら和やかに30分余りが経過したところで、チャッピーが登場。

テレビのものまね番組の常連で、活躍中のチャッピーが、まずは十八番の美川憲一「さそり座の女」で



オープニング。20年近くの芸歴を持つチャッピーも屋形船での芸の披露は初めてということで、ハプニングも続出。なにしろ、屋形船は天井が低く、美川憲一バリのエリマキトカゲのような羽?が天井に引っかかるため、中腰を余儀なくされて汗だくになるチャッピーに皆爆笑。マイクの入りが悪かったり、エアコンが効かず汗で化粧が落ちていく状況にもめげず、芸人魂を見せるチャッピー。「和田アキ子」、「ものまねクイズ」、「桑田佳祐」、最後は「つん

く」と次から次へと繰り出すものまねオンパレードに参加者一同、感心する者、大笑いする者、ほぼ最年長に近いNY先生の新たな一面を発見しつつ笑い転げる者ありと、実に中身の濃いアンコールまで1時間のものまねショーを堪能した。

残りのわずかな時間を湾内遊覧した船は2時半に帰港し、下船後棧橋で集合写真を撮影して解散となった。  
(川越元久 記)





## 群馬県支部

### 平成23年度定時総会

平成23年度群馬県同窓会定時総会が、平成23年7月9日(土)午後3時より伊香保の千明仁泉亭に於いて開催されました。

来賓として、同窓会本部より副会長の片倉恵男先生、同窓で群馬県歯科医師会会長の村山利之先生をお迎えしました。

真下泰彦副会長の開会の挨拶が行われ、次に、清見能久同窓会会長より挨拶が行われ、総会においての慎重審議、学術講演会での研鑽についてお話がありました。

次に、顧問の武安一嘉先生より挨拶が行われ、東日本大震災の被災された方々に対するお見舞いの言葉と川越文雄前県歯会会長に労いの言葉をいただきました。

続いて、来賓の片倉恵男先生より

挨拶が行われ、東日本大震災についての同窓会本部の対応や支援の現況についてお話をいただきました。

次に、群馬県歯科医師会会長を四期11年間務められた川越文雄先生に、県民の歯科保健向上に尽力された功績を称え、特別表彰として賞状と記念品が贈呈されました。

次に、平成23年4月から総会までの庶務報告が行われました。次に、総会議長に山口保男先生が選出され、平成22年度事業報告、一般会計および福祉共済部会計決算が議題として提出され、全て満場一致で可決承認されました。

次に来賓の群馬県歯科医師会会長の村山利之先生より挨拶が行われ、県歯会長就任の報告と抱負についてお話をいただきました。そして、引田正俊副会長より閉会の挨拶が行

われ、総会は無事終了しました。

引き続き、同会場にて学術講演会が行われました。講師には本学の名誉教授の山田了先生をお迎えし、「歯周病治療の現在と未来」という演題で行われました。歯周病における病因論の変遷とそれに伴う歯周病治療の進歩についてのお話、特にその中でも今後の発展が期待されるティッシュエンジニアリング(組織工学)を用いた再生医療の現状と未来について詳しくお話していただきました。

学術講演会終了後、記念撮影を行い、正木光児先生の乾杯のもとに懇親会を開宴しました。終始なごやかな雰囲気の中で、お互いの親睦を深め合い、最後に校歌を斉唱してお開きとなりました。(三丸 潔 記)





## 横浜鶴見支部

### 鶴見東歯会会員旅行

9月18日(日)から1泊で10名参加のもと菊池 誠先生の還暦のお祝いを兼ねて箱根方面に出掛けた。

午前10時17分。踊り子115号の発車と同時に缶ビールをプシュ、ワインのコルクをクイクイと抜き車中宴会開始。鶴見からひと駅戻って川崎から乗車しても小田原まで45分の短い宴会時間。「えっもう大船?」「おい平塚だよ。もう一本急いでワイン開けちゃおう」つまみもろくに口に入れる暇もなく早くもほろ酔い。

小田原からは箱根登山鉄道に乗り換え、箱根湯本に向かった。

正午に箱根湯本着。徒歩で吉池旅館内にある「ステーキハウス吉池」へ。窓からは緑豊かな庭園を眺めることが出来るが、食いしん坊の我々は極上の特撰牛にしか目が行かない。早速、カウンターに座り、生ビールで乾杯。シェフによる炎のパフォーマンスとともに目の前で一口大に切り分けてくれたステーキは噛むたびに旨味と肉汁が口の中いっぱいに広がりまさに至福の味であった。

150gのステーキをペロリと平らげ、ワインを飲みながら談笑していると、まだ物足りなそうな顔がちらほら。結局250gのステーキを追加する者もいて2時間近く食べて呑んで満腹。お次は睡魔に襲われ、予定していた「平賀 敬美術館」の見学も中止し旅館に直行した。

登山を趣味とする菊池先生と森田正純先生は、「これだけ食べちゃったから運動せねば」と箱根湯本(標高108m)から宮ノ下(標高448m)まで山登り。電車組は吊革につかまりながら睡魔と闘い、電車はスイッチバック(険しい斜面を登るために

ある方向から概ね反対方向へと鋭角的に進行を転換するジグザグに敷かれた線路を走る)しながら箱根の山を登り宮ノ下へ。

電車組とはほぼ同時刻に登山組も無事に宿泊先の宮ノ下温泉「武蔵野別館」に到着。早速、露天風呂につかり疲れを癒した。

お祝い会は午後6時30分より80畳もの大広間を貸し切って開催された。はじめに佐藤秀夫会長が挨拶した後、本年めでたく還暦を迎えられた菊池先生にお祝いの贈呈が行われた。大のワイン党である先生には「カロンセギュール」なるフランス高級ワインが贈られた。先生は「頂いたワインをぜひここでみんなで味わいたい。形には残らなくても素敵な記憶として残れば最高だ。」と謝辞を述べられた。

グラスにお祝いのワインが注がれたところで、大庭靖士先生の声高らかな乾杯でお祝い会が始まった。

それに合わせ、綺麗処もお祝いに駆け付け、宴席に花を添えた。

温泉のみならず、料理にも定評が



ある老舗旅館だけあって相模湾の新鮮な海の幸や箱根、伊豆の山の幸を吟味した懐石料理はどれも美味しく、祝い酒が益々進んだ。

途中、お祝いメッセージが披露された後、参加者より一言ずつお祝いの言葉が述べられた。菊池先生はワイングラスを離すことなく、嬉しそうに聞き入っておられた。

カラオケでは、主役の菊池先生はグラスをマイクに持ち替え熱唱。ダンスも加わり大いに盛り上がった。

2次会は全員揃って部屋呑み。鶴見東歯会の昔話とこれからの展望について夜遅くまで語り合った。

翌朝は朝食後、自由解散となった。

(宇佐美貴弘 記)



## 「西洋歯科医学発祥は横浜関内居留地！中華街」

神奈川県

鉄道、ガス灯、電気、電信、電話、消防、ビール、アイスクリーム、パン、ホテル、クリーニング、街路樹、新聞、上下水道など皆、米國からの舶来で横浜発祥のものばかりで、実は西洋歯科医学も横浜が発祥の地なのです。

従来、W.C.Eastlake (1834～87) (米國) は開港直後の1860年 (万延元) より3回来日し、日本で最初の西洋歯科医学を横浜で実施した歯科医師で、開業した所が居留地160番地 (現、山下町160番地関帝廟南側) と云われてきました。しかし松本康博先生のその後の調査で1860年に米國を出発したイーストレキは、昆虫や貝の採集が目的で、日本ではなく香港に渡り、1865年 (慶応元) 来日し最初に開業した所は居留地108番地 (現、山下町108番地、中華街媽祖廟近くホテル赤い靴前)、2回目は同16番地 (現、マリントワー東側)、3回目が同66番地 (現、マリントワー南側本町通) であったことが明らかになりました。各々の滞在期間は短いのですが、2度目の来日以降、長谷川保兵衛や安藤二蔵らが弟子入りしています。

次いで1870年 (明治3) にペンシルベニア歯科医学校を卒業した St. G.Elliott (1838～1924) が、居留地57番地 (現、イタリー料理ローマステーション近隣) で1874年 (明治7) まで開業しました。このエリオットには大分県中津藩出身の小幡

英之助が慶應義塾で英語を修得しその後医学を学んだ弟子入りして歯学を勉強し、正式な医術開業試験に合格し医師となり『歯科』を標榜して開業した最初の日本人でした。エリオットの診療所では小幡の他、日本初の歯科技工士となった松岡万蔵も居り、木戸孝允、西郷従道の歯科治療をしたようです。

その後、ハーバード大学歯科医学校を卒業した H.M.Perkins (1837～1882) が来日し、エリオットの診療所を引き継ぎ居留地72番地で開業、後に75番地 (現、重慶飯店ローズホテル横浜北側) へ転居して1881年 (明治14) まで診療しています。この1881年に、カリフォルニアで歯科医学を学び米國歯科医師免許をとり、銀座で開業した本学創始者高山紀齋先生が『保齒新論』を著しています。この頃パーキンスにスカウトされた商社員の西村輔三は、パーキンスの通訳をしながら学び歯科医師になっています。パーキンスはその後の日本の歯科界を担う、林 譲治、黒田虎太郎、関川重吾、渡辺晋三、佐藤 重らを育て、彼らは皆横浜で開業しています。愛知県三河出身の榊原勇吉 (榊原悠紀田郎先生父上) や私の祖父今村鷹次郎も丹波篠山から上京し、本学で勉学し横浜での盛業を夢見て開業した人たちでした。

このように明治の西洋歯科医学は、現在の中中華街周辺山下町などの関内外人居留地で開花したのでし



た。しかし当時の居留地には中国からの華僑は十数軒しか店を開いていませんで、料理店はほんの数件でした。現在の賑やかさとは隔世の感です。(現在中華街には620の店と226軒の中国料理店が開業しています。)

今春、この明治から大正の黎明期の歯科事始について、日米和親条約締結の旧跡地に現在ある横浜開港資料館で『痛っ 歯が痛い 歯科医学の誕生と横浜』展が開催されました。(終了後、展示物の一部は神奈川県歯科医師会「歯の博物館」に移設されています。) また余談ですが、大正10年の関東大震災のお折は横浜も壊滅的な被害を受けましたが、先人たちは弛まぬ努力をされ復興し、今日の横浜の繁栄に至っています。現在の山下公園はその震災時の市内の瓦礫を集積して埋め立ててできた公園です。

皆様、横浜にお出ましの際は、西洋歯科医学発祥ゆかりの地を散策して頂きながら、中華街・山下町で美味しいお料理に舌鼓を打って頂ければ幸いです。

(昭和54年卒 今村嘉宣)

写真は巻頭カラーグラビアに掲載しています



# クラス会だより

## 志学会

昭和42年卒

毎年開催している恒例の志学会総会を、今年は10月8日(土)、山形県米沢市の小野川温泉「寿宝園」にて開催しました。会員と同伴者を交え45名の方集まって頂きました。午後4時から羽生君の司会で開会し、まず今回幹事の中川正晴君が歓迎のことばを述べました。小野小町ゆかりの「小野川温泉」の説明や血脇守之助を育んだ米沢の解説を交えて、楽しさを予見する挨拶をしてくれました。つづいて、大岡会長の挨拶があって、高橋君の議長で、議事に移りました。大岡会長から会務報告、赤穂幹事から会計報告、大学現況を薬師寺君からありました。

3月の東日本大震災の被災地からの報告が、宮城県の浅野君、福島県の中村君からそれぞれ詳しくありました。志学会からの義援金に対するお礼も丁寧に述べてくれました。関連して、中川勝洋君が被災地の歯科医療支援の実践談をしました。明日も被災地の歯科医師会と支援についての話し合いに向かうそうです。心強いことと感じました。約2時間で



閉会し、記念撮影の後に懇親会となりました。

懇親会は中川正晴君の料理に関する解説が開会の挨拶となり、米沢牛のすき焼き、鯉の甘露煮、イモ煮、松茸の茶碗蒸し、アケビのごま和えなどの米沢名産の料理がふんだんにあって、満腹になって全部は食べられませんでした。宴席が凄く盛り上がり、お酒の消費量が凄いです。二次会では、米沢牛の串焼き、白貝の焼きたてなどがあって、もっと満腹になりました。

次の日の朝に古希を記念して、寿宝園の隣の「甲子大黒天」本堂にてご祈祷をお願いしました。ご祈祷の後、本堂にて大黒様と一緒に餅の朝食を頂きました。家内安全、健康



長寿、お金が貯まることを願っております。

その後、「米沢の歴史とロマンを訪ねて」バス旅行があり、NHKテレビの大河ドラマで有名になった上杉鷹山公にまつわる上杉家廟所、春日山林泉寺、上杉神社、上杉記念館、上杉博物館、上杉城史苑などを見ることができました。昼食が上杉伯爵邸内で素晴らしい日本庭園を見ながらの懐石です。米沢牛のたたき、10割そばの追加もあって、まともや満腹でした。午後3時過ぎに米沢駅で来年の再会を祈念してお別れしました。充実して楽しいクラス会でした。(黒田昌彦 記)





# 晃 和 会

昭和43年卒

第1回平成23年5月15日(日)、  
第2回6月19日(日)と丸ビル2階  
「筑紫樓」での晃和会運営委員会を  
経て、平成23年度(卒後33年)の晃  
和会の総会及び懇親会が10月15日  
(土)に帝国ホテル3階「扇の間」  
で開催されました。出席者は43名で  
した。

開会に先立ち、市村君より2度の  
運営委員会に元気で参加されていた  
中村博通君が10月13日に脳幹梗塞で  
倒れられ、意識不明の重体との報告  
がありました。

総会は午後4時45分より司会村上  
君で始まり、会長千葉君の挨拶の  
後、議長に宇留賀君を選出して議事  
に入り、石田君の庶務報告の中で  
は、前回の総会後に逝去された佐藤  
晃一君、井上好平君、加藤 實君を  
含めて今までに逝去された物故会員

に対し鎮魂の黙祷を捧げました。

次いで幹事から東日本大震災で被  
災された会員にお見舞いを送ったと  
の報告があり、その件について赤間  
君からの返礼の挨拶状の代読があ  
り、当日参加した高久さんからお礼  
の挨拶がありました。

更に森田君の会計報告があり、そ  
の後議事に移り議案3件を可決し総  
会は滞りなく進み、協議事項に於い  
ては次回の総会開催について会長の  
千葉君に一任ということになり了承  
されました。

次いで、同窓会長大山萬夫先生の  
来賓挨拶の後、東京歯科大学理事長  
金子 讓先生より大学の現状や国家  
試験合格率、入学試験充足率などに  
ついて資料をもとに講演をして頂  
き、また大学の水道橋移転の話とと  
もに寄付についても言及があり協力

要請もございました。最後に記念撮  
影をして総会は無事終了の運びとな  
りました。

次に午後7時より司会高橋君のも  
とに懇親会に移り、学生時代のこ  
と、孫のこと、家族のこと、いつ仕  
事を止めようかなど話題があちこち  
に飛び、和気あいあいの内にまたた  
く間に2時間余りが過ぎ閉会となり  
ました。

2次会は17階のインペリアルラウ  
ンジ「アクア」にて話の続きに花を  
咲かせ、有意義で楽しい秋の一夜を  
過ごすことが出来ました。

(田口勝俊 記)

(追記) 中村博通君につきましては、  
10月29日に永眠されました。謹  
んでご冥福をお祈りしたいと存じま  
す。



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

# 水 真 会

昭和58年卒

2年に一度定期的で開催している昭和58年卒業の第88期水真会クラス会が10月9日、新装なった水道橋校舎13階A教室にて開催されました。

総会では原 裕司君が議長に任命され、まず、本年6月に逝去された会員福士孝裕君に対して黙祷が捧げられました。その後、2年ごとの各種報告の後、議事議案について慎重審議の結果満場一致で可決され、協議連絡事項の後、閉会となり引き続いて講演会が開催されました。今回は同級生でもある母校口腔科学研究センター情報支援部准教授新谷益朗君に「歯科臨床と情報」（歯科医を取り巻く情報のつきあい方）と題して講演をいただきました。新谷君は卒業後、法歯学教室に助手として採用されてから現在までの自身の足跡を踏まえながら、御巢鷹山日航機墜落事故やネパール遊覧飛行機墜落事故など数知れない身元確認の仕事をされた中で、ご本人曰く「語れる範囲で」の話は、普段われわれが知らされていない話もあり大変興味深い

内容でした。また、最近の学生教育や、先生が大学院生に対して行っている講義も紹介いただき、自分たちの学生時代とは全く違う現在の教育システムに隔日の感を改めて感じずにはられませんでした。

興味尽きない講演内容に予定時間をオーバーして聞き入ってしまいましたが、その後、会場を後楽園飯店に移し、懇親会となりました。懇親会には名誉会員（卒業までにお世話になった学年主任、副主任の先生方）として今回、下野正基名誉教授、齋藤文明先生がご多忙の中ご出席いただきました。下野先生は、本年3月に母校を退職後、相変わらずの研究、執筆活動のなか、ご趣味である百名山制覇を目指していること、齋藤先生は水道橋病院時代から拝見している患者さんが今年百歳になられ、先生が勤務しているクリニックに来ていることをごあいさつの中で報告されました。齋藤先生の乾杯で、和気あいあいの懇親会となりましたが、お酒が進んで大騒ぎと

なり收拾がつかなくなるであろうその前に、毎回恒例の全員一言の近況報告となりました。その中、福島県の石川伸一君より、本年3月の東日本大震災の被災県である東北地方在住の同級生の無事についての報告があり、皆安堵した次第であります。卒業後初めて参加した会員もおり、話が尽きないところで一次会はお開きとなり、用意した二次会会場へと移動になりました。二次会では一次会の余韻から予想人数を大幅にオーバーし、二次会担当幹事は酔った頭で何度も参加人数を数える一コマもありました。仕事のこと、家庭のこと、健康のことなど楽しいひと時を共有し、再来年また元気で会えることを楽しみに解散となりました。

翌日には有志のゴルフコンペも開催され楽しんだ模様です。参加された皆さん、スコアはどうだったのでしょうか？今回、懇親会と二次会に参加された方々の変形集合写真(?)を掲載いたします。皆さん、誰だか分かりますか?? (荻原俊美 記)





## 新 葉 会

昭和63年卒

### クラス会開催

前々日までの台風の影響をよそに、台風一過の晴天に恵まれ2011年9月24日(土)17時30分より東京ドームホテルシリウスにて、昭和63年卒新葉会のクラス会が開催されました。卒業後23年になる今回、全国から総勢40数名が出席し楽しい一時を過ごすことが出来ました。

会に先立ち、総会が行われ種々の報告後、基調講演として今回の3月11日東日本大震災に際して災害援助の一員として埼玉県歯科医師会の要請で派遣された岩田昌久君と日本歯科医師会の要請で派遣された寺田仁志君からそれぞれ活動報告をしていただきました。岩田君からは、主に歯科診療援助について、寺田君からは身元確認作業についての話を聞かせていただきました。震災に関して実際話を聞いてあらためて震災の悲惨さ、深刻さを感じました。



同時に一日も早い復興を祈らずにはいられない気持ちになりました。

続いて恒例の記念撮影を行い、松澤政彦君の司会で懇親会が始まりました。冒頭、亡くなられた黒柳錦也先生、小林久恭君、五十嵐之人君に対し全員で黙祷し、ご冥福をお祈りいたしました。その後、今年の4月に母校に復帰された山本 仁君の開会の挨拶があり、続いて来賓の生理学講座主任教授田崎雅和先生よりご挨拶を戴きました。

乾杯のあと、アルコールが入ったところで、参加者一人一人が近況報



告をし、みんなで楽しいひとときを過ごしました。卒後20数年となると、仕事のこと、子育てのことなどお互い共感できる話題が多く、それぞれ皆楽しそうに語り合う姿はとても印象的でした。

また写真を撮ってくれた植松一郎君、受付の中島(鈴木)洋子さん、山口(鈴木)由紀さん、軽快な語り口で終始会の進行をしてくれた松澤政彦君、事前の準備に尽力をいただいた渡邊宇一君、寺田仁志君には心から感謝します。ありがとうございました。(松浦信一 記)





# 庶務日誌

11月

1) 理事会

11月25日(金) 第6回理事会

2) 委員会

11月2日(水) 渉外部委員会

4日(金) 事業推進部(保険委員会)

6日(日) 事業推進部(若手研修)

8日(火) 事業推進部(学術委員会・運営委員会)

9日(水) 総務・厚生部(厚生委員会・ゴルフ大会委員会)

11日(金) 広報部(会報委員会)

11日(金) 事業推進部(学術委員会・運営委員会)

14日(月) 会則検討チーム打合せ会

18日(金) 事業推進部(大学・同窓連携委員会)

18日(金) 会則検討チーム打合せ会

21日(月) 事業推進部(学術委員会・プログラム委員会)

26日(土) 事業推進部(学術委員会・運営委員会)

28日(月) 事業推進部(学術委員会・企画会議)

29日(火) 事業推進部(学術委員会・企画会議)

29日(火) 広報部(ホームページ委員会)

30日(水) 事業推進部(学術委員会・研修委員会)

3) 出張

11月12日(土) 山形県支部総会 田原常任理事出席  
学術講演会 講師・高野伸夫教授(母校)

27日(日) 愛知県支部総会 梅村副会長出席

4) 事業

11月17日(木) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー  
No.1 イブニングセミナー(「iPadを使った患者さんとのコミュニケーション」～臨床記録の保存と活用～)

26日(土) 平成23年度評議員会・総会

27日(日) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー  
No.5 実習セミナー(「床型装置と咬合育成」～介入時期と咬合方略～)

12月

1) 理事会

12月17日(土) 第7回理事会

2) 委員会

12月2日(金) 広報部(会報委員会)

6日(火) 事業推進部(保険委員会)

9日(金) 事業推進部(プログラム委員会)

10日(土) 事業推進部(全体委員会)

12日(月) 事業推進部(シンクタンク委員会)

14日(水) 事業推進部(学術委員会・研修委員会)

19日(月) 事業推進部(学術委員会・企画会議)

21日(水) 広報部(ホームページ委員会)

3) 出張

12月3日(土) 山梨県支部総会 関副会長出席  
学術講演会 講師・外木守雄准教授(母校)

3日(土) 熊本県支部総会 宮地副会長出席  
学術講演会 講師・宮地建夫先生(東京都開業)

3日(土) 東京地域支部連合会総会  
大山会長, 高橋専務理事, 早速理事出席

3日(土) 愛媛県支部総会 佐々木常任理事出席  
学術講演会 講師・一戸達也教授(母校)

4日(日) 神奈川県支部連合同窓会総会  
大山会長出席

4日(日) 静岡県支部総会 梅村副会長出席  
学術講演会 講師・中川寛一先生

4日(日) 栃木県支部総会 矢崎副会長出席  
学術講演会 講師・阿部伸一教授(母校)

4日(日) 茨城県支部総会 臼井常任理事出席  
学術講演会 講師・花岡洋一准教授

4日(日) 千葉県支部総会 関副会長出席

9日(金) 日本橋支部総会 佐々木常任理事出席

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

- 昭 30 卒 室 橋 和 夫 (84歳) 23. 9. 26  
群馬県支部 〒379-0116 安中市安中3-13-7
- 昭 18.9 卒 江里口 武 (89歳) 23. 8. 14  
荒川支部 〒116-0003 荒川区南千住2-23-7
- 昭 24 卒 杉之内 芳 郎 (82歳) 23. 9. 27  
川崎支部 〒223-0065 横浜市港北区高田東2-11-8
- 昭 38 卒 高 橋 蓉 子 (72歳) 23. 10. 1  
神奈川西湘支部 〒250-0854 小田原市飯田岡288
- 昭 23 卒 仲 谷 純 三 (84歳) 23. 10. 11  
石川県支部 〒923-0945 小松市末広町58
- 昭 35 卒 宝 田 勇 (78歳) 23. 10. 12  
江戸川支部 〒133-0051 江戸川区北小岩2-12-8
- 昭 33 卒 田 中 幸 光 (78歳) 23. 10. 16  
葛飾支部 〒124-0013 葛飾区東立石4-45-22
- 推薦会員 白 井 勝 (88歳) 23. 10. 19  
大分県支部 〒876-0831 佐伯市大手町3-5-7
- 昭 36 卒 森 正 文 (79歳) 23. 10. 21  
静岡県支部 〒431-1305 浜松市北区細江町気賀994-1
- 昭 23 卒 松 井 謙 治 (85歳) 23. 10. 22  
岐阜県支部 〒509-7201 恵那市大井町226-12
- 昭 32 卒 山 本 陽 (79歳) 23. 7. 7  
北 支 部 〒114-0022 北区王子本町1-24-8
- 推薦会員 松 尾 真 一 (86歳) 22. 5. 3  
横浜中央支部 〒220-0045 横浜市西区伊勢町3-127 松尾ビル
- 昭 22 卒 小 見 勇 (84歳) 22. 5. 18  
川崎支部 〒211-0045 川崎市中原区上新城2-8-1
- 昭 4 3 卒 中 村 博 通 (69歳) 23. 10. 29  
日本橋支部 〒194-0001 町田市つくし野1-31-44
- 昭 18.9 卒 菊 池 文 雄 (90歳) 23. 11. 2  
栃木県支部 〒321-4217 芳賀郡益子町益子988
- 昭 46 卒 加 藤 久 夫 (65歳) 23. 11. 9  
新潟県支部 〒959-1862 五泉市旭町8-33
- 昭 23 卒 高 橋 作 人 (85歳) 23. 11. 4  
神奈川湘南支部 〒247-0063 鎌倉市梶原3-20-8
- 昭 22 卒 松 本 正 清 (76歳) 12. 10. 17  
長崎県支部 〒850-0034 長崎市樺島町6-16
- 昭 22 卒 田 熊 庄三郎 (86歳) 23. 11. 20  
城 東 支 部 〒136-0076 江東区南砂5-8-13-2802

## ◆投稿規定

### (1) 原稿締切り

原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

### (2) 投稿様式

投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。

### (3) 投稿字数

- ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
- ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3

段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。

### ③ 「追悼」は、500字程度

- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。

なお、掲載については委員会にご一任いただきます。

### (5) 写真等の返却

写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。

写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧ください。

## ◆へんしゅうこうき

★ 大山会長2期4年の間ご苦労様でした。この間同窓会として機構改革を行うなか、大学120周年水道橋移転、東日本大震災と様々な出来事を執行部としてのりきり改革の基礎を築き上げられたことは本当に大変なことだったと思います。また評議員会では名誉会長として満場一致で推薦されました。

そこでも火中の栗を拾われると表現された方がいましたように、まさに大変な時期に会長を引き受けられてここまでの改革を進められたことは誰しもが感謝しているところです。今後も名誉会長としてご指導願えればと思っております。

★ 今年10月に臍臓がんで亡くなったスティーブ・ジョブズ氏

アップル社の創業者の一人です。私も長年通称マックの愛称で呼ばれたパーソナルコンピューターを使ってきたユーザーの一人です。今年度の学術講演会で取り上げられたiPadの開発者でもあります。そのインターフェイスは人の日常生活の中から生まれてきたように使いやすく自由観があります。

彼はどうしたら楽しく便利に生活できるか、その為に必要なアイテムをそれぞれが当時はばかにされるような発想が何年かするとそのように社会が変化してゆく。これほどにも人々の生活に影響を与えたまた生活習慣を変えた人物はいないと思います。

★ 震災当時悲惨な状況の映像と共に日本人がパニックにも陥らず、地域の絆で皆が助けあっている様子が世界のニュースで流れました。まさに今回掲載された3人の先生方もそうであるように世界の人々から「日本人は素晴らしい！」と絶賛され、とても誇らしく思いました。時代が激変した明治維新、福沢諭吉の「学問のすすめ」が大ベストセラーになりました。当時の日本人はこれに多くのことを教わり影響を受けたそうです。しみじみとした人情あふれる湿度の高い心、勤勉でまじめで器用で働き者などの日本人としての基質が現代まで受け継がれているといえます。今私たちが「学問のすすめ」を読んでみてはどうでしょうか。心が暗くなりがちな世の中、どのような心構え持ち、どこを目指せば希望が湧いてくるのかをカリリと明るく前向きに導いてくれる名著です。(白田 準 記)

### 広報部委員会

委員長 三友 和夫  
委員 東郷 幹夫  
小池 修  
古澤 成博  
志村 圭子  
福井 雅之  
渡邊 宇一  
島田 篤

### 広報部担当理事

白田 準

平成23年12月20日 印刷

平成23年12月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第384号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 白 田 準

編集人 三 友 和 夫

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)



# 平成23年度 評議員会・定時総会

## (報告)

平成23年11月26日  
於 如水会館

### 平成23年度東京歯科大学同窓会評議員会 (午前10時00分～午後4時00分)

- |  |                           |  |
|--|---------------------------|--|
| 1. 開会の辞  |                           |  |
| 1. 点呼  |                           |  |
| 1. 会長挨拶  |                           |  |
| 1. 来賓挨拶  |                           |  |
| 1. 議長, 副議長選出   |                           |  |
| 1. 議事録署名人指名  |                           |  |
| 1. 黙祷  |                           |  |
| 1. 報告  |                           |  |
| (1) 平成23年度 会務報告  |                           |  |
| (2) 平成23年度 会計現況報告  |                           |  |
| (3) 東京歯科大学の現況報告  |                           |  |
| ① 大学法人としての課題   |                           |  |
| ② 水道橋移転と学生教育の現状について  |                           |  |
| 1. 議事  |                           |  |
| 第1号議案 平成22年度 経常部収支決算   |                           |  |
| 第2号議案 平成22年度 特別会計収支決算<br>(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) |                           |  |
| 第3号議案 平成22年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算                       |                           |  |
| 第4号議案 平成22年度 時局対策費積立金会計収支決算                                  |                           |  |
| 第5号議案 平成22年度 財産目録<br>(監査報告)                                  |                           |  |
| 第6号議案 財産(備品)廃棄処分   |                           |  |
| 第7号議案 機構改革に係る東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件                           | 第8号議案                     | 会務運営に係る東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件                           |
|  | 第9号議案                     | 四谷支部と牛込支部の合併の承認を求むるの件                                  |
|  | 第10号議案                    | 平成24年度 事業計画  |
|  | 第11号議案                    | 平成24年度 入会金   |
|  | 第12号議案                    | 平成24年度 会費  |
|  | 第13号議案                    | 平成24年度 経常部収支予算   |
|  | 第14号議案                    | 平成24年度 共済負担金   |
|  | 第15号議案                    | 平成24年度 特別会計収支予算<br>(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) |
|  | 第16号議案                    | 平成24年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支予算                       |
|  | 第17号議案                    | 平成24年度 時局対策費積立金会計収支予算                                  |
|  | 第18号議案                    | 平成24年度 名誉会員の推薦   |
|  | 第19号議案                    | 役員改選   |
|  | 1. 協議                     |  |
|  | (1) 東日本大震災被災同窓への今後の支援について |  |
|  | (2) 会費の過年度分未払いの件について      |  |
|  | (3) その他                   |  |
|  | 1. 名誉会員推戴式                |  |
|  | 1. 叙勲, 褒章受章者顕彰式           |  |
|  | 1. 閉会の辞                   |  |

### 第117回東京歯科大学同窓会定時総会 (午後4時10分～午後5時00分)

- |  |         |                                  |
|--|---------|----------------------------------|
| 1. 開会の辞  |         |                                  |
| 1. 会長挨拶  |         |                                  |
| 1. 議長, 副議長選出   |         |                                  |
| 1. 議事録署名人指名  |         |                                  |
| 1. 報告  |         |                                  |
| (1) 平成23年度 会務報告  |         |                                  |
| (2) 平成23年度 評議員会報告  |         |                                  |
| (3) 平成24年度 経常部, 特別会計, 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金, 時局対策費積立金会計収支予算  |         |                                  |
| 1. 議事  |         |                                  |
| 第1号議案 平成22年度 経常部収支決算   |         |                                  |
| 第2号議案 平成22年度 特別会計収支決算<br>(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) | 第3号議案   | 平成22年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算 |
|  | 第4号議案   | 平成22年度 時局対策費積立金会計収支決算            |
|  | 第5号議案   | 平成22年度 財産目録<br>(監査報告)            |
|  | 第6号議案   | 財産(備品)廃棄処分                       |
|  | 第7号議案   | 機構改革に係る東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件     |
|  | 第8号議案   | 会務運営に係る東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件     |
|  | 1. 協議   |                                  |
|  | 1. 閉会の辞 |                                  |

平成23年度東京歯科大学同窓会会務報告

(自 平成22年10月1日)  
(至 平成23年9月30日)

1. 現在会員数	9,085名	6日(水)	第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
内			
名誉会員	31名	7日(木)	学術事業交流についての協議会
共済負担金免除会員	761名		大山会長, 矢崎・宮地・梅村各副会長, 高橋専務理事出席
高齢会員	535名	12日(火)	総務関係打合せ
不明会員	744名	13日(水)	広報部委員会(会報企画)
2. 会員の移動		16日(土)	第5回理事会
新入会員	126名	16日(土)	九州地域支部連合会総会(佐賀県支部担当)梅村副会長, 臼井・濱田各理事出席
	(本年度卒業生 125名)		
	(他 1名)		
逝去会員	135名	17日(日)	TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No.7 咬合育成の基礎と臨床)〕
退会会員	6名	18日(月)	学術部委員会(研究部委員会)
3. 会議		19日(火)	事業系ワーキンググループ
定時総会	1回	20日(水)	東京地域支部連合会保険講習会
評議員会	1回		片倉副会長出席
学年代表者会	1回	21日(木)	総務関係打合せ
東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯		25日(月)	学術部委員会(企画委員会)
会長と同窓会役員懇談会	2回	27日(水)	情報部委員会
理事会	6回	27日(水)	六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会
常任理事会	5回		大山会長, 矢崎・宮地・梅村各副会長, 高橋専務理事, 島村理事, 鳴神顧問出席
監査会	1回	31日(日)	東歯祭
各種委員会	145回		片倉副会長出席
卒後研修セミナー	9回	11月1日(月)	東京歯科大学創立120周年記念学生行事
連絡会・打合せ等	48回		大山会長出席
4. 役員出張	63回(111名)		
5. 支部数	109支部	1日(月)	母校創立120周年記念事業打合せ
6. 地域支部連合会数	11地域支部連合会	2日(火)	第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
北海道地域, 東北地域, 関東地域, 東京地域,		4日(木)	会長・副会長連絡会
信越地域, 東海地域, 北陸地域, 近畿地域,		7日(日)	若手同窓支援セミナー2010
中国地域, 四国地域, 九州地域		9日(火)	事業系ワーキンググループ
7. 会務報告		10日(水)	会長・副会長連絡会
平成22年		12日(金)	広報部委員会(会報編集)
10月1日(金)	学術部委員会(運営委員会)	13日(土)	北海道地域支部連合会卒後研修会
1日(金)	会則検討特別委員会		講師・田中 収先生(バイオインプラントアカデミー)
2日(土)	北海道地域支部連合会支部長会	15日(月)	学術部委員会(将来像検討委員会B)
	梅村副会長出席	16日(火)	学術部委員会(プログラム委員会)
4日(月)	学術部委員会(プログラム委員会)	17日(水)	情報部委員会
4日(月)	厚生部委員会	17日(水)	渉外部委員会
5日(火)	東京歯科大学同窓会全国社会保険指導者懇談会	18日(木)	会長・副会長連絡会
5日(火)	総務関係打合せ		

19日(金)	学術部委員会 (プログラム委員会)		学術講演会 講師・佐藤 亨教授(母校)
22日(月)	学術部委員会 (企画委員会)	11日(土)	学術部委員会 (全体委員会)
23日(火)	近畿地域支部連合会総会 (滋賀県支部担当)	13日(月)	学術部委員会 (運営委員会)
	宮地副会長, 高橋専務理事, 井口理事出席	13日(月)	第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
	学術講演会 講師・江里口 彰先生 (日歯常務理事)	14日(火)	大学支部総会 河田理事出席
24日(水)	学術部委員会 (研修委員会)	14日(火)	事業系ワーキンググループ
26日(金)	第6回理事会	15日(水)	情報部委員会
27日(土)	平成22年度評議員会・定時総会	20日(月)	学術部委員会 (企画委員会)
27日(土)	熊本県支部総会 宮地副会長出席	20日(月)	総務関係打ち合せ (会則関係)
27日(土)	愛知学院大学歯学部創立50周年記念講演会・式典・祝賀会 梅村副会長出席	21日(火)	厚生部委員会ゴルフ大会委員会
28日(日)	九州歯科大学同窓会「口腔保健フォーラム」 宮地・梅村各副会長出席	22日(水)	学術部委員会 (研修委員会)
29日(月)	学術部委員会 (運営委員会)	平成23年	
30日(火)	保険部委員会	1月6日(木)	事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
12月1日(水)	学術部委員会 (研究部委員会)	7日(金)	千代田支部新年会 大山会長出席
2日(木)	父兄会役員・大学との懇談会 大山会長出席	11日(火)	事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
3日(金)	広報部委員会 (会報企画)	12日(水)	広報部委員会 (会報委員会)
4日(土)	山梨県支部総会 関副会長出席	12日(水)	事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
	学術講演会 講師・安達 登先生 (山梨大学医学部法医学講座教授)	12日(水)	会長・副会長連絡会
4日(土)	愛媛県支部総会 田原理事出席	13日(木)	事業推進部委員会 (学術委員会・プログラム委員会)
	学術講演会 講師・高野伸夫教授(母校)	14日(金)	事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
4日(土)	鳥根県支部総会 宮地副会長出席	14日(金)	渉外部委員会
	学術講演会 講師・井川雅子先生 (静岡県市立清水病院口腔外科)	15日(土)	第1回理事会
4日(土)	東京地域支部連合会総会 大山会長, 高橋専務理事, 早速理事出席	15日(土)	東京地域支部連合会新年交歓会 大山会長出席
5日(日)	神奈川県支部連合同窓会総会 矢崎副会長出席	17日(月)	第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
5日(日)	静岡県支部総会 梅村副会長出席	18日(火)	広報部委員会 (ホームページ委員会)
	学術講演会 講師・田崎雅和教授(母校)	18日(火)	事業推進部委員会 (学術委員会・運営委員会)
5日(日)	栃木県支部総会 大山会長出席	20日(木)	総務関係打ち合せ
	学術講演会 講師・原 克先生 (早稲田大学教育学部教授)	21日(金)	事業推進部委員会 (学術委員会・運営委員会)
5日(日)	千葉県支部総会 高橋専務理事出席	21日(金)	芝支部総会・新年懇親会 大山会長出席
	学術講演会 講師・山根源之教授(母校)	22日(土)	杉並支部新年会 大山会長出席
6日(月)	第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会	24日(月)	事業推進部委員会 (学術委員会・企画会議)
6日(月)	学術部委員会 (プログラム委員会)	25日(火)	事業推進部委員会 (全体委員会)
8日(水)	第5回常任理事会	26日(水)	事業推進部委員会 (学術委員会・研修委員会)
10日(金)	日本橋支部総会 佐々木理事出席	28日(金)	浅草・下谷支部合同新年会
11日(土)	茨城県支部総会 関副会長出席		



- 大山会長出席
- 28日(金) 母校創立120周年記念事業打ち合せ
- 30日(日) 埼玉県支部新年会 大山会長出席
- 30日(日) 愛知県支部総会 梅村副会長出席
- 31日(月) 学長との懇談会  
大山会長, 関副会長, 高橋専務理事出席
- 2月1日(火) 会長・副会長連絡会
- 4日(金) 事業推進部委員会(保険委員会)
- 4日(金) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 6日(日) 東海地域支部連合会支部長会  
梅村副会長, 宮田理事出席
- 6日(日) 滋賀県支部総会  
学術講演会 講師・一戸達也教授(母校)
- 7日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 9日(水) 広報部委員会(会報委員会)
- 10日(木) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 11日(金祝) 東京医科歯科大学歯科同窓会創立八十周年記念式典・講演・祝宴
- 大山会長出席
- 14日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・将来像検討委員会B)
- 15日(火) 事業推進部委員会(学術委員会・プログラム委員会)
- 15日(火) 総務・厚生部委員会(厚生委員会)
- 16日(水) 第1回常任理事会
- 17日(木) 広報部委員会(ホームページ委員会)
- 19日(土) さいかち坂校舎(仮称)起工式  
大山会長出席
- 19日(土) 北多摩支部総会 大山会長出席
- 19日(土) 渉外部委員会
- 20日(日) TDC 卒後研修セミナー〔東京歯科大学同窓会フォーラム(「国民に最良の歯科医療を提供するために」～日本人の健康観と日本型歯科医療制度を探る～)〕
- 20日(日) 三重県支部総会 梅村副会長出席  
学術講演会 講師・花岡洋一准教授(母校)
- 21日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 22日(火) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 23日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・研修委員会)
- 24日(木) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 25日(金) 広報部委員会(会報・ホームページ委員会正副委員長会議)
- 28日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・企画会議)
- 3月1日(火) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 5日(土) 青森県支部総会 片倉副会長出席  
学術講演会 講師・中川寛一教授(母校)
- 7日(月) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 7日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・プログラム委員会)
- 10日(木) 第2回常任理事会
- 10日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会
- 10日(木) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 11日(金) 東京歯科大学衛生士専門学校卒業証書授与式  
大山会長出席
- 17日(木) 第116回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式  
大山会長出席
- 18日(金) 東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会
- 23日(水) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 23日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・研修委員会)
- 24日(木) 臨床研修医修了者へのオリエンテーション
- 28日(月) 東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会
- 28日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・企画会議)
- 29日(火) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 29日(火) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 30日(水) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 4月1日(金) 総務・厚生部委員会(厚生委員会)
- 1日(金) 事業推進部委員会(学術委員会・プログラム委員会)
- 3日(日) 第27回全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会準備会
- 4日(月) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 6日(水) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会

- 6日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 7日(木) 事業推進部委員会(シンクタンク委員会)
- 11日(月) 東京歯科大学衛生士専門学校入学式  
大山会長出席
- 11日(月) 総務・厚生部委員会(厚生委員会)
- 11日(月) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 12日(火) 平成23年度東京歯科大学入学式  
大山会長出席
- 12日(火) 事業推進部委員会(保険委員会)
- 12日(火) 渉外部委員会
- 13日(水) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 14日(木) 学術事業交流についての協議会  
宮地副会長, 高橋専務理事, 山本理事出席
- 15日(金) 広報部委員会(会報委員会)
- 16日(土) 第2回理事会
- 16日(土) 大分県支部総会 関副会長出席
- 18日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 18日(月) 東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会(支援物資仕分け作業)
- 21日(木) 東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会(支援物資仕分け作業)
- 21日(木) 会則検討特別委員会
- 22日(金) 広報部委員会(ホームページ委員会)
- 22日(金) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 24日(日) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー No.2 実習セミナー(「攻めのTBIとフッ化物の応用」～治療を目的とした, 知って得するテクニック～)
- 25日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・企画会議)
- 26日(火) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 27日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・研修委員会)
- 5月1日(日) 鹿児島県支部主催学術セミナー 講師・三浦 靖先生(千葉県開業)
- 9日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・プログラム委員会)
- 10日(火) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 11日(水) 広報部委員会(会報委員会)
- 11日(水) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 14日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 15日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 16日(火) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 17日(火) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 18日(水) 第3回常任理事会
- 19日(木) 事業推進部委員会(企画会議)
- 20日(金) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 20日(金) 小石川支部総会 臼井理事出席  
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 21日(土) 近畿地域支部連合会支部長会  
高橋専務理事, 井口理事出席
- 21日(土) 秋田県支部総会 山本理事出席  
学術講演会 講師・高瀬保品准教授(母校)
- 23日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・企画会議)
- 23日(月) 広報部委員会(ホームページ委員会)
- 24日(火) 会則検討特別委員会
- 25日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・研修委員会)
- 25日(水) 総務・厚生部委員会(厚生委員会・ゴルフ大会委員会)
- 26日(木) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会)
- 27日(金) 事業推進部委員会(シンクタンク委員会)
- 27日(金) 渋谷支部総会 宮地副会長出席
- 28日(土) 四国地域支部連合会総会(高知県支部担当)  
大山会長, 高橋専務理事, 久保田理事出席  
学術講演会 講師・関根秀志准教授(母校)
- 29日(日) 関東地域支部連合会支部長と同窓会役員との懇談会
- 6月1日(水) 事業推進部委員会(保険委員会)
- 2日(木) 監査会
- 2日(木) 被災地復興に向けて元気を送る会～日歯・日歯連盟新役員との集い～  
大山会長出席
- 3日(金) 総務・厚生部委員会(厚生委員会)
- 3日(金) 事業推進部委員会(学術委員会・プログラム委員会)

- 4日(土) 渉外部委員会
- 5日(日) 平成23年度学年代表者会
- 7日(火) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 8日(水) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 9日(木) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 10日(金) 広報部委員会(会報委員会)
- 11日(土) 東北地域支部連合会総会(青森県支部担当)  
大山会長, 高橋専務理事, 高橋理事出席  
学術講演会 講師・高野伸夫教授(母校)
- 13日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 14日(火) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 15日(水) 第4回常任理事会
- 15日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・研究部委員会)
- 16日(木) 事業推進部委員会(学術委員会・運営委員会)
- 18日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 19日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 20日(月) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 21日(火) 会則検討特別委員会
- 21日(火) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 24日(金) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会)
- 25日(土) 中国地域支部連合会総会(島根県支部担当)  
大山会長, 高橋専務理事, 山根理事, 原監事出席  
学術講演会 講師・加藤広之講師(母校)
- 25日(土) 新潟県支部総会 片倉副会長出席  
学術講演会 講師・高柳篤史先生(埼玉県開業)
- 25日(土) 九州地域支部連合会支部長会  
関副会長, 濱田理事出席
- 26日(日) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー  
No.3 ディスカッションセミナー(「義歯の設計を考える」～診るポイントとは～)
- 27日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・企画会議)
- 27日(月) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 28日(火) 事業推進部委員会(学術委員会・将来検討委員会B)
- 29日(水) 事業推進部委員会(学術委員会・研修委員会)
- 29日(水) 事業推進部委員会(シンクタンク委員会)
- 29日(水) 広報部委員会(ホームページ委員会)
- 30日(木) 総務・厚生部委員会(厚生委員会・ゴルフ大会委員会)
- 30日(木) 学術事業交流についての協議会  
宮地副会長, 高橋専務理事, 佐々木・島村・山本各理事出席
- 7月1日(金) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 3日(日) 愛知県支部主催学術講演会 講師・山根源之名誉教授(母校)
- 4日(月) 総務関係打ち合せ(会則検討)
- 4日(月) 事業推進部委員会(学術委員会・プログラム委員会)
- 5日(火) 事業推進部委員会(企画会議)
- 6日(水) 事業推進部委員会(大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 9日(土) 第3回理事会
- 9日(土) 群馬県支部総会 片倉副会長出席  
学術講演会 講師・山田 了名誉教授(母校)
- 10日(日) 埼玉県支部総会  
大山会長, 関副会長出席  
学術講演会 講師・松坂賢一准教授(母校)
- 11日(月) 広報部委員会(会報委員会)
- 11日(月) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 12日(火) 東京地域支部連合会主催都歯関係東歯同窓懇談会 大山会長出席
- 13日(水) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 15日(金) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 16日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 17日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 23日(土) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会
- 25日(月) 学長との懇談会  
大山会長, 矢崎・宮地・関各副会長, 高



- 橋専務理事出席
- 25日(月) 事業推進部委員会 (学術委員会・企画会議)
- 27日(水) 事業推進部委員会 (学術委員会・研修委員会)
- 27日(水) 練馬支部学術講演会 講師・阿部伸一教授 (母校)
- 28日(木) 総務・厚生部委員会 (厚生委員会・ゴルフ大会実行委員会)
- 29日(金) 事業推進部委員会 (保険委員会)
- 30日(土) 東京地域支部連合会 (城南ブロック) 支部長会 白井理事出席
- 31日(日) 事業推進部委員会 (学術委員会・全体委員会)
- 8月1日(月) 事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 3日(水) 事業推進部委員会(シンクタンク委員会)
- 3日(水) 事業推進部委員会 (学術委員会・運営委員会)
- 5日(金) 広報部委員会 (ホームページ委員会)
- 5日(金) 事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会)
- 9日(火) 総務関係打ち合せ (会則検討)
- 18日(木) 総務関係打ち合せ (会則検討)
- 20日(土) 全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会 宮地副会長出席
- 22日(月) 広報部委員会 (会報委員会)
- 22日(月) 事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 23日(火) 事業推進部委員会 (若手研修委員会)
- 24日(水) 事業推進部委員会 (学術委員会・研修委員会)
- 29日(月) 事業推進部委員会 (学術委員会・企画会議)
- 9月1日(木) 事業推進部委員会 (学術委員会・運営委員会)
- 3日(土) 関東地域支部連合会総会 (山梨県支部担当) 大山会長, 関副会長, 高橋専務理事, 長久保理事出席
- 3日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 4日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 5日(月) 総務関係打ち合せ (会則検討)
- 5日(月) 事業推進部委員会 (企画会議)
- 6日(火) 事業推進部委員会 (学術委員会・若手研修委員会)
- 6日(火) 事業推進部委員会 (保険委員会)
- 7日(水) 事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 8日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会
- 8日(木) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー No.4 イブニングセミナー (「スタンダードブリーチング」～感染に対する正しい知識～)
- 10日(土) 北海道地域支部連合会総会 (十勝支部担当) 大山会長, 梅村副会長, 白井・戸田各理事出席 卒後研修会 講師・小宮山彌太郎臨床教授 (母校)
- 11日(日) 東海地域支部連合会総会 (三重県支部担当) 矢崎副会長, 高橋専務理事, 島村・宮田各理事出席
- 12日(月) 広報部委員会 (会報委員会)
- 15日(木) 東日本大震災チャリティー同窓会全国ゴルフ大会 (40周年)
- 17日(土) 第4回理事会
- 17日(土) 鳥取県支部総会 学術講演会 講師・橋本貞允准教授 (母校)
- 20日(火) 事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会)
- 21日(水) 事業推進部委員会(シンクタンク委員会)
- 22日(木) 総務関係打ち合せ (会則検討)
- 22日(木) 事業推進部委員会 (大学・同窓連携委員会・運営委員会)
- 26日(月) 東京歯科大学同窓会全国社会保険指導者懇談会
- 26日(月) 事業推進部委員会 (学術委員会・企画会議)
- 27日(火) 事業推進部委員会(シンクタンク委員会)
- 28日(水) 広報部委員会 (ホームページ委員会)
- 28日(水) 事業推進部委員会 (学術委員会・研修委員会)
- 29日(木) 事業推進部委員会 (学術委員会・運営委員会)

平成22年10月1日より平成23年9月30日までに逝去された会員は次のとおりです。

(敬称略)

熊本	添島 義和	新 潟	小見 尚	茨 城	田島 篤治	葛 飾	景山 博水
牛 込	渡部 一雄	栃 木	池上 武正	横浜中央	芳賀 一彦	愛 媛	西村 正雄
北多摩	太田 稔	島 根	川上 強逸	茨 城	大 畠 博	茨 城	宮本 公武
岡 山	山脇 正臣	新 潟	増村 榮一	埼 玉	林 健一郎	鹿 児 島	上村 長威
山 梨	若尾 孝	墨 田	牧 完充	千 葉	椎名 統治	静 岡	西山 忠彦
福 岡	大岡 喬	川 崎	中林 清光	室 蘭	村上 雅	兵 庫	丸川 萬吉郎
静 岡	栗原 恒夫	大 学	森本 光明	墨 田	渡 辺 一	豊 島	西尾 宏英
芝	近藤 忠雄	荏 原	守 仁郎	西多摩	金子 義泰	静 岡	栗田 稔
新 潟	富田 功	群 馬	三原 寿夫	沖 縄	呉 溪順	蒲 田	鈴木 宇
千 葉	新橋 隆幸	埼 玉	新井 誠司	愛 知	金子 裕	茨 城	松浦 誠一
杉 並	松崎 強	和歌山	河本 實	兵 庫	林 幹雄	北多摩	千野 忍
群 馬	井田 實	墨 田	香川 亘	川 崎	稲葉 和輝	埼 玉	田能村 宣久
愛 知	井上好平	千 葉	板倉 八重子	高 知	沖 義郎	兵 庫	永田 穰
秋 田	五味 武一	北多摩	相田 英孝	島 根	山本 敏彦	静 岡	加藤 實
北多摩	岩崎 貞彦	兵 庫	後藤 秀夫	青 森	猪股 幸太	広 島	小林 タマエ
青 森	渡辺 雄幸	足 立	小澤 緑	青 森	清藤 勇也	新 潟	行形 勝
横浜鶴見	酒井 眞一	茨 城	廣瀬 琢真	芝	柳澤 勇喜夫	新 潟	小林 温雄
福 岡	田中 嘉實	高 知	横山 勝	福 島	門馬 弘	富 山	島 信行
山 梨	鶴田 丞次	横須賀・鎌倉	川村 昇	大 阪	山田 勉	岐 阜	森 耕一
広 島	黒河 成海	栃 木	今井 一郎	栃 木	柳田 浩司	三 重	西田 眞
島 根	竹原 茂久	新 潟	岡田 一郎	山 形	土方 黎子	空 知	柳 弘治
福 岡	板井 静馬	新 宿	松村 久夫	大 分	筒井 豊	鳥 取	田中文彦
富 山	逸見 玲	茨 城	上野 光	愛 知	藤城 彰人	大 分	山本 隆夫
札 幌	佐々木 昭	練 馬	湯澤 正興	中 野	海老原 信	三 重	中野 博
横浜中央	今村 嘉孝	埼 玉	小山 昌道	千代田	長井 宏之	愛 知	川崎 義人
札 幌	谷口 良一	青 森	福士 孝裕	静 岡	鈴木 啓仁	宮 城	大塚 重雄
練 馬	脇 猷二	静 岡	杉山 博重	宮 城	菊池 成幸	埼 玉	浅利 義則
新 潟	五十嵐 之人	新 宿	高橋 敬文	福 岡	阿比留 次郎	富 山	大江 金雄
宮 城	板澤 浩男	愛 知	近藤 美千夫	大 阪	和田 寛	福 岡	永江 敬之
豊 島	成田 實	愛 知	成田 嘉則	北多摩	鉢嶺 清有	練 馬	水島 広一
宮 城	橘高 吉人	千 葉	佐藤 るり	横浜南部	井崎 明夫	三 重	森 茂樹
本 郷	田中 久雄	愛 知	岡本 纓二	宮 城	三澤 繁衛	北 信	細尾 純造
香 川	塩田 尚文	練 馬	船坂 玄次	神奈川西湘	戸田 裕	愛 媛	大野 実
群 馬	室橋 和夫	荒 川	江里口 武	川 崎	杉之内 芳郎		

(届出順 以上 135名)

# 平成23年度東京歯科大学同窓会総務・厚生部報告

(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

1. 火災、災害による罹災会員に共済規程第6条第1項二号に基づき罹災共済金（見舞金）を支給した会員は次のとおりです。

(1) 東日本大震災（平成23年3月11日発生）による罹災会員

- |         |                  |                  |
|---------|------------------|------------------|
| <青森県支部> | 宮川 克孝 氏 (昭43卒)   | 畑山 洋司 氏 (昭50卒)   |
|         | 宮川 聡文 氏 (平9卒)    |                  |
| <岩手県支部> | 松橋 孜 氏 (昭46卒)    | 吉川 道雄 氏 (昭52卒)   |
|         | 松橋精二郎 氏 (平12卒)   |                  |
| <宮城県支部> | 板澤 浩男 氏 (昭17.9卒) | 藤原 三郎 氏 (昭18.9卒) |
|         | 伊藤 大 氏 (昭23卒)    | 橋高 吉人 氏 (昭23卒)   |
|         | 八幡 昌介 氏 (昭26卒)   | 懸田 利孝 氏 (昭30卒)   |
|         | 杉山 清人 氏 (昭31卒)   | 臼井 千雄 氏 (昭35卒)   |
|         | 箕田 昌弘 氏 (昭36卒)   | 梅津 文夫 氏 (昭37卒)   |
|         | 菅野 博康 氏 (昭40卒)   | 浅野 宏 氏 (昭42卒)    |
|         | 赤間 力 氏 (昭43卒)    | 小松 義明 氏 (昭43卒)   |
|         | 伊藤 れい 氏 (昭44卒)   | 田島 守 氏 (昭44卒)    |
|         | 千葉 正胤 氏 (昭44卒)   | 小野 喬 氏 (昭45卒)    |
|         | 中嶋 幸彦 氏 (昭46卒)   | 馬淵 量平 氏 (昭46卒)   |
|         | 菊池 亮三 氏 (昭47卒)   | 島 和雄 氏 (昭47卒)    |
|         | 関 孝雄 氏 (昭47卒)    | 鈴木 一雄 氏 (昭48卒)   |
|         | 葛 正博 氏 (昭51卒)    | 菅原 初夫 氏 (昭51卒)   |
|         | 菅原 文節 氏 (昭52卒)   | 鈴木 篤 氏 (昭52卒)    |
|         | 大原 英徳 氏 (昭53卒)   | 鈴木 裕 氏 (昭54卒)    |
|         | 鹿郷 峰敏 氏 (昭57卒)   | 太宰 三男 氏 (昭60卒)   |
|         | 小野寺佳代 氏 (昭62卒)   | 小野寺勇司 氏 (平1卒)    |
|         | 懸田 明弘 氏 (平1卒)    | 梅津 文子 氏 (平3卒)    |
|         | 秋元 直文 氏 (平4卒)    | 菊池 淳一 氏 (平4卒)    |
|         | 松尾 浩英 氏 (平7卒)    | 佐藤 晶 氏 (平10卒)    |
|         | 伊藤英美子 氏 (平14卒)   |                  |
| <福島県支部> | 石井 満 氏 (昭25卒)    | 菅波 要 氏 (昭33卒)    |
|         | 渡辺 琢也 氏 (昭33卒)   | 海洲 馨一 氏 (昭34卒)   |
|         | 鈴木与志昭 氏 (昭34卒)   | 佐藤 祐司 氏 (昭36卒)   |
|         | 渡貫 健 氏 (昭36卒)    | 加藤喜代次 氏 (昭40卒)   |



中村 秀勝 氏 (昭42卒)	高久 早苗 氏 (昭43卒)
安齋 勲 氏 (昭44卒)	入江 哲 氏 (昭44卒)
門馬 功 氏 (昭45卒)	佐藤 正行 氏 (昭46卒)
富岡 寛美 氏 (昭46卒)	渡辺 信哉 氏 (昭46卒)
茂木喜久男 氏 (昭47卒)	川崎 良輔 氏 (昭48卒)
佐藤 経二 氏 (昭48卒)	北浦 洋二 氏 (昭49卒)
宍戸 計一 氏 (昭49卒)	菅谷 敏 氏 (昭49卒)
松本 寛志 氏 (昭49卒)	渡辺 重視 氏 (昭49卒)
清信 成一 氏 (昭51卒)	須藤 茂幸 氏 (昭51卒)
原 英一 氏 (昭51卒)	森田 欣吾 氏 (昭53卒)
相原 健 氏 (昭54卒)	鈴木 隆 氏 (昭54卒)
野木 敏久 氏 (昭55卒)	佐藤 和彦 氏 (昭56卒)
西川 祐介 氏 (昭57卒)	森合 達也 氏 (昭57卒)
永井 光男 氏 (昭58卒)	秋元 英典 氏 (昭59卒)
西間木俊光 氏 (昭62卒)	萩原 哲二 氏 (昭62卒)
森 絹代 氏 (平2卒)	渡部 光弘 氏 (平2卒)
大内 祥仁 氏 (平4卒)	小森谷 亮 氏 (平4卒)
国井 雄二 氏 (平6卒)	今村 一路 氏 (平8卒)
猪狩 弓彦 氏 (平9卒)	西山 令生 氏 (平9卒)
勢島 尚 氏 (平13卒)	

<茨城県支部>

新井 清 氏 (昭13卒)	石井 研二 氏 (昭19.9卒)
泉川 勇 氏 (昭19.9卒)	久保木康輔 氏 (昭29卒)
田崎 之光 氏 (昭33卒)	大金 正幸 氏 (昭34卒)
須田 晃 氏 (昭35卒)	山口 忠夫 氏 (昭39卒)
石内 可城 氏 (昭41卒)	小竹 勝也 氏 (昭43卒)
山添 雅夫 氏 (昭43卒)	五代儀和春 氏 (昭47卒)
大峰 秀樹 氏 (昭47卒)	荒野 実 氏 (昭48卒)
小島 克明 氏 (昭48卒)	小舩 秀文 氏 (昭48卒)
大野 勝己 氏 (昭50卒)	須藤 純男 氏 (昭50卒)
高田 章 氏 (昭50卒)	中嶋 健二 氏 (昭50卒)
牧 厚志 氏 (昭50卒)	松浦 直行 氏 (昭50卒)
志村 俊晴 氏 (昭51卒)	島田 洋次 氏 (昭51卒)
山崎 洋子 氏 (昭52卒)	山崎 雅美 氏 (昭52卒)
内山 聡 氏 (昭53卒)	川口 浩 氏 (昭54卒)
高橋 裕子 氏 (昭54卒)	富永 明弘 氏 (昭55卒)
猿田 範雄 氏 (昭56卒)	斯波 亨 氏 (昭56卒)
吉川 昭嘉 氏 (昭56卒)	宮本 克樹 氏 (昭57卒)
中川 昇 氏 (昭58卒)	松崎 英雄 氏 (昭58卒)

沼田 裕之 氏 (昭59卒)	渡辺 千秋 氏 (昭59卒)
太田ゆかり 氏 (昭61卒)	菊地 長生 氏 (昭62卒)
篠塚 浩 氏 (昭62卒)	土子 吉久 氏 (昭62卒)
秋田 浩行 氏 (昭63卒)	寺門 史郎 氏 (平2卒)
吉田 俊一 氏 (平2卒)	木村 愼一 氏 (平3卒)
田澤 重伸 氏 (平5卒)	中島 理子 氏 (平5卒)
下河邊文則 氏 (平7卒)	鈴木 謙介 氏 (平7卒)
平田 輝行 氏 (平8卒)	木村 由佳 氏 (平10卒)
本間留美果 氏 (平12卒)	鈴木 宏信 氏 (平13卒)

<栃木県支部>	菊池 文雄 氏 (昭18.9卒)	及川 眞二 氏 (昭32卒)
	大久保雅順 氏 (昭34卒)	森下昭十三 氏 (昭37卒)
	牟田 紀一 氏 (昭39卒)	村上 晃 氏 (昭40卒)
	園田 省平 氏 (昭46卒)	高山 晴之 氏 (昭46卒)
	津田 紀夫 氏 (昭46卒)	水野 銀三 氏 (昭46卒)
	臼井 良明 氏 (昭49卒)	大関 亮 氏 (昭49卒)
	大塚 憲夫 氏 (昭53卒)	菊池 秀行 氏 (昭57卒)
	坂入 道子 氏 (昭59卒)	

<千葉県支部>	伊藤 博夫 氏 (昭36卒)	福嶋 史郎 氏 (昭53卒)
	神田 哲彦 氏 (昭54卒)	村田 達勇 氏 (昭54卒)
	三浦 克之 氏 (昭59卒)	小原 修 氏 (平3卒)

<大学支部>	角田 正健 氏 (昭46卒)	宮崎 晴代 氏 (昭56卒)
	久保 周平 氏 (昭57卒)	内山 宙 氏 (平20卒)
	内山 沙姫 氏 (平22卒)	

<芝支部> 天野 恭彦 氏 (平8卒)

<深川支部> 小野 恭介 氏 (平10卒)

<名誉会員> 町田 幸雄 氏 (昭30卒)

以上 177名

(2) 火災による罹災会員

<日本橋支部> 福岡 博史 氏 (昭58卒) 平成23年4月22日発生

<埼玉県支部> 浅利 幸彦 氏 (昭56卒) 平成23年5月30日発生

以上 2名

2. 共済規程第6条第1項一号に基づき弔慰金を支給した逝去会員は次のとおりです。

(敬称略)

熊本	添島義和	新潟	小見尚	茨城	田島篤治	葛飾	景山博水
牛込	渡部一雄	栃木	池上武正	横浜中央	芳賀一彦	愛媛	西村正雄
北多摩	太田稔	島根	川上強逸	茨城	大島博	茨城	宮本公武
岡山	山脇正臣	新潟	増村榮一	埼玉	林健一郎	鹿児島	上村長威
山梨	若尾孝	墨田	牧完充	千葉	椎名統治	静岡	西山忠彦
福岡	大岡喬	川崎	中林清光	室蘭	村上雅	兵庫	丸川萬吉郎
静岡	栗原恒夫	大塚	森本光明	豊島	西尾宏英	芝	近藤忠雄
荏原	守仁郎	西多摩	金子義泰	静岡	栗田稔	新潟	富田功
群馬	三原寿夫	蒲田	鈴木宇	千葉	新橋隆幸	埼玉	新井誠司
愛知	金子裕	茨城	松浦誠一	杉並	松崎強	和歌山	河本實
兵庫	林幹雄	北多摩	千野忍	群馬	井田實	墨田	香川亘
川崎	稲葉和輝	埼玉	田能村宣久	愛知	井上好平	千葉	板倉八重子
高知	沖義郎	兵庫	永田穰	秋田	五味武一	北多摩	相田英孝
島根	山本敏彦	静岡	加藤實	北多摩	岩崎貞彦	兵庫	後藤秀夫
青森	猪股幸太	広島	小林タマエ	青森	渡辺雄幸	青森	清藤勇也
新潟	行形勝	横浜鶴見	酒井眞一	茨城	廣瀬琢真	芝	柳澤勇喜夫
新潟	小林温雄	福岡	田中嘉實	高知	横山勝	福島	門馬弘
富山	島信行	横須賀・鎌倉	川村昇	大阪	山田勉	岐阜	森耕一
広島	黒河成海	栃木	今井一郎	栃木	柳田浩司	三重	西田眞
島根	竹原茂久	新潟	岡田一郎	山形	土方黎子	空知	柳弘治
福岡	板井静馬	新宿	松村久夫	大分	筒井豊	鳥取	田中文彦
富山	逸見玲	茨城	上野光	愛知	藤城彰人	大分	山本隆夫
練馬	湯澤正興	中野	海老原信	三重	中野博	横浜中央	今村嘉孝
埼玉	小山昌道	千代田	長井宏之	愛知	川崎義人	札幌	谷口良一
青森	福士孝裕	静岡	鈴木啓仁	宮城	大塚重雄	練馬	脇猷二
静岡	杉山博重	宮城	菊池成幸	埼玉	浅利義則	新潟	五十嵐之人
新宿	高橋敬文	福岡	阿比留次郎	富山	大江金雄	宮城	板澤浩男
愛知	近藤美千夫	大阪	和田寛	福岡	永江敬之	豊島	成田實
愛知	成田嘉則	宮城	橘高吉人	千葉	佐藤るり	横浜南部	井崎明夫
三重	森茂樹	本郷	田中久雄	愛知	岡本纓二	宮城	三澤繁衛
北信	細尾純造	香川	塩田尚文	練馬	船坂玄次	神奈川西湘	戸田裕
愛媛	大野実	群馬	室橋和夫	荒川	江里口武	川崎	杉之内芳郎

(届出順 以上 128名)



第1号議案

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
 経常部収支決算書

自 平成22年1月1日  
 至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印 = 予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
会費	105,780,000 <sup>円</sup>	91,747,300 <sup>円</sup>	14,032,700 <sup>円</sup>	86.7%	昭和40～42年度 1,200円× 3人 昭和43～47年度 1,700円× 5人 昭和48年度 3,200円× 1人 昭和49年度 3,500円× 2人 昭和50年度 6,000円× 2人 昭和51年度 7,000円× 1人 昭和52年度 8,000円× 2人 昭和53年度 8,000円× 3人 昭和54年度 8,000円× 2人 昭和55年度 10,000円× 2人 昭和56年度 10,000円× 2人 昭和57年度 10,000円× 2人 昭和58年度 12,000円× 1人 昭和59年度 12,000円× 2人 昭和60年度 12,000円× 3人 昭和61年度 12,000円× 3人 昭和62年度 12,000円× 4人 昭和63年度 14,000円× 2人 平成1年度 14,000円× 5人 平成2年度 14,000円× 4人 平成3年度 14,000円× 5人 平成4年度 14,000円× 3人 平成5年度 14,000円× 6人 平成6年度 14,000円× 7人 平成7年度 14,000円× 8人 平成8年度 14,000円× 8人 平成9年度 14,000円× 8人 平成10年度 14,000円× 7人 平成11年度 20,000円× 9人 平成12年度 20,000円× 10人 平成13年度 20,000円× 14人 平成14年度 18,000円× 16人 平成15年度 18,000円× 19人 平成16年度 18,000円× 21人 平成17年度 18,000円× 25人 平成18年度 18,000円× 40人 平成19年度 18,000円× 54人 平成20年度 18,000円× 109人 平成21年度 18,000円× 549人 平成22年度 18,000円× 4,161人 平成20年度以前分 420人 6,967,300円 平成21年度分 549人 9,882,000円 平成22年度分 4,161人 74,898,000円 合計 5,130人 91,747,300円
入会金	740,000	655,000	85,000	88.5	新卒者 5,000円× 121人 推薦会員 50,000円× 1人
雑収入	1,850,000	1,820,717	29,283	98.4	
収入計	108,370,000	94,223,017	14,146,983	86.9	
前年度繰越金	20,900,000	40,679,227	△19,779,227	194.6	三菱東京UFJ銀行 普通預金 2,104,576円 三菱東京UFJ銀行 普通預金 33,517,013円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円 ゆうちょ銀行 通常貯金 1,057,638円
合計	129,270,000	134,902,244	△5,632,244	104.4	

## (支出の部)

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
	円	円	円	%	
事務費	33,790,000	32,868,942	921,058	97.3	
給与費	19,440,000	18,215,583	1,224,417	93.7	事務職員
福利厚生費	270,000	172,996	97,004	64.1	役員等の傷害保険
地代家賃	3,600,000	3,600,000	0	100.0	
通信費	1,790,000	2,296,199	△506,199	128.3	
印刷費	1,460,000	1,567,466	△107,466	107.4	
備品購入費	600,000	1,034,250	△434,250	172.4	
消耗品費	400,000	838,114	△438,114	209.5	
集金手数料	4,770,000	3,781,500	988,500	79.3	
保守管理委託費	1,190,000	1,107,614	82,386	93.1	
雑費	270,000	255,220	14,780	94.5	
事業費	83,940,000	72,043,527	11,896,473	85.8	
旅費交通費	27,430,000	27,079,940	350,060	98.7	
総務関係費	21,400,000	15,264,910	6,135,090	71.3	時局対策費積立金会計繰入減
広報関係費	13,530,000	13,342,174	187,826	98.6	
渉外関係費	3,010,000	1,296,345	1,713,655	43.1	渉外活動費減
保険関係費	1,920,000	1,716,971	203,029	89.4	
学術関係費	3,660,000	2,529,350	1,130,650	69.1	研究関連費減
厚生関係費	250,000	188,985	61,015	75.6	
情報関係費	900,000	439,264	460,736	48.8	ホームページ関係費減
会合費	1,000,000	799,395	200,605	79.9	
交際費	7,630,000	5,842,672	1,787,328	76.6	
慶弔費	1,930,000	2,204,250	△274,250	114.2	
雑費	1,280,000	1,339,271	△59,271	104.6	
会議費	2,850,000	2,650,140	199,860	93.0	
役員会費	100,000	84,462	15,538	84.5	
評議員会費・総会費	2,300,000	2,249,896	50,104	97.8	平成22年11月27日開催
支部長会費	100,000	0	100,000	0.0	
雑費	350,000	315,782	34,218	90.2	
特別会計繰入金	3,840,000	3,755,000	85,000	97.8	
同窓会基金	740,000	655,000	85,000	88.5	平成22年度分繰入
血協記念基金	100,000	100,000	0	100.0	平成22年度分繰入
名簿積立金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	平成22年度分繰入
退職積立金	1,000,000	1,000,000	0	100.0	平成22年度分繰入
予備費	4,850,000	0	4,850,000	0.0	
支出計	129,270,000	111,317,609	17,952,391	86.1	
次年度繰越金	0	23,584,635	△23,584,635		三菱東京UFJ銀行 普通預金 2,618,982円 三菱東京UFJ銀行 普通預金 15,907,600円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円 ゆうちょ銀行 通常貯金 1,058,053円
合計	129,270,000	134,902,244	△5,632,244	104.4	

第2号議案

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
同窓会基金収支決算書

自 平成22年1月1日  
至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印 = 予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
繰入金	740,000	655,000	85,000	88.5	経常部より
雑収入	50,000	31,366	18,634	62.7	利息
前年度繰越金	27,540,000	27,233,416	306,584	98.9	三菱東京UFJ銀行 普通預金 2,957,631円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 12,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 125,785円 みずほ信託銀行 定期預金 12,150,000円
合計	28,330,000	27,919,782	410,218	98.6	

(支出の部)

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
次年度繰越金	28,330,000	27,919,782	410,218	98.6	三菱東京UFJ銀行 普通預金 3,630,373円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 12,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 139,409円 みずほ信託銀行 定期預金 12,150,000円
合計	28,330,000	27,919,782	410,218	98.6	

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
血脇記念基金収支決算書

自 平成22年1月1日  
至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印 = 予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
繰入金	100,000	100,000	0	100.0	経常部より
雑収入	10,000	6,187	3,813	61.9	利息
前年度繰越金	4,860,000	4,826,768	33,232	99.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 826,768円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円
合計	4,970,000	4,932,955	37,045	99.3	

(支出の部)

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
次年度繰越金	4,970,000	4,932,955	37,045	99.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 932,955円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円
合計	4,970,000	4,932,955	37,045	99.3	



平成22年度 東京歯科大学同窓会  
共済基金収支決算書

自 平成22年 1月 1日  
至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予算額	決算額	差 額	対比	摘 要
共済負担金	19,600,000 <sup>円</sup>	17,242,200 <sup>円</sup>	2,357,800 <sup>円</sup>	88.0%	昭和40～42年度 300円× 3人 昭和43～48年度 800円× 6人 昭和49～51年度 1,500円× 5人 昭和52～53年度 2,000円× 5人 昭和54～55年度 3,000円× 4人 昭和56～63年度 4,000円× 25人 平成1～20年度 4,000円× 406人 平成21年度分 4,000円× 600人 平成22年度分 4,000円× 4,561人  平成20年度以前分 454人 1,759,200円 平成21年度分 600人 1,800,000円 平成22年度分 4,561人 13,683,000円 合計 5,615人 17,242,200円
雑収入	20,000	124,791	△ 104,791	624.0	利息
前年度繰越金	94,000,000	94,282,198	△ 282,198	100.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 10,600,405円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 80,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 231,793円 みずほ信託銀行 定期預金 3,450,000円
合 計	113,620,000	111,649,189	1,970,811	98.3	

(支出の部)

科 目	予算額	決算額	差 額	対比	摘 要
共済金	19,200,000 <sup>円</sup>	17,900,000 <sup>円</sup>	1,300,000 <sup>円</sup>	93.2%	弔慰共済金 13,500,000円 (@200,000×2件, @100,000×131件) 罹災共済金 300,000円 (@100,000×3件) 80歳祝金 4,000,000円 (@ 50,000×80件) 100歳祝金 100,000円 (@ 50,000×2件)
事務費	750,000	144,760	605,240	19.3	祝金送料他
予備費	6,000,000	0	6,000,000	0.0	
給付準備金	87,670,000	0	87,670,000	0.0	
次年度繰越金	0	93,604,429	△93,604,429		三菱東京UFJ銀行 普通預金 9,918,797円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 80,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 235,632円 みずほ信託銀行 定期預金 3,450,000円
合 計	113,620,000	111,649,189	1,970,811	98.3	

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
名簿積立金収支決算書

自 平成22年1月1日  
至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
繰入金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	経常部より
雑収入	10,000	1,026	8,974	10.3	利息
前年度繰越金	0	48,791	△ 48,791		三菱東京UFJ銀行 普通預金 48,791円
合計	2,010,000	2,049,817	△ 39,817	102.0	

(支出の部)

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
通信費	0	8,604	△ 8,604		名簿発送費
雑費	0	50,000	△ 50,000		会員名簿表紙デザイン料
次年度繰越金	2,010,000	1,991,213	18,787	99.1	三菱東京UFJ銀行 普通預金 1,991,213円
合計	2,010,000	2,049,817	△ 39,817	102.0	

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
退職積立金収支決算書

自 平成22年1月1日  
至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100.0	経常部より
雑収入	10,000	515	9,485	5.2	利息
前年度繰越金	1,670,000	1,657,940	12,060	99.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 1,657,940円
合計	2,680,000	2,658,455	21,545	99.2	

(支出の部)

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
次年度繰越金	2,680,000	2,658,455	21,545	99.2	三菱東京UFJ銀行 普通預金 2,658,455円
合計	2,680,000	2,658,455	21,545	99.2	

第3号議案

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
 卒後研修セミナー収支決算書

自 平成22年1月1日  
 至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
受講料	11,000,000 <sup>円</sup>	13,457,000 <sup>円</sup>	△ 2,457,000 <sup>円</sup>	122.3 <sup>%</sup>	1. 卒研フォーラム No.1 先達に学ぶ「開業医としての楽しみ」 〔受講割引なし〕 942,000円 10,000×87人 870,000円 〔受講割引あり〕 8,000×9人 72,000円 2. 卒研セミナー No.2 根管処置の経過不良を考える 〔受講割引なし〕 1,954,000円 50,000×17人 850,000円 〔受講割引あり〕 48,000×23人 1,104,000円 No.3 はじめの一步「口腔内から何を読み、何を考えるか」 〔受講割引なし〕 829,000円 15,000×26人 390,000円 〔受講割引あり〕 13,000×19人 247,000円 12,000×16人 192,000円 No.4 歯の審美的回復 〔受講割引なし〕 1,806,000円 50,000×15人 750,000円 〔受講割引あり〕 48,000×22人 1,056,000円 No.5 安全で確実なインプラントをするために 〔受講割引なし〕 2,838,000円 130,000×11人 1,430,000円 〔受講割引あり〕 128,000×11人 1,408,000円 No.6 SPT の実際 〔受講割引なし〕 1,218,000円 〔受講割引あり〕 15,000×32人 480,000円 13,000×42人 546,000円 12,000×16人 192,000円 No.7 咬合育成の基礎と臨床 〔受講割引なし〕 3,870,000円 70,000×31人 2,170,000円 〔受講割引あり〕 68,000×25人 1,700,000円 合計 13,457,000円
雑収入	20,000	302,319	△ 282,319	1,511.6	セミナーテキスト代他
繰入金収入	400,000	200,000	200,000	50.0	卒後研修セミナー積立金会計より
収入計	11,420,000	13,959,319	△ 2,539,319	122.2	
前年度繰越金	5,000,000	5,327,156	△ 327,156	106.5	三菱東京 UFJ 銀行 普通預金 5,327,156円
合計	16,420,000	19,286,475	△ 2,866,475	117.5	



## (支出の部)

科 目	予算額	決算額	差 額	対比	摘 要
事務費	700,000	228,935	471,065	32.7	プログラム発送他
通信運搬費	500,000	207,319	292,681	41.5	
消耗品費	100,000	20,066	79,934	20.1	
雑費	100,000	1,550	98,450	1.6	
事業費	15,100,000	13,062,387	2,037,613	86.5	テキスト作成費等
講師謝礼費	3,300,000	1,963,500	1,336,500	59.5	
講師旅費交通費	1,200,000	678,000	522,000	56.5	
資料作成費	900,000	703,500	196,500	78.2	
実習器材費	4,200,000	4,770,491	△ 570,491	113.6	
役務費	1,500,000	1,344,000	156,000	89.6	
設営費	1,400,000	863,886	536,114	61.7	
印刷広報費	700,000	827,374	△ 127,374	118.2	
受講証関係費	100,000	21,956	78,044	22.0	
広告費	1,000,000	1,621,200	△ 621,200	162.1	
渉外費	400,000	53,780	346,220	13.4	
会場費	400,000	214,700	185,300	53.7	
公租公課	400,000	300,800	99,200	75.2	消費税
予備費	220,000	0	220,000	0.0	
支出計	16,420,000	13,592,122	2,827,878	82.8	
次年度繰越金	0	5,694,353	△ 5,694,353		三菱東京UFJ銀行 普通預金 5,327,156円
合 計	16,420,000	19,286,475	△ 2,866,475	117.5	

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
 卒後研修セミナー積立金収支決算書

自 平成22年 1月 1日  
 至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予算額	決算額	差 額	対比	摘 要
雑収入	10,000 <sup>円</sup>	17,490 <sup>円</sup>	△ 7,490 <sup>円</sup>	174.9%	利息
前年度繰越金	19,020,000	19,126,868	△ 106,868	100.6	みずほ信託銀行 普通預金 1,126,868円 みずほ信託銀行 定期預金 18,000,000円
合 計	19,030,000	19,144,358	△ 114,358	100.6	

(支出の部)

科 目	予算額	決算額	差 額	対比	摘 要
通信費	0 <sup>円</sup>	735 <sup>円</sup>	△ 735 <sup>円</sup>	%	振込手数料
繰入金支出	400,000	200,000	200,000	50.0	卒後研修セミナー会計繰入
次年度繰越金	18,630,000	18,943,623	△ 313,623	101.7	みずほ信託銀行 普通預金 943,623円 みずほ信託銀行 定期預金 18,000,000円
合 計	19,030,000	19,144,358	△ 114,358	100.6	

第4号議案

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
時局対策費積立金会計収支決算書

自 平成22年1月1日  
至 平成22年12月31日

(収入の部)

△印 = 予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
繰入金	20,000,000 <sup>円</sup>	15,000,000 <sup>円</sup>	5,000,000 <sup>円</sup>	75.0 <sup>%</sup>	経常部より
雑収入	50,000	41,554	8,446	83.1	利息
前年度繰越金	32,070,000	32,130,518	△ 60,518	100.2	三菱東京UFJ銀行 普通預金 17,130,518円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 15,000,000円
合計	52,120,000	47,172,072	4,947,928	90.5	

(支出の部)

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
協力金	25,000,000 <sup>円</sup>	25,000,000 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	100.0 <sup>%</sup>	本学創立120周年記念誌同窓分負担として
次年度繰越金	27,120,000	22,172,072	4,947,928	81.8	三菱東京UFJ銀行 普通預金 7,172,072円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 15,000,000円
合計	52,120,000	47,172,072	4,947,928	90.5	



第5号議案

平成22年度 東京歯科大学同窓会  
財 産 目 録

平成22年12月31日

1. 備 品

機 器 備 品

	品 目	数量	購入年月	購入価格	備 考
1	収納戸棚	3	H 9. 10	370, 650	
2	書類保管庫	3	H13. 4	370, 482	
3	パソコン Mac iBook	1	H14. 8	180, 390	Mac
4	プロジェクター Epson	1	H14. 8	338, 100	
5	ビデオカメラ	1	H19. 12	138, 906	
6	プロジェクター	1	H19. 12	279, 800	
7	パソコン acer	4	H20. 3	798, 000	WIN
8	書類保管庫 A4 W-IS	1	H20. 9	115, 815	
9	パソコン	1	H21. 2	248, 000	WIN
	計 9 品 目	16		2, 840, 143	

電 話 加 入 権

	品 目	数量	購入年月	購入価格	備 考
1	電話加入権	2回線	H 2. 3	149, 968	@74, 984
2	電話加入権	1回線	H15. 8	76, 440	
	計			226, 408	

消 耗 備 品

	品 目	数 量	購入価格	備 考
1	片袖机 他	42点	1, 413, 016	

2. 普通預金, 定期預金, 通常預金

会計区分	種類	預金残高	取引銀行
(1) 経常部	普通預金	2,618,982	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	〃	15,907,600	〃 〃
	定期預金	4,000,000	〃 〃
	通常貯金	1,058,053	神田三崎町郵便局
計		23,584,635	
(2) 共済基金	普通預金	9,918,797	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	80,000,000	〃 〃
	普通預金	235,632	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	3,450,000	〃 〃
計		93,604,429	
(3) 同窓会基金	普通預金	3,630,373	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	12,000,000	〃 〃
	普通預金	139,409	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	12,150,000	〃 〃
計		27,919,782	
(4) 血脇記念基金	普通預金	932,955	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	4,000,000	〃 〃
計		4,932,955	
(5) 名簿積立金	普通預金	1,991,213	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		1,991,213	
(6) 退職積立金	普通預金	2,658,455	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		2,658,455	
(7) 卒後研修セミナー	普通預金	5,694,353	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		5,694,353	
(8) 卒後研修セミナー積立金	普通預金	943,623	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	18,000,000	〃 〃
計		18,943,623	
(9) 時局対策費積立金	普通預金	7,172,072	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	15,000,000	〃 〃
計		22,172,072	
合計		201,501,517	

# 監 査 報 告

平成22年度東京歯科大学同窓会業務運営状況及び経常部収支決算書，特別会計収支決算書（即ち，同窓会基金決算，血脇記念基金決算，共済基金決算，名簿積立金決算，退職積立金決算），卒後研修セミナー収支決算書，卒後研修セミナー積立金収支決算書，時局対策費積立金会計収支決算書，及び財産目録につき諸帳簿，証憑書類を監査した結果適正に処理されていることを認めます。

平成23年6月2日

常任監事 原 武 仁 ⑩

監 事 浅 野 薫 之 ⑩

監 事 柳 澤 孝 彰 ⑩



## 第6号議案

### 財産（備品）廃棄処分目録

1. 電話加入権 1回線

回線が不要になったため。

1. プリンター OKI マイクロライン 1台

平成13年に購入し、年数経過と共に故障が多くなり使用に耐えられないため。

1. ホワイトボード 1台

平成13年に購入し、年数経過と共に使用に耐えられないため。

## 第7号議案

### 機構改革に係る東京歯科大学同窓会会則 一部変更を求むるの件

## 第8号議案

### 会務運営に係る東京歯科大学同窓会会則 一部変更を求むるの件

## 第9号議案

### 四谷支部と牛込支部の合併の承認を 求むるの件

平成23年4月13日 四谷支部支部長と牛込支部支部長より

「支部合併承認の御願い」提出

平成23年4月16日 第2回理事会にて承認

## 平成24年度事業計画

### 総務・厚生部

1. 諸会合の準備・調整並びに運営を行う。
2. 会員現況の把握並びに名簿の補充完備を図る。
3. 母校・父兄会・学生との連携を図る。
4. 同窓会改革をすすめ、そのための会則等の見直しを行う。
5. 支部・地域支部連合会、学年代表者との情報交換を促進する。
6. 支部未入会者対策を講じる。
7. 母校水道橋移転事業に協力する。
8. 共済制度の健全なる運営を行う。
9. 会員厚生および親睦の充実を図る。
10. 同窓会員緊急時 代診制度の運営を行う。

### 渉 外 部

1. 各歯科大学同窓・校友会との交流を図り、緊密なる友好を深める。
2. 会員の歯科医政関係者との緊密な連携を保ち医政の推進を図る。
3. 母校との連携のもとに国・公・私的機関等と協力し、人材の確保、育成に努める。
4. 渉外活動に関する情報交換を進め、全国レベルでの情報の共有と集約を図る。

### 広 報 部

1. 会報を年5回発行し、会員との情報交換を図る。
2. 新入会員名簿・会員住所変更訂正版名簿を出版する。
3. ホームページの維持管理を行う。

### 事業推進部

1. 歯科保健・医療制度・生涯研修などの調査、情報提供などシンクタンク機能の推進をする。
2. 若手同窓を対象とした事業を企画、開催する。
3. 大学との連携のもと、同窓の診療所を活用するシステムを構築する。  
(学術関係)
  1. TDC 卒後セミナーを開催する。
  2. 地域支部連合会・支部における講演会、研修活動を支援する。
  3. 各大学の同窓会学術担当者と情報交換、学術事業交流を行う。
  4. 学術情報の収集、分析および提供を図る。
- (保険関係)
  1. 医療保険関係者等との交流を行う。
  2. 各支部の医療保険請求に係わる情報の収集および発信をする。

第11号議案

平成24年度入会金について

平成24年度 入会金現行通り本学出身の会員5,000円, 推薦会員50,000円

第12号議案

平成24年度会費について

平成24年度 会費現行通り 18,000円

第13号議案

平成24年度 東京歯科大学同窓会

経常部収支予算

自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

(収入の部)

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科目	平成23年度 予算 円	平成24年度 予算案 円	前年度との 比較 円	対比 %	摘要
会費	103,910,000	97,450,000	6,460,000	93.8	平成22年度以前分 490人 8,353,800 平成23年度分 1,015人 18,270,000 平成24年度分 3,935人 70,830,000
入会金	740,000	740,000	0	100.0	新卒者 5,000 128人 その他 50,000 2人
雑収入	1,850,000	1,700,000	150,000	91.9	会報広告料他
収入計	106,500,000	99,890,000	6,610,000	93.8	
前年度繰越金	25,000,000	10,000,000	15,000,000	40.0	
合計	131,500,000	109,890,000	21,610,000	83.6	



## (支出の部)

科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	前年度との 比較	対比	摘 要
	円	円	円	%	
事務費	37,980,000	37,320,000	660,000	98.3	
給与費	23,150,000	22,480,000	670,000	97.1	事務職員
福利厚生費	270,000	930,000	△ 660,000	344.4	役員等傷害保険
地代家賃	4,200,000	4,230,000	△ 30,000	100.7	同窓会室、駐車場
通信費	1,760,000	1,750,000	10,000	99.4	
印刷費	1,460,000	1,460,000	0	100.0	
備品購入費	600,000	600,000	0	100.0	
消耗品費	400,000	400,000	0	100.0	
集金手数料	4,680,000	4,010,000	670,000	85.7	
保守管理委託費	1,190,000	1,190,000	0	100.0	
雑費	270,000	270,000	0	100.0	
事業費	75,550,000	62,200,000	13,350,000	82.3	
旅費交通費	28,270,000	24,280,000	3,990,000	85.9	
総務・厚生関係費	12,110,000	3,350,000	8,760,000	27.7	
渉外関係費	3,090,000	2,090,000	1,000,000	67.6	
広報関係費	14,900,000	13,770,000	1,130,000	92.4	会報部分的カラーページ他
事業推進関係費	4,280,000	5,330,000	△ 1,050,000	124.5	若手支援対策
会合費	1,000,000	1,000,000	0	100.0	
連合会・支部関係費	0	3,450,000	△ 3,450,000		総会時助成金他
交際費	9,040,000	5,400,000	3,640,000	59.7	
慶弔費	1,930,000	1,930,000	0	100.0	
雑費	930,000	1,600,000	△ 670,000	172.0	
会議費	3,450,000	2,750,000	700,000	79.7	
役員会費	100,000	100,000	0	100.0	会議費
評議員会費	1,600,000	1,200,000	400,000	75.0	
総会費	700,000	500,000	200,000	71.4	
支部長会費	100,000	0	100,000	0.0	
学年代表者会	600,000	600,000	0	100.0	
雑費	350,000	350,000	0	100.0	
特別会計繰入金	5,840,000	4,840,000	1,000,000	82.9	
同窓会基金	740,000	740,000	0	100.0	
血脇記念基金	100,000	100,000	0	100.0	
名簿積立金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	
退職積立金	3,000,000	2,000,000	1,000,000	66.7	
支出計	122,820,000	107,110,000	15,710,000	87.2	
予備費	8,680,000	2,780,000	5,900,000	32.0	
合 計	131,500,000	109,890,000	21,610,000	83.6	

第14号議案

平成24年度共済負担金について

平成24年度 共済負担金現行通り 3,000円

第15号議案

平成24年度 東京歯科大学同窓会

同窓会基金収支予算

自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

(収入の部)

(支出の部)

科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要	科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要
繰入金	円 740,000	円 740,000	経常部より	次年度繰越金	円 29,150,000	円 29,920,000	
雑収入	80,000	30,000	利息他				
収入計	820,000	770,000					
前年度繰越金	28,330,000	29,150,000					
合計	29,150,000	29,920,000		合計	29,150,000	29,920,000	

平成24年度 東京歯科大学同窓会

血脇記念基金収支予算

自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

(収入の部)

(支出の部)

科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要	科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要
繰入金	円 100,000	円 100,000	経常部より	次年度繰越金	円 5,080,000	円 5,190,000	
雑収入	10,000	10,000	利息他				
収入計	110,000	110,000					
前年度繰越金	4,970,000	5,080,000					
合計	5,080,000	5,190,000		合計	5,080,000	5,190,000	

平成24年度 東京歯科大学同窓会

共済基金収支予算

自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

(収入の部)

科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要
共済負担金	円 19,090,000	円 18,140,000	平成22年度以前分 520人 1,849,200 平成23年度分 1,110人 3,330,000 平成24年度分 4,320人 12,960,000 合計 5,950人 18,139,200
雑収入	250,000	100,000	利息他
収入計	19,340,000	18,240,000	
前年度繰越金	88,150,000	80,240,000	
合 計	107,490,000	98,480,000	

(支出の部)

科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要
共済金	円 18,450,000	円 18,350,000	弔慰共済金 12,000,000 (100,000×120件) 罹災共済金 2,000,000 (火災・風水害・地震) 80歳祝金 4,200,000 84人 100歳祝金 150,000 3人
事務費	240,000	240,000	弔慰金振込手数料、祝金送料等
予備費	6,000,000	6,000,000	
給付準備金	82,800,000	73,890,000	
合 計	107,490,000	98,480,000	



平成24年度 東京歯科大学同窓会

名簿積立金収支予算

自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

(収入の部)

(支出の部)

科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要	科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要
繰入金	円 2,000,000	円 2,000,000	経常部より	次年度繰越金	円 4,020,000	円 6,030,000	
雑収入	10,000	10,000	利息他				
収入計	2,010,000	2,010,000					
前年度繰越金	2,010,000	4,020,000					
合計	4,020,000	6,030,000		合計	4,020,000	6,030,000	

平成24年度 東京歯科大学同窓会

退職積立金収支予算

自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

(収入の部)

(支出の部)

科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要	科目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘要
繰入金	円 3,000,000	円 2,000,000	経常部より	次年度繰越金	円 5,690,000	円 7,700,000	
雑収入	10,000	10,000	利息他				
収入計	3,010,000	2,010,000					
前年度繰越金	2,680,000	5,690,000					
合計	5,690,000	7,700,000		合計	5,690,000	7,700,000	



## (支出の部)

科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要
事務費	円 1,100,000	円 1,100,000	
通信運搬費	800,000	800,000	プログラム発送・セミナー案内葉書 他
消耗品費	200,000	200,000	
雑費	100,000	100,000	
事業費	22,400,000	22,600,000	
講師謝礼費	5,000,000	5,000,000	1. 講師 4,000,000
講師旅費交通費	1,500,000	1,500,000	2. 実習講師 1,000,000
資料作成費	1,700,000	1,700,000	講師旅費交通費、宿泊費、委員旅費交通費
実習器材費	6,500,000	6,500,000	1. 実習用資料 1,000,000
役務費	1,900,000	1,900,000	2. 講演用資料 700,000
設営費	2,500,000	2,500,000	1. 実習用器材 5,500,000
印刷広報費	900,000	900,000	2. 講演用器材 1,000,000
受講証関係費	100,000	100,000	1. セミナー役務 900,000
広告費	1,400,000	1,600,000	2. 運営役務 400,000
渉外費	700,000	700,000	3. 実習インストラクター 370,000
会場費	200,000	200,000	4. 症例発表 230,000
公租公課	400,000	400,000	1. スライド関連費 400,000
			2. 運営資材費 800,000
支出計	23,900,000	24,100,000	3. 演者・委員昼食 500,000
予備費	220,000	2,144,000	4. 消耗品費 800,000
合 計	24,120,000	26,244,000	研修用プログラム印刷 他
			雑誌広告 他
			講師打合せ会費 他
			消費税



平成24年度 東京歯科大学同窓会  
 卒後研修セミナー積立金収支予算

自 平成24年 1月 1日  
 至 平成24年12月31日

(収入の部)

(支出の部)

科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要	科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要
雑収入	円 50,000	円 20,000	利息他	繰入金支出	円 200,000	円 200,000	卒後研修 セミナー繰入
				次年度繰越金	18,480,000	18,300,000	
収入計	50,000	20,000					
前年度繰越金	18,630,000	18,480,000					
合 計	18,680,000	18,500,000		合 計	18,680,000	18,500,000	

**第17号議案**

平成24年度 東京歯科大学同窓会  
 時局対策費積立金予算

自 平成24年 1月 1日  
 至 平成24年12月31日

(収入の部)

(支出の部)

科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要	科 目	平成23年度 予算	平成24年度 予算案	摘 要
繰入金	円 8,000,000	円 2,000,000	経常部より	次年度繰越金	円 35,170,000	円 37,210,000	
雑収入	50,000	40,000	利息他				
収入計	8,050,000	2,040,000					
前年度繰越金	27,120,000	35,170,000					
合 計	35,170,000	37,210,000		合 計	35,170,000	37,210,000	

第18号議案

平成24年度 名誉会員の推薦

本会会則第22条第2項並びに同施行細則第10条第1項一号に基づき次の会員を  
本会名誉会員に推薦する。

東京歯科大学名誉教授 下 野 正 基 氏  
東京歯科大学 病理学講座  
(平成23年3月31日退職)  
平成23年4月1日 東京歯科大学名誉教授

東京歯科大学名誉教授 山 田 了 氏  
東京歯科大学 歯周病学講座  
(平成23年3月31日退職)  
平成23年4月1日 東京歯科大学名誉教授

東京歯科大学名誉教授 山 根 源 之 氏  
東京歯科大学 オーラルメディシン・  
口腔外科学講座  
(平成23年3月31日退職)  
平成23年4月1日 東京歯科大学名誉教授

東京歯科大学名誉教授 金 子 讓 氏  
東京歯科大学 歯科麻酔学講座  
(平成23年6月30日退職)  
平成23年7月1日 東京歯科大学名誉教授

第19号議案

役 員 改 選

## 協 議 題

- (1) 東日本大震災被災同窓会員への今後の支援について  
震災から8ヶ月以上が経過し、被災同窓への支援についても直後の支援とは異なってまいります。そこで、今後の支援としてどうあるべきかについてご意見を賜りたく協議題として上程いたします。
  
- (2) 会費の過年度分未払いの件について  
過年度分未払いに対する会費徴収については、以前より多くの議論がされており、今後の方策を考える上で諸問題を整理する必要があります。そこで、協議題として上程し、問題点やご意見ご提案を賜りたいと考えております。
  
- (3) その他